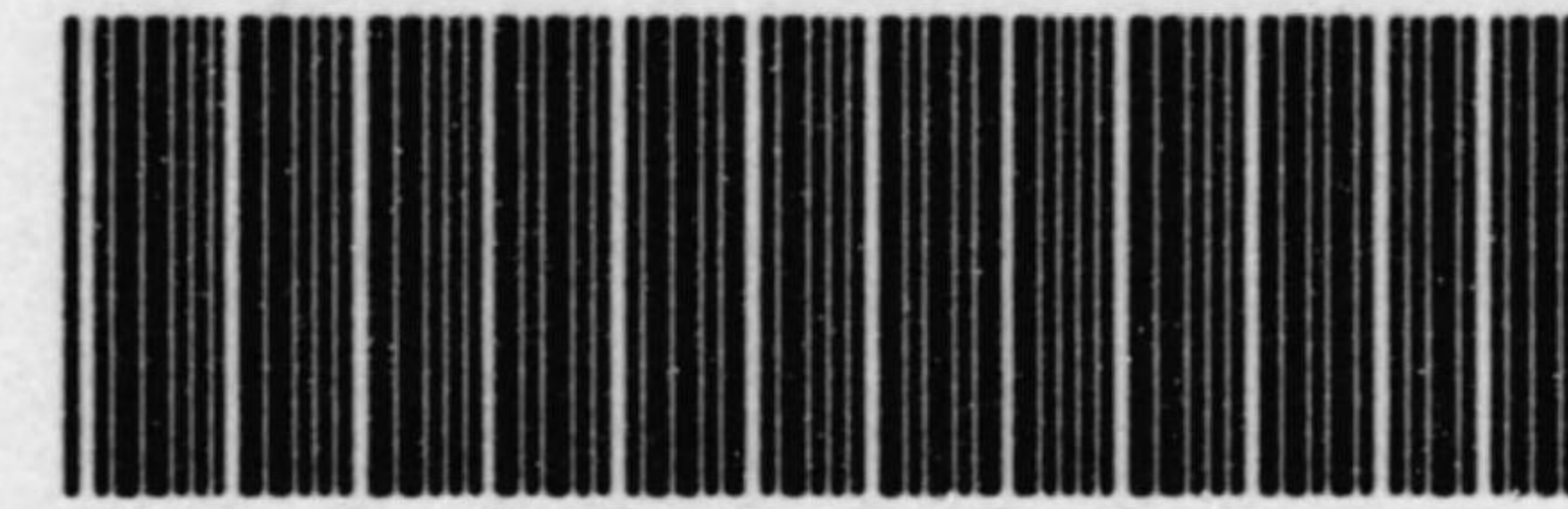


263.7  
187



\* 0 0 4 7 9 4 6 0 0 1 \*

2

0047946-001

263.7-187

高等小学農村の家事教授

林勇記・著

三元堂書店

第1・2学年 上、下巻

昭和9

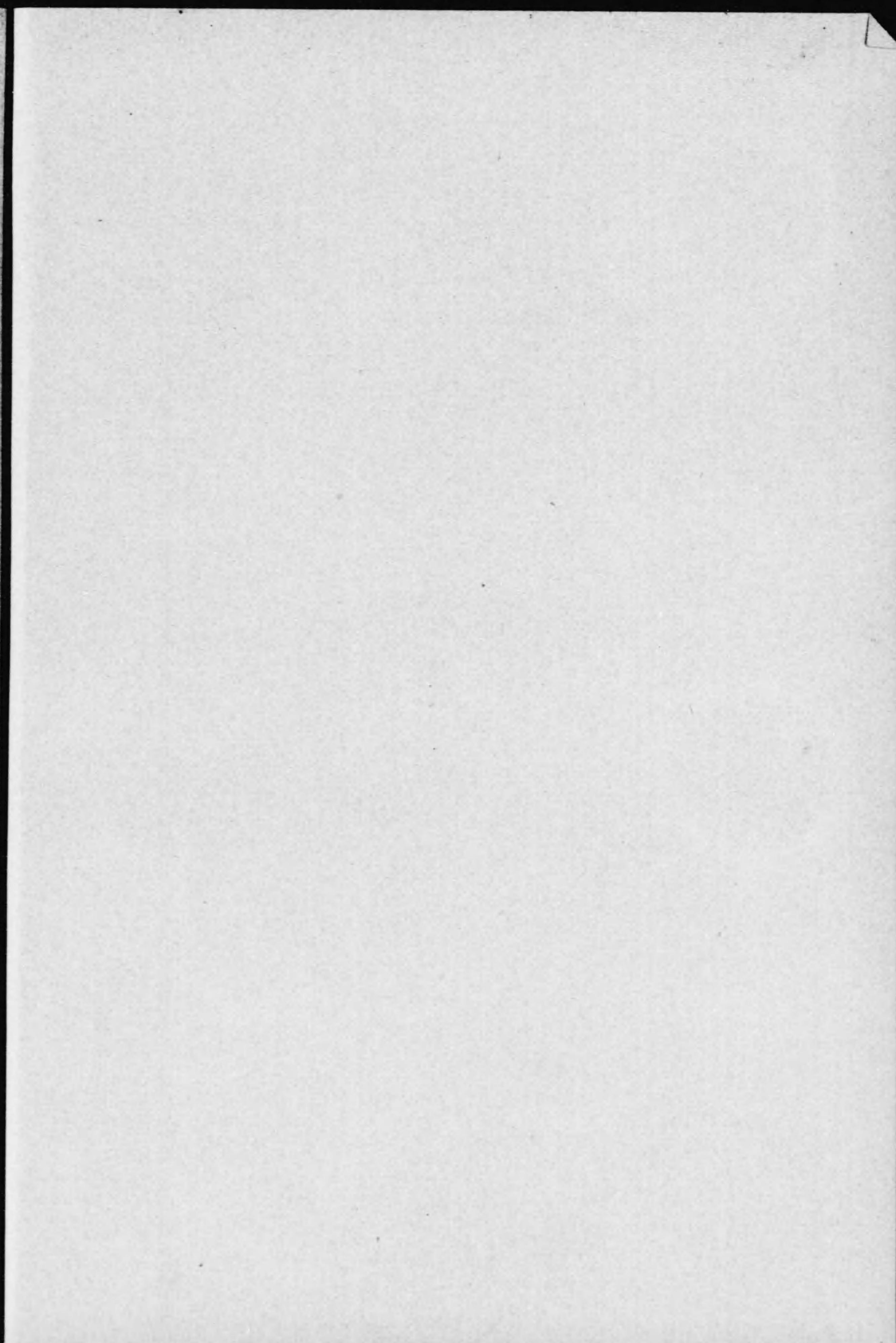
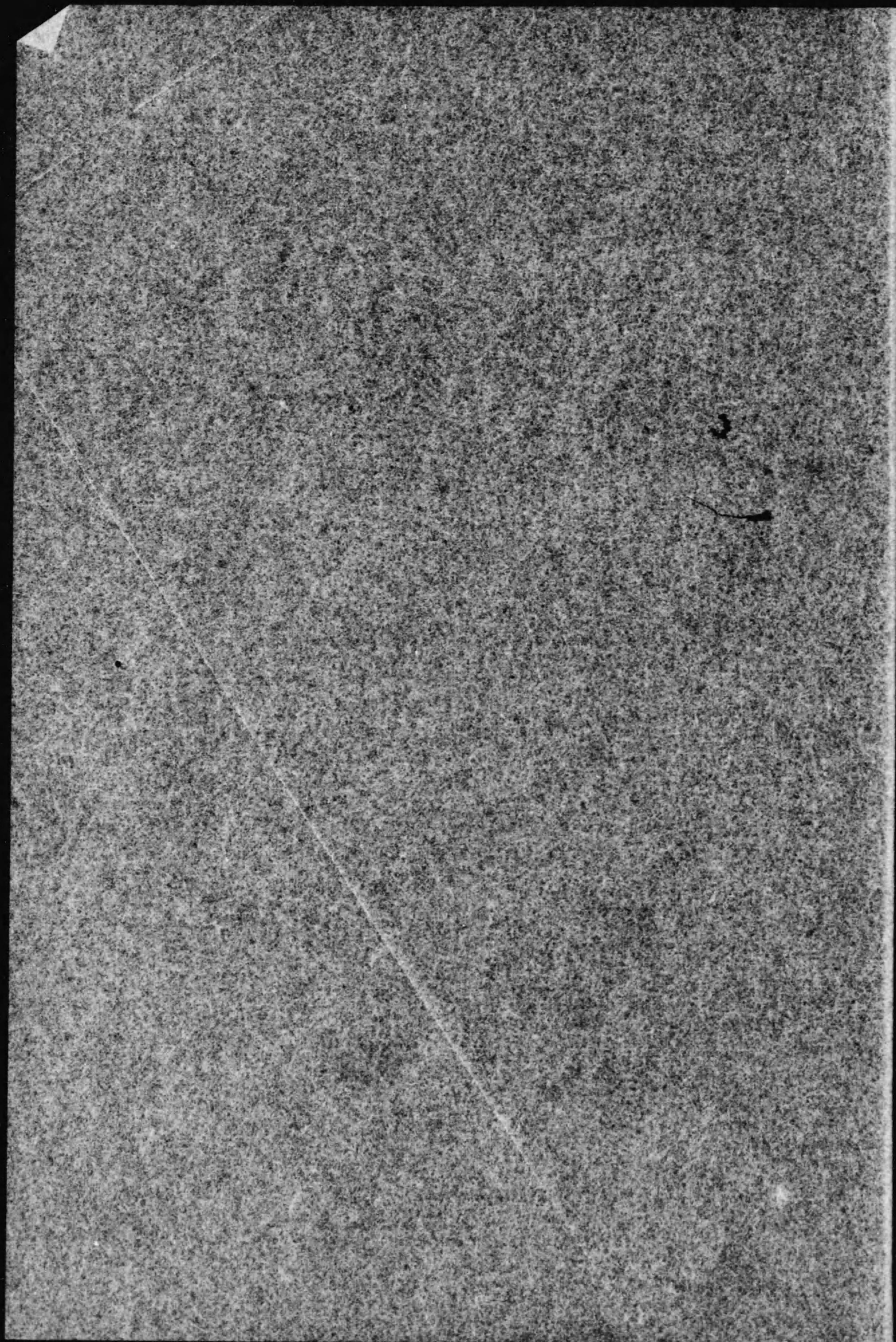
AHH

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法  
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日  
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。



273







佐々木秀一序  
林勇記著

上卷



辰村の家事教授



東京 三元堂書店發兌



263-187  
17

### 家事裁縫教育の根本方針 (序に代へて)

教育は文化活動であり、価値、目的、理想といふ概念を豫想するものである。之等を離れて教育はあり得ない。教育の本質は一定の価値、目的、理想への上向的活動といふ點に存する。然し乍ら一面に於て価値は素材を、目的は事實を、理想は現實を是また明らかに豫想する。従つて教育は社會的歴史的事實の上に立つて、之を理想と価値とへ可及的効果的に接近し向上せしめることを以てその使命とすべきである。

若し歴史的情勢と社會的諸關係とを無視して教育の事業を企てる者があつたならば、それは文字通り空中に樓閣を築かんとする類であり、之は教育そのものの本質からみて當然反省すべきことがらである。

然るに翻つて我國教育界の現状を顧みる時、この社會生活への顧慮と歴史的事



業への關心に於て、著しく缺けてゐる所のあることは、我々の齊しく認めざるを得ない事實である。明治五年八月に學制が發布されて以後、我國の教育は史上から見ざるほどの大膽さを以て一切の傳統を放棄し、敢然として海外の新文化を移入し、大正十二年大學令が發布される迄の半世紀間に、我國文化の水準を見事世界の第一線にまで躍進させたのであつた。

この間の目覺ましい活動は實に世界歴史上の一大驚異といふことができよう。少くともこの間に於ける我國の教育は、當時の國家社會的生活の實情と歴史的推移の事業との要求するところに或程度まで適合してゐたと云ふことができる。

けれどもそれは、當時の我國教育者が社會の實情と歴史の必然的推移とに對する鋭い洞察と廣い展望との上に立つて、賢明に思慮深く之を指導したと云へるであらうか。おそらくは否。それは現時の社會狀勢、歴史的時點に於て、教育界が面せねばならなくなつた多くの問題が雄辯に物語つて居る。

我國教育界は、この半世紀の間に我國が歩んだ偉大なる國民生活の波に乗つて、何事にも思慮なく、達識なく、唯押し流されて來たものと云へよう。この點に關し家事裁縫科の如き實際的教科に於て甚しく遺憾を感じる。思ふにこの科の如くに國民の實生活、社會の實情、歴史の歩みと密接不離な關係に立つ教科はない。若しその經營と指導とが、廣く確實な展望と深く鋭い洞察との上になされるならば、女子教育に於ける中心的統一的教科とするに足りるものと思惟される。

然るに何よりも大切なこの二點の支持が缺如してゐるがために、家事裁縫科の内容には幾多の矛盾が含まれてゐる。この矛盾には時代的錯誤もあり、構成部分相互の撞着もある。即ち或ものは徒らに舊き傳統の殻を守り、時に新しい試みがあつたかとみれば、それは他の部分と何等有機的統一調和を顧慮されない異分子であり、更にこの内容の分裂と矛盾とは、そこに眞の深い統一原理が発見されない限り、今後ますます深まり強まつて行くに相違ない。



序に代へて

云ふ迄もなく家事裁縫科の使命は全體として見た生徒の實際生活の指導と向上とに存する。従つてそれは第一に、教科を構成する各部分の機械的な、寄木細工式な蒐集堆積ではない。有機的に結合統一された全體でなくてはならない。而して生徒の實生活は學校の實修室や教場で營まれる生活ではなく、彼等の家に於ける日日の生活そのものであらねばならない。寝ね、起き、食ひ、働く生活これである。

思ふにこの生活は夫々の家に於て各々獨立に、他と孤立して營まれるものではない。従つて家事裁縫教育は第二に、一家族内に於けるのみの生活でなく、社會の、國家の全體に有機的實生活内に有機的に内屬する生徒の實生活の指導に任ずるものでなくてはならない。

而して第三にかくの如き生徒の全體的實生活は一切の歴史關係と没交渉に存在し且つ營まれるものではない。

現在から過去を奪ふことは凡ての場合に於て、その存在そのものを奪ふことであり、將來を取去ることは存在の意義を取り去ることである。それ故に、生徒の全體的實生活は、歴史的全體に於て眺められねばならない。かくの如くにして生徒の實生活は、臥床に寝ぬ食卓に坐する、眞の意味に於けるレアルな姿に於て、之を國家社會生活の實情と歴史との有機的部分として眺めてはじめて「全體的」に理解することができるのである。

されば過去及現在の我國家事裁縫教育の當路者に缺けてゐたもの、缺けてゐるもの、而も最も重要なものは、専門の豊かな知識でも、教授のすぐれた手腕でも、經營の周到な設備でもない。それ等も勿論必要である。然し乍らこの方面へ向つての努力は、凡ての眞摯なる實際家によつて從來も怠られて來たわけではない。之は獨り家事裁縫科のみならず教育のあらゆる分科に於て云はれることである。これが現在教育の苦悶なのである。故に、この苦悶を克服して眞にその教育的使

序に代へて



序に代へて

命に適つた家事裁縫科整備の道は、努力を拂ひつゝも從來達せられなかつた方面に求められねばならない。之を與へるものは家族社會國家の實情と歴史とに對する深く鋭き洞察、廣く正確なる展望の他にないと考へるのである。

こゝに、畏友林君の新著成るに際し、平生の所懐を述べて同君に寄せ、以て序文に代へる次第である。

昭和九年の春

佐々木 秀一

自序

小學校に於ける家事教授は文部省の家事教科書の發刊によつて確に活氣を帶びて來た。私はこの教科書が改訂前のものに比して一大躍進をなしたものであることを思ふと共に、以前に各地の女教員會などに於いて立案された家事教授要項なり教授資料などより、教材の選擇並に其の内容に於いて幾多の勝れた點をもつてゐることを考へる者である。だが、それが國定の教科書であるが爲に如何せん其の内容が一般的であつて個性的でなく概括的であつて具體的でない。ゆゑに、これをこのまゝ從來の方法で教授するに於いては、折角活氣を帶びて來た家事教育も案外空粗な實質を形成するではないかと考へるものである。

特に我國人口の六割以上を占むる農村の小學校に於いて、之を個性化し具體化して取扱ふことを忘れたならば、實につまらない家事教授が現出すると共に、之

自序



自序

を國家的にみて容易ならざる女子教育が現出するものと私は憂へてゐる。  
 そこで、私は先づ之を高等小學校の教育、特に女兒教育並に農村女兒の教育から出發して、農村の家事教授の行く手に、極めて大膽卒直な一發案を提供したものが本書である。勿論、今日、私は之を以て完璧のものとして考へてはゐない。否、大いに大方諸君子の示教を蒙らねばならぬことを思ふものではあるが、さりとて、從來の家事教育界の趨向に對し一の革新を希望する熱意を全篇隨處に漲らして以て之を江湖に問ふも無用の業ではあるまいと思ふ。幸に諸君子の是正を賜らば幸甚である。

昭和九年四月櫻咲く日

家事及裁縫社編輯局にて

著者しるす

例言

- 一、私は農村の現状を知る者であると共に農村家事教育の研究者の一人である。本書は私が先に著作した家事教授論に就いて、特に小學校家事教授案を日本の教育界に送らんとした一試案である。
- 一、本書の家事教育論、並に高等小學校女兒教育論は下巻の教育論と併せて一體系をなすものである。
- 一、本書は文部省の家事教科書の各課について私の家事教育論を具體化し、更にそれによつて私の教育論の内容を明らかにしたものである。
- 一、また、實際教授の部分に就ては著者の知人である某々訓導等の經驗に負ふところが多いことを特記する。
- 一、また、右の各課の教授時間は文部省の案に従つたものであるが、一部は私案によつて變更してある。
- 一、なほ、本書によつて、我國家事教育者に最も缺如せる、批判の眼光を養はれんことを望むの餘り參考資料を提供しておいた。

例言



追記

本書成るの日、文部省家事教科書高等二學年兒童用が發刊された。就いてみるに從來の教科書に見得ざる幾多の優れた點をもつてゐるやうである。私は、今、勇躍して之が活用案を練りつゝある。

また、一學年用の教科書に對して試みられた批評にして興味あるものもあるやうであるから、之に關する批判も下巻に於いて記すつもりである。

林 勇記しるす

高等  
小學 **農村の家事教授** 上卷 (第一學年)

目次

第一 教育・農村の家事教育……………一

第二 高等小學校の女子教育……………一八

一 高等小學校女子教育の目標……………一八

二 高等小學校の女兒とその教育 その一……………二六

三 高等小學校の女兒とその教育 その二……………三六

四 高等小學校の女兒とその教育 その三……………四三

五 農村の家事科教師……………五〇

目次



**第三 高等小學校に於ける家事教授**……………五七

一 尋常小學校と家事科……………五七

二 高等小學校の家事科……………六四

三 生活改善運動と家事科……………七〇

**第四 高等小學校の家事教科書**……………七四

一 理科家事教科書の有つ意味……………七四

二 新家事教科書と世論……………七七

三 新家事教科書の批判……………九一

**第五 家事科教授細目の立案**……………一二四

一 法令上よりの考察……………一二四

二 現代の家事科教授細目……………一二七

三 家事科細目編成の方針……………一二八

**第六 家事科指導の方法に就て**……………一四二

一 指導法の原理……………一四二

二 教育を具體生活から築かうする要求……………一四六

三 説話と實習に就いての考察……………一五一

四 所謂「指導案」の革新……………一五八

**第七 教材の吟味と指導法の研究**……………一六七

第一 課 女子と家事……………一六七

第二 課 掃 除……………一七五

第三 課 繊維と織物……………一八二



目次

第四課 木綿織物 .....一九〇

第五課 白木綿の漂白 .....二〇一

第六課 しみ 抜 .....二〇七

第七課 単衣の全洗 .....二一一

第八課 木綿物の解洗 .....二一七

第九課 麻織物 .....二二一

第十課 人造絹絲織物 .....二二七

第十一課 住 宅 .....二三四

第十二課 井戸と水道 .....二四一

第十三課 電 燈 .....二四六

第十四課 火鉢・ストーブ等 .....二四九

第十五課 燃 料 .....二五四

目次

第十六課 疊・建具と其の手入 .....二六一

第十七課 什器・履物等の手入 .....二六六

第十八課 料理用具 .....二七〇

第十九課 食器とふきん .....二七六

第二十課 食物の成分 .....二八〇

第二十一課 米と米飯 .....二八九

第二十二課 麥と麥飯 .....二九八

第二十三課 味噌汁 .....三〇四

第二十四課 煮 飯 .....三〇九

第二十五課 澄 汁 .....三一四

第二十六課 するとん .....三一九

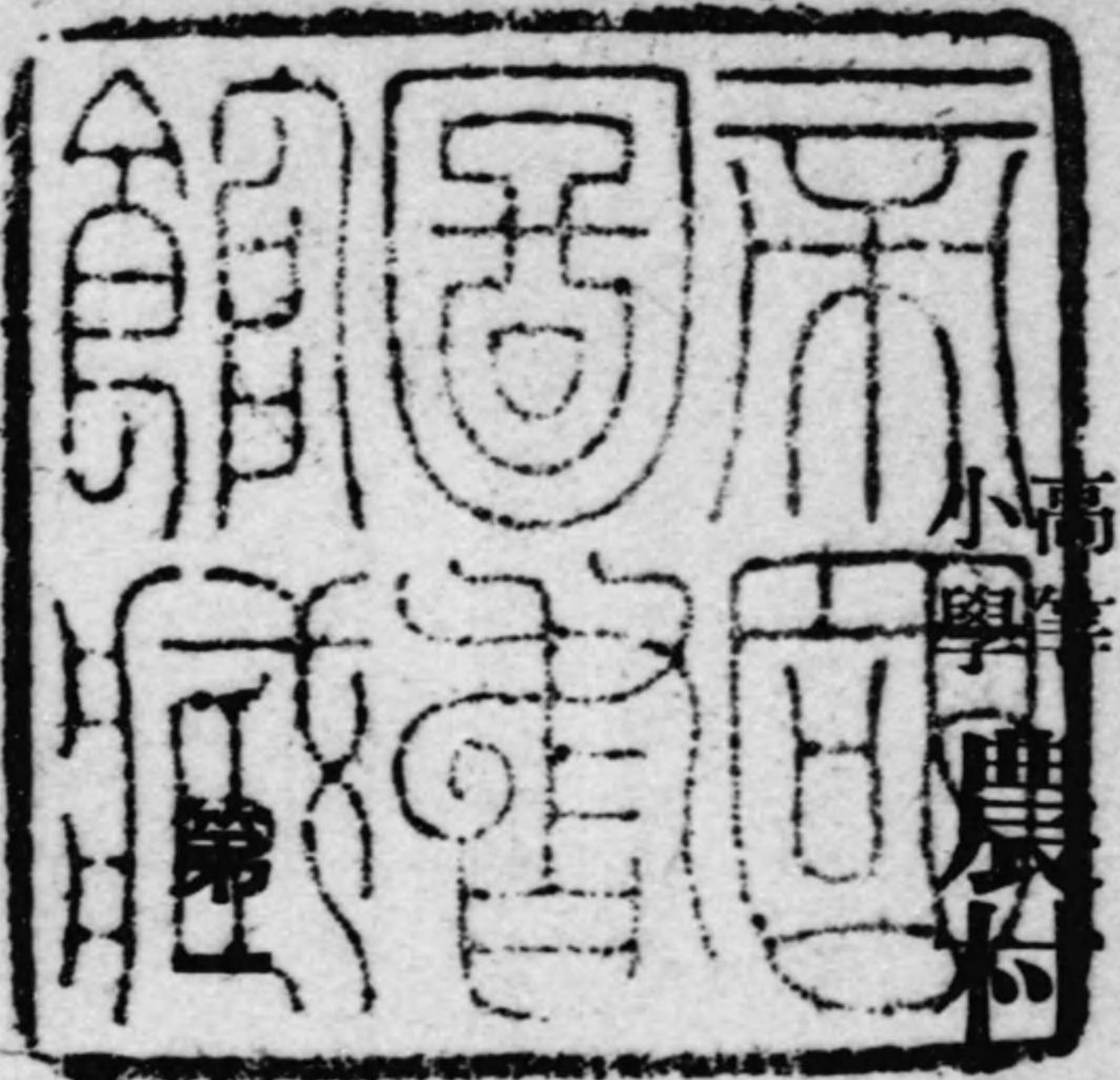
第二十七課 鶏卵とゆでたまご .....三二三



目次

第二十八課	いりたまご	………	三七
第二十九課	煮魚	………	三九
第三十課	焼魚	………	三一

目次終



高小農村の家事教授 上卷(第一學年)

林 勇 記著

教育・農村の家事教育

特殊に於て普遍を観る

敢へて教育に限らないが従來のものゝ觀方はおしなべて抽象的な觀方であつた。哲學的の觀方も自然科学的の觀方も、思へば抽象的な觀方であつた。之に對して今日はもつと具體的のものを觀なければならぬとして人々はそれの觀方に専らである。その謂はれは具體的なものに於いてのみものゝ本質は把握されると考へるに至つたからである。吾々の目的はいふまでもなくものゝ本質を把握するにある。本質は一般性ではあるが、一口に一般性とい

第一 教育・農村の家事教育



つても種々な一般性が考へられる。多くの事實を集めて来て、それらの事實に共通する點を歸納して得らるゝものは抽象的な一般性である。そこには眞の本質は觀らるべくもない。教育革新の行くべき道は具體的一般の意味に於ける教育本質の探究とそれの實踐とにある。

具體的のものを觀るとは、ものを纏まつた全體として觀るのであつて、例へばこゝ一輪の花があつたとする。これを抽象的に見て、色は何色かと色だけを抜き出して見、花瓣は何形かと形だけを抜き出して觀る。それは結局色とか形とかの部分だけを見ることになる。然るにそれとは別に之を「花」として纏まつた一つの全體として見、且つ感じる。そこに花としての本當のものを見ることが出来るのである。意識の教育學が價値の教育學へ、價値の教育學が文化の教育學へ、文化の教育學が民族の教育學へと推移する過程の裡に、吾々は現代教育學に於ける具體的運動の動きを把握するに苦しくないであらう。而してそれは本質把握への動きであるのである。

**郷土は具體的全體である** 凡そ郷土は自然と人間とが握手して、互に觸れ合つてゐる文化關聯である。ゆるに文化の種々な形態は郷土に於いて一個の具體的全體を形成する。久しく原子論的機械觀に立つてゐた舊教育觀は有機的生命觀へと立場を變更することによつて、自己を更生

せんとするものであるが、具體的全體としての郷土は恰もこの立場を變更させる何よりの地盤である。そこに郷土教育の意味が存在する。だが、單にそれは郷土教育のみではない。二十世紀初頭以來の教育革新運動はプロジェクト・メソッドも合科教授も體驗學校も生活學校も勞作學校もすべて幾つかに分割された機械的なる各科教授を一個の未分化的實在の根原に引き戻すことによつて、失はれたる生命を蘇へらせようとする努力に過ぎない。而してこれが現代教育に於ける具體化運動の意味である。眞に普遍的な生命は特殊な存在にのみ宿つてゐるのである。かくして新教育は特殊に於いて普遍を見る具體的一般であるといふことが出来る。

**一般原理と個性的の生活** 學校教育といふものが個人にとつても社會にとつても必要なものであるならば、そこに學校教育といふ特殊な生活様式がなければならぬ。而してその學校教育が如何なる種類の特別の生活を營むべきかは學校教育の存在に重要な問題である。それには學校以外の生活と共通な原理に支配されるといふことゝ、他方には一般社會生活と異なつた生活でなければならぬとする原理が存在するわけである。即ち學校教育と社會生活との關係は其の共通であるべきを認めると共に、相違した存在でなければならぬことを忘れてはならない。いひかへれば



共通的であるべきと同時に個性的であるべきである。

これと同様なことが農村の家事教授にもいひ得ると思ふ。

なる程、飯を炊くにも洗濯をするにも、買物をするにも、都府と農村とに變りはないといへば其の如くにも考へられる。飯は一定の水加減と火加減とによつて出来、買物は必要に應ずべき品質と値段とで買へばよい。栄養素配合の原理さへ知つてゐれば山國の生産でも海濱の生産でも適宜に取合せて立派に食物を造ることが出来る。この點に於いてはたしかに都府もなければ農村もないが如くである。だが、家事教育に於ける抽象的な衣・食・住の原理の教授は決してその兒女の生活の指導をしたといふことにはならない。如何となれば抽象的な原理の教授は生活の基礎を與へることにはならうが、原理は生活そのものではないからである。そこに農村家事教授の存在があるのである。

#### 農村家事教育の存在

原理を原理として授けることは抽象的・一般的な概念を抽象的に授けるといふことで、それは器械的な記憶には便利であらうが「もの」を本當に理解せしめることにはならない。従つて児童生徒の現前の生活を改造することに於いて、少なくともその効果は稀薄であ

る。故に若し教育の効果を最も効果的ならしめんがためには其の原理に到達するまでの道程を重視するところがなければならぬ。道程を重視することは其の出發を児童生徒の生活の具體的な事實におき、そこに具體的にして一般的、而して本質的なものを把握せしめ、やがては歸納して一般的抽象的な原理に到達せしむるをいふのである。かゝる境地に於いては抽象的な原理が具體的生活に確實な基礎を與へることは勿論であるが、萬々一其の抽象的な原理が記憶から喪失されることがあつても、一旦把握した本質的なものは長く生活に基準を與へ生命を與へることを考へ得る。故に生活の具體に即するといふことは、換言すれば事實に具現された原理(原理の宿る事實)に即すること、それこそ吾等の目指す教育の境地であるを信するものである。

これを家事教授の實際に就いて考へるに、例へばこゝに不完全な食物生活をしてゐる者があるとする。家事教育では之を献立の原理に照して合理的に導いて行かうとする。これは勿論生活の事實に即した指導である。が更に從來にない献立を授けて其の生活の改造を企てようとする。この場合郷土の生産に立脚する限りに於てこれも亦生活の事實に即した指導である。如何となれば後者の場合にも其の食品の種類たるや其の土地の生産を基調とするものでなければならぬからで



ある。そこで、私は農村の家事教授はやがては一般的な共通原理によつて基礎付けらるべきものではあるが、其の教授は農村生活といふ具體的事實に即し、そこに具體的一般性(即本質的)を把握する教授であらねばならぬと信ずるものである。而してそこに農村家事教授の存在を信ずるものである。

#### 都市生活と農村生活

事實、農村の生活は決して都市の生活ではない。例へば都市には自己の所有する住宅に住む者の数は少ないが農村はその反対である。農村では裏の畑から大根や葱の新鮮な物を取つて来て調理する者が多いが、都市では葱一本も大根一本も現金で買はねばならぬ。農村には農産物が大抵限られてゐるから食品の種類は割合に單調であるが、都市には各地の物産が集まるから金さへ出せば何でも間に合ふ。従つて食物は割合に變化があるといへる。若し夫れ生活感情の如きに至つては、農村の固定的で山河に親しみ得るに反して都市は移動的で住んでゐる時のみが自分の町であるといふ氣がするに過ぎない。その他、農村社會生活の特性は擧げて述べ盡せるものではないが、要するに特殊な生業と人と而して自然環境とが緊密に結合して、其の生活なり人情なりが生れ其處に一つの個性を示してゐると考へられる。例へば一部落なり一

村なりを考へてみても、都市の如く可動的の人口、多角的な職業、地域的影響の貧弱なところとは全く其の趣を異にする。ゆゑに、其の農村社會の家庭生活を農村的に向上發展せしむべき農村家事教育は農村生活といふ生活事實に即したものでなければならぬ。而して其の個性的な生活研究といふものは儼然たる事實として存在しなければならず、而して其の向上發展は國家社會の文化の向上發展であらねばならぬと信ずるものである。

#### 農村兒童の負ふ國家的要求

都會の兒童が農村を蔑み農村の兒童が都會に撞憬れをもつは事實である。けれどもそれは華やかなものに對する一種の幻影であつて人間生活の本當のものは外にある。若し剛健質實といふことが立派な徳性であるならば、それは農村兒童に多く見られる。輕佻浮薄といふことが人間に忌むべき心事であるならばそれは多く都市の兒童にみられる。けれども輕佻浮薄も都市の兒童が好んで作した傾向ではなく、その環境が然らしめたもので兒童そのものをのみ責むべきではない。庶莫、そこに私は環境の上から形成された教育の事實に顧みて、國家の上からみた頼もしさを田舎の兒童の上に多くを繋がねばならぬことを考へる。従つて女子の教育に於ても、その教育の充實が如何に國勢に影響するかを考へねばならぬと思ふ。左は東京



第一 教育・農村の家事教育

高等師範学校の佐々木教授が奈良の學習研究會に於いて講演された筆記の一節であるが、以上の意味を道破し私の足らざるを補正してゐるものであるから、しばらくそれを借用することにする。

抑も物を見る態度従つて物を扱ふ態度が、一切の學習上に重大關係を有すること、依つて以て又人格の特質にも大なる關係を有することは、未だ多くの人の間に問題とされて居ないのは、誠に不思議なことである。

都會兒童が、先づ言葉をその内容なしに、或は極めて貧弱な内容を有せしめてこれを學ぶこと、又一般に、萬物を陳列的に、横に、皮相的な知識として學んで行かなければならぬことは、その環境上誠に止むを得ないことゝは申しながら、教育がこんな状態では、眞にその目的を達することが出来ないと云ふことに氣が付くものゝ、到底黙するに忍びないことでもあります。殆ど言葉—兒童には空虚な言葉に依つて運ばれる教授—學習、たま／＼繪を見せる、或は殊勝にも實物を用意する、或は往々珍しがらせの結果に終る映畫等を利用する。けれども如何せん、それは遂に、今學ばんとするものゝ自然状態ではありません。悉く死んだものであります。この過程が過ぎ合はされて、毎月の仕事、毎年の仕事が出来て居るところに、どこに人間性の眞髓に、眞の生命を吹き込む機能がありませんか。これに反して、かの往々にして黙々たる地方の兒童は、全く活きた事實を—殊に自然界に關して、先づ感情で捕へて居ります。その事物の來し方、行く末を見て居ます。考へて居ます。萬事を縦に、發生的に學んで居ります、それ故に、これ等

の頼母しい兒童等は、物の現在を見ると共に、必ずその過去を思ひやり、その未來を想像して居ります。これが彼等の頼母しい、萬事を研究しようとする態度であります。小氣のきいた觀察には乏しくとも、物を深く見る用意が長い間の生活に陶冶されて居ります。

幸にして、我が國民性の特質として、如何に灰色のみで圍まれて居る都會地に住んで居る家族でありましても、とにかく猶額大でも、庭園を有して居ます。これが、人間性の荒廢を喰ひ止める、せめてもの頼みの綱であります。

けれども、多くの父兄姉妹は、この深い意義を知りません。そして徒らに都會にあこがれ、都會的なものに眼を奪はれ、又惡時代の入學試験等の爲めに、最愛最貴の子女を餘儀なく苦しめて悟るところがありません。否な學校教師でさへも、この理—直接の生活經驗が、優れた人間開發の絶對的根源であることを知らず、それが全く第一義的教育であり學習であることを知らず、只管第二義的の仕事に努力して居る者の多いことは、これを職業人として見る時に、全く失望しなければなりません。

さて直接經驗の擴張は、この自然界に浸らせることの外に、自然界に於ける生活に因んだ遊戯や作業或は必ずしも自然界生活に因みを求めざる遊戯や作業の擴張を、等しく最も重要な直接生活の部面としなければなりません。

今日遊戯を罪惡視する父兄もなくなりましたのみならず、運動の機運が頗る高まりましたから、その獎勵にはそんなに骨が折れることがありません。唯その指導の方針を教育的にすることを研究すべきであ

第一 教育・農村の家事教育



第一 教育・農村の家事教育

りませうが、作業生活の擴張に就いては、未だその眞の教育的意義を理解し得ない教育者もあるのみならず、一般父兄に至つては、その眞意義を理解するものが甚だ少いと云はなければなりません。曾て下田博士が私の學校の父兄會の折、兒童の爲め細工場を欲しいと提言されましたが、實に至言であります。この要求は恐らく歐米に於ても必ずしも充たされて居りません。けれども、兒童の世紀に於ては、こんな願は漸く充實されなければなりません。

こゝでは私は、偏に地方の兒童に望みをかけましたが、彼等は都會を學ぶ必要があるのみならず、都會の兒童にも、亦それ／＼の長所もあります。

けれども、人間性の深奥な基礎を養ふには、地方が遙に都會に優つて居ることは、信じて疑はないところであります。

私には、今日益々自分が全くの田舎に生れたことを感謝するの念が強くなります。佐々木秀一氏講演筆記、學習研究」

**個性的な文化を尊ぶ** 東京といふ言葉は田舎の人には實に華やかに聞える。これは今も昔も變りはない。而して世人は東京をもつて文化の中心といふ。私も一應は之に賛同する。だが、よく考へてみると東京から帝都といふ事實を除いて考へたら、其の残りのものに向つて吾々の頭の下がるものが果して何れだけあるだらう。なる程大學者もゐる。大政治家もゐる。けれどもそれ

は果して國家的に偉い存在とすることはどんなものであらう。私はそれらの存在は寧ろ農夫の存在と同一に考ふべきであると思ふ。一國として考へ一臣民として考へる場合、將校ばかりで戦争が出来ないと同様に國を擧げて大學者・大政治家・大實業家ばかりの國家は考へ得られない。農夫も矢張り重大な役目を勤めてゐるのである。ゆゑに都市に華やかな文化があるならば農村には地味な農村的な個性的文化がなければならぬと考へる。

この意味を考へると、農村文化が都市の文化に劣つてゐると考へるのは間違つてゐる。都市の文化は多くは外來文化の集合的なもので、それが又特性である。ゆゑに、農村が都市の文化を取入れることによつて農村が向上し得るならば、其の向上に資する部分を取入れることは農村生活の内容のため取るべき道である。然しこの場合も都市文化即農村文化ではなく、其處に農村文化としての特異性を失はざらんことが必要である。従つて都市の文化が一國文化の向ふところの標準である如く考へることは一種の錯覺でしかない。

明治時代に於ける我國の文化は躍進的なものがあつた。けれども之には徳川三百年間に養はれたる我國文化の實際が外來文化を消化し得るだけの素養を高めてゐたといふ重要點を忘れてはな



第一 教育・農村の家事教育

らぬ。と同様に農村の文化は都市文化の或ものを取入れ而して之を咀嚼することによつて農村の生活を文化的に行き素養を忘れてはならぬ。若し之がなければ農村文化の特異性は失はれるであらう。世には徳川三百年間を鎖國の時代として大いに之を非難するものもあるけれども、私は以上の意味に於いて内容的實質的に必ずしも非難すべきでないと思ふものである。

農村家事教育の意義

例へば農村では其の村に生産する米を食べて行く。裏の山の薪を伐つて飯を炊く。これは自然の生活である。だが若しこの農村の食の生活を向上せしめんとするならば其の實情に即しての指導を與へねばならぬ。例へば其の農村に生産する米の養分に即して之に對する副食物を工夫して行かねならず、薪を使用する竈の構造が薪の不經濟を敢へてしてゐるならば之を合理的に改造する指導を怠つてはならない。

群馬縣は榮養改善で有名な縣であるが、同縣は海に縁のない縣であるがために同縣の農村では土地の生産だけでは食物の改善が出来ない。そこで不足な物を他から買入れる。だが、この買入れるものは煮干とか海藻とか胡麻油とかいふ類のもので決して高價なものではない。世には合理的な食物といへば高價であらうと思ふ者もあらうがそれは決して然うではない。のみならず、有

名な榮養改善部落の多井戸區(群馬縣北甘樂郡福島町の一部落)では、榮養改善の結果病人が減じて年額千圓もの醫療費が節約されたといふ成果をみてゐる。煮干や海藻類や胡麻油を購入した爲めに二十數戸で千圓もの醫療費の減額を見たとは驚くべきではないか。これは何れも食物を合理的にする指導をした結果である。

以上の例は私をして農村家事教育の存在を叫ばしめる。而して農村家庭を農村家庭として向上せしめるところに國家的にも社會的にも世界的にも大なる意義が存在するを思ふのである。而して農村は我が國民の大半を占むる事實に徴し、農村の家事教授を説くことを有意義な叫びと信じ且つそれを私の光榮として感謝する次第である。

都會生活者の家庭的悲哀感

私は小學校を地方の小都會に送つただけで、中學校からはズツと東京に住んでゐる。従つて、私が、今田舎の家庭に就て有つてゐる考へが、果してどの程度まで當を得てゐるか、それは自分にも不確かではあるが、自分の幼い頃の追想と、現在この東京といふ大都會の中に育つてゐる自分の子供達の日常生活とを較べて見るのに、どうも田舎の家庭の方が都會の家庭よりもより以上に、所謂家庭生活の味を、泌々享受し得てゐるかに思はれる。

第一 教育・農村の家事教育



第一 教育・農村の家事教育

學校設備の完全、勉學上の便宜、その他校外教科資料の豊富な點など、殊に一般常識を得ることに於て都會の學童が田舎の子供に比しまことに優れた環境に居ることは事實である。しかし、小學校に入る以前の生活、或ひは入學後學校の課業から戻つての家庭生活といふ點から觀ると、都會と田舎の兒童のいづれの生活が幸福であるか、頗る傾首に價しやう。また一方、學校の力以外、子供の能力が都會で著るしく進歩はしても、それが人生行路の上にあつて、最後の勝利となつてゐるかどうか。

都會に於ける家庭生活の美點、言ふまでもなく、それは數々あらう。たゞ、私の痛切に感ぜらるゝことは都會の子供が「**孤獨の生活**」——精神的にも實質的にも——おくるやう餘儀なくされてゐる點である。繁華な商店街の子供は、時に相集うて路上に遊ぶ機會もあらうが、山ノ手屋敷町あたりの子供は殆んどそんな機會に絶無と言つていい。商店街の子供も、たとひ相集うて遊んでゐるとはいへ、その遊びの様式は寧ろ利己心の挑發に資するもの多く、反協同的であつて、内面的には子供に孤獨感を起させる類のものも尠くない。また都會の悪い刺戟をうけ易い境遇にゐる譯でもある。

田舎の子供は凡そこれらと對蹠的な生活の裡にあるのではあるまいか。「雨が降つて來た、小川に目高を追ふてゐた子供がいそいで仲よく家路を辿る——」といふあの童謡を想ふだけでも、暖かくふくよかな田舎の子供の共同生活がまぎ／＼と私には髣髴される。

田舎にはすべてに**共同的**の氣分が漂ふてゐる。「遠い親類より近い他人」といふ諺の眞實が田舎にあつてのみ、隨處に生きてゐる。近所の家が自分の家同様といふ生活形式が、大人の世界は固より子供の

世界にまで深く強く喰ひ入つてゐる。誰か一人子供が病氣する——と心配するのはその子の親だけではない。隣のおばさんもお向ひのおぢさんも心から打ち案じて呉れる。そして、お友達は醫者を迎へに行つたり、薬とりに行つたりして呉れる。幼い頃から、人の親切が或ひは人の共同的な動きの尊さがこのやうにして心の底にまで泌み込むのである。健康になれば、遊びの天地は自分の家だけではない。隣家の茶の間も向ふ屋敷の庭も子供にとっては天下御免、飛んだり跳ねたりの自由である。子供を中心として家庭生活の共同的に徹底してゐる點、田舎に如くものはない。

都會の子供の生活は、一見いかにも楽しさうではあるが、その實そこには絶えず寂しい影がつきまとつてゐる。それは、家庭のなかに都會特有の煩雜な生活形式が反映して、子供の家庭生活に於ける地位がいづも孤獨なためである。(下略)(雑誌「家庭」關屋龍吉氏)

○

第廿世紀に於ける新しい運動、改革運動も種々様々であつたが根本の原理は「多くの數に分科されてゐる各科教授を未だ分科されざる實在の關聯へ復歸させることに縮約される」と思ふ。プロジェクトメソッド、全我的活動、ダルトンプラン、ミネトカシステム、體驗學校、生産學校、全體教育、勞作教育、郷土教育は全部前言の「具體的全體觀の教育」の中にはいる。ペスタロッチは未分化的實在關聯とも云はず極く平凡に「生活が陶冶する」と云つてゐる。ペスタロッチは生活の概念は具體的全體觀であるから人間教育即ち勞作教育である。郷土を背景としたる具體的な勞作であり抽象的でなかつた。唯眞の自覺といふことは六ヶ

第一 教育・農村の家事教育



第一 教育 農村の家事教育

敷しい。それには精進を要する。故に現代の「具體的全體觀の教育」も似て非なるものが多い。原理の眞の認識がないからである。多年合科を研究してゐる授業を參觀して批評するに、合科でなく「カンモドキ」教授である。合科は多元論には意味がない。一元的なものに意味はある。元素の複数は意味を有しない。寧ろ一元的なところに眞の生命が存する。これはよくある現象で似て非なるものである。新しい教育の原理である世界觀に對する理解が缺けてゐることに起因する。若干の元素(要素)を統一の様式にするところに合科の生命があるのである。將來の教育、人類の教育方法は如何になるかと考ふるに、遠き將來への展望がないと妥當な教育は出來ない。今迄の足跡を顧みることによつて將來の展望は不可能でない。人類の將來の教育の形式は學問を忘れて生活とよび得るところの具體的全體觀から人類の生活形式を創作することである。過去三千年の教育形式は「學問より教育へ」と進展した。教育も高等教育が先に發達して初等教育が遅れて發達した。古代のギリシヤを考へてもその通りである。

兎も角も初等教育は遅れてゐる。精神上的の學問、アレキサンドルの數學、自然科學が發展して既成の専門科學を要素として「原子論的機械觀」の上に立つて教育が成立してゐる。

故にこの立場を捨て、「有機的生命線」に立場をかへねば駄目である。誤つた立場に立つた教育を連合した合科教育は結局ダメである。故に立場の變更に迫られてゐる。是非立場の變更が必要である。人類の教育は立場そのもの、變更を要求してゐる。故に眞の教育の秘訣は學問を忘れることである。忘れずしては教育は不能である。即ち生活とよび得る具體的全體觀を創作して行くことである。

「學問より教育」でなく「生活より教育へ」と新しい道に入らねばならぬ。生活から教育を生み出すその道すがら放棄した學問をにじみ出して學問教育に於て活かせることである。物理學があつて光を教へる。この系統が教育の本當のものでない。今は新しい教育への過渡期である。一種の灰色の混合物の教育相である。「學問から教育」であつたのが「生活から教育」を産み出すこの混線状態である。生活に着眼して「學問より教育」の弊害を除去する時である。此の二つがクロスした交叉點に現代は立つてゐる。現代の人類の教育は灰色の混合物である。大膽に決意を持つて「生活より教育」を産み出さねばならぬ。故に立場の變更が必要である。

明日の教育の爲めには非常なる決意を以て「原子論的機械觀」から「有機的生命觀」に變へねばならぬ。

人類三千年の教育を概観して將來の教育を展望すること「具體的全體觀の教育」へ變更せねばならぬ。(兵庫教育、長田新氏講演筆記)

第一 教育・農村の家事教育



## 第二 高等小學校の女子教育

### 〔一〕 高等小學校女子教育の目標

高等小學校の目的 我が國高等小學校教育の目的は尋常小學校のそれと全く同一とみるべきで、法令上に別段の區別はない。即ち、小學校令第一條に

小學校ハ兒童身體ノ發育ニ留意シ、道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

と標示してある外、別に尋常小學校に關してとも高等小學校に關してとも、その目的に關しては格別定むるところがない。高等小學校を尋常小學校と區別し、而も中等諸學校には尋常小學校卒業兒童を入學せしむべく規定しながら、高等小學校の目的を特に標示しないことは大いなる缺點の如くにも見えるが、然し、それは同一目的であるがゆゑに特記しないと解すれば、解せられぬで

もない。事實、従前の高等小學校なるものは單に尋常小學校の延長であつて、やがて來るべき義務教育年限八ヶ年を目指しての豫備の如くにも考へられてゐた。従つて其の教育の實際は尋常小學校の教科内容を少しく高尚複雑化した以外には、殆んど何等の違ひはなかつたのである。

而して、事實、中等諸學校に入學すべき兒童を含んだ十二歳までの兒童の教育と、之を卒へれば直に實務に従事すべき豫想を有つ十四五歳の兒童の教育とを、同一目的且つ同一組織の下に教育することは甚だ困難なことであり、又決して當を得たものではなかつた。これが従來の高等小學校の教育を不徹底なものたらしめ、且つまた其の効果を擧らざらしめた所以であつて、大正十五年の規定改正はこの缺點を補ひ、且つ時代の趨勢に適應せしめんとしたものである。けれども此の改正も特に高等小學校の目的を定めたものではない。教科課程と教員の配置とに變更を加へて實質的に其の効果を擧げんとしたもので、之を文部大臣の訓令にみるに

高等小學校ノ教科目ニ關シテ、從來ノ必修科目ノ外ニ、圖畫、手工及實業ヲ加ヘ、女兒ニ對シテハ裁縫ノ外別ニ家事ヲ必修セシメ、且手工ニ於テ簡易ナル程度ノ手藝ヲ課スルコト、セリ。蓋シ高等小學校ノ兒童ハ、其ノ卒業ノ後多クハ社會ノ實務ニ従事スベキモノナルヲ以テ、其ノ



第二 高等小學校の女子教育

教育ノ内容ヲシテ、實際生活ニ一層適切ナラシメンコトヲ期シ、以上ノ改正ヲ施シタルナリ。右ノ外算術ニ於テ數ノ代數的計算幾何圖形ニ關スル知識ヲ授ケ、珠算ヲ必修セシムルコト、爲シタルガ如キモ亦同様ノ趣旨ニ外ナラズ。

(中略)今回ノ改正ガ高等小學校ニ於テ實業ヲ必修科目トシ、以テ實際生活ニ適切ナル教育ヲ施スコトヲ主眼トシタルニ拘ラズ……

又前述ノ趣旨ニ基キテ改善ノ實績ヲ學ゲムトスルニハ教員其ノ人ヲ得ルヲ以テ最大要件ト爲スとある。要するに其の趣旨は時勢ノ要求に應じ其の教育をして實際生活に即せしむべきことを趣旨としてたもので、換言すれば職業的公民的の陶冶に深く意を致すべしとの趣旨である。卒業後、家庭に在つて父兄の職業を助け母の仕事を手傳ふことを豫想すると共に、やがては自治體の一成員として活動するを豫想すべき兒童の教育として、此等に對する興味と理解とを得しむるよう導くべしとすることは素より當を得たる改正といふべきである。

高等小學校の特異點

以上のことを考へれば尋常小學校の教育の程度を高めたものを直に高等小學校の教育とすべしとするは甚だ當らない。實際生活に即すること實社會への聯關を濃厚に

企圖すべきこと、而してそれは兒童にとつては完成の教育であり行き止まりの學校であるべきことが妥當の見解といへる。勿論、實際問題として高等小學校に學ぶ兒童にして他の學校(例へば中學校・高等女學校・師範學校等)に入學するものもあるであらうが、それは本態とすべきではない。さればといつて高等小學校を以て或階級の兒童を限つて收容すると考へるのも誤りである。例へば中等學校に入學せしめ得ざる無資力者の子弟も入學するであらうが、相當の資力を有する者の子弟も入學するであらうから、決して階級を限つた學校とみるべきではない。故に高等小學校の教育といふものは土地の狀況、家庭の要求、兒童將來の方向等によつて必ずしも畫一を要求すべきでなく、而してそこに學校の特異性を確持すべきであると思ふ。例へば廣島高等師範學校附屬小學校の兒童募集方針として雑誌「學校教育」(一六八號)に出たものには次の如きがある。「當校に於ける高等科兒童募集の方針を大體次ぎの様に決めたのである。即ち尋常小學校を卒業して更に中等諸學校へ進み得る階級のもの、及び尋常小學校卒業後直ちに實務に就かねばならぬものは之を入學させぬこととし、これ等兩階級の間にあつて中等諸學校には種々の事情から入學することが出來ず、それかといつて直に實務に就かせるにも及ばぬ。高等科だけでも卒

第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

業させたいといふ家庭の子弟を普ねく募集して高等小學校の學級を編成しようとしたのである。従つて現に入學してゐる高等科の兒童は眞にこの高等小學校の課程を完全に修了する意志のあるものだけであるといつてよい。」

これは廣島市といふ都會地に於ける附屬小學校の企圖した高等科兒童の募集方針であるが、それだけ其の學校といふものに特異性が明瞭である。

更に之を農村に就いてみるに、そこには方針を定めて兒童を募集することはなくとも、或少數の者を除いては多くは農家の子弟であり、従つて日常農業に親炙するものが多いことは事實であり、それ等の子弟が二箇年の完成教育を受けんとする意志のあることも事實である。ゆゑに、そこに農村的な色彩を濃厚に有ち得べきはいふまでもない。

女兒教育の方針 人、口を開けば普通教育に於ては人としての圓滿なる陶冶を全精神とすべしといふ。然らば其教育の實際は此の精神の具現であるかといふに必ずしも然りといへないものが多い。例へば一定の教科書を詰込むために一箇年の日子を維れ日も足らずとして強要してゐる。

國語の教師は國語讀本を數學の教師は算術教科書を、理科の教師は理科の教科書を詰込まんとし

て最善の努力を拂つてゐる。その結果は記憶力のある者が優等生といふことになり中には考査の時間をうまく切抜けることを目標としてゐるものもないではない。こんなことでは折角の基礎も一般陶冶も其の聲の大なるに似ず其の効果は極めて少ない結果となる。それが證據には一旦其の學年を經過して記憶した知識を忘却してしまへば又もとの默阿彌になる。だが教育といふからには、よしんば其の知識は忘れても人としての魂に通ふところのある教育でなければならぬと思ふが、これが現代の教育に忘れられ勝ちであることは悲しむべきことである。

而して若し以上の弊害の多い教育を男子の教育として、その一段低程度の教育が女子の教育であるといつたら、誰しも理論的には之を否定しないでは居られぬであらう。けれども、事實はそれが従來の女子教育であつたとしたら、之は頗る悲しむべきことであらねばならぬ。島崎藤村先生は私の中學時代の恩師であるが、曾て私の歴史物語に序文を書いて下さつた。その一節に曰く「少年から青年にうつりかける年頃が人の一生に二度とないやうに、さういふ年も若く柔く感じ易い時代に、好い讀物から受けた影響は長く忘れられますまい。少年諸君よ。自ら進んで好い讀物を選択して下さい。澤山知つて、澤山忘れて下さい。そして大きくなつて下さい」と。實に意



## 第二 高等小學校の女子教育

味深長なものがある。忘れることは決して軽くみるべきではないが、さりとて恐るべきことではない。而してこの場合、最も恐るべきは大きくなれないといふことであるべきである。これが陶冶の問題なのである。

之を女兒教育に就いて考へてみるに、女性を男性の隷屬的のものゝ如く考へたり男性より一段程度の低い人間のやうに考へたりすることの大なる錯誤であるは勿論、その觀念に籠居しての教育は決して妥當なものとはいはれない。良妻賢母は古い時代の女子の目標の如くにも考へられるがそれは皮相の考へである。民族永續のため家庭淨化のため、女性本來の性能を發揮すべき教育の目標は結局良妻であり賢母でなければならぬと考へる。如何となれば、それは女性そのものゝ爲めのみならず、それは男性のためであり社會のためであり國家の爲めであり民族の爲めであるあからでる。世には女性が臺所を受持ち針箱を受持つことを以て如何にも意氣地のないものゝ如く考へる者もあるやうであるが、その臺所と針箱は齊家の代表的な作業であり、そこには女性の創造性を發揮すべき未開拓の土地が澤山に残されてゐるのである。殊に我が日本の家庭には神秘的な母性愛發露の歴史があり強い家庭精神の顯現された幾多の事實がある。この精神を目指しこ

の精神の具現を目指すところに良妻賢母主義は當然の歸結であり、教育の目標も亦そこにあつて然るべきであると考へる。

## 家政の教育は女兒教育の本幹

この意味に於いて家事科と裁縫科とは女兒教育の本幹をなすといつても過言ではないと考へる。これは當然文部省の實業科尊貴の精神と相觸れるものであつて、換言すれば知的教科を尊重する反面更に深く技能教科を尊貴する趣旨である。然しながら此の作業尊重の意圖も單に作業そのもののみ目標を置くものではなくて、其の背景たる理論的方面を蔑にするものであつてはならない。例へば家事科裁縫科に於いては科學を背景とし而も實際的なものであるべきであり、更に家事と理科、家事と裁縫、家事と修身作法等々は有機的統合體でなければならず、そこに教育の眞諦に觸れるものゝ存するはいふまでもない。

顧れば、知的教科を偏重した記憶萬能時代の形式教育に於いては、所謂頭の悪い子供と稱して「知的活動に於いて劣つてゐる子供」があると、それは忽ち劣等兒扱ひを受けて性行の上にも一種の偏向を有つに至つたことは事實である。況んや女兒に對して其の特性を無みし男兒と同一標準で之を評價し、その男兒に如かざる部面のみを列擧して恰も劣等兒であるが如く考へるが如きは

## 第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

決して當を得たる觀察といふことは出来ない。ゆゑに若し教育の根本方針が人としての圓滿な陶冶を目指す時に、所謂頭の悪い子供も決して捨つべきではなく、女兒には女兒の特異性があつて之を助長すべくを圖るべきであつて、従つてそこに女子としての適正な教育が施されねばならぬことになる。かくすることによつて女兒の天地はいよく開け、炊事、裁縫、洗濯、育兒等煩雜な日常も之を立派に切抜けて行くべき腕前と、そこなる独自の天地に自己の創造性を働かすべき勇氣と愉悅とを把握することが出来るといはねばならぬ。是人生の最も尊きものを擱むことであつて、教育の効果を其處に見出さねばならぬ。

〔二〕 高等小學校女兒とその教育（その一）

兒童身體の發育

「兒童身體の發育に留意し」とは小學校令第一條に標示してある小學校教育の大眼目の一つである。然るに、從來の如く知識々々といつて知識にのみ重點をおいた教育は人間生活の基礎たる身體の教育に就ては聊か遺憾を覺えないでもない。例へば運動選手が學校卒業後夭折したり病身になつたりすることは、それが特に目立つて世の注目するところとなるといふ

ばかりでなく、選手ともあらう程の者ならば最も強健であるべき筈のものであるのに、其の期待を裏切るとは其處に考へてよい點がある。特に近時に於ける所謂有熱兒童といふものゝ存在は國民保健の上からも決して輕々に看過すべき問題ではないのである。ゆゑに、一體兒童の身體といふものは如何なる發育をするものであるかを知り、更に其の學校の兒童の身體狀況が如何なる經過を辿つてゐるかを擬視し、常に優良なる身體たらしむべく工夫するところがなければならぬ。

子供の身體と大人の身體

小兒の身體は其の形を大人に比べると頭が大きく胸が長く、上肢と下肢とが短い。而して成長と共に一番長くなるのは下肢である。従つて小兒の身體は權衡からいふと大人の如く形態的美ではないが、其の全身に漲る無邪氣な氣分に小兒の可愛らしさがある。而してこの全身に溢れるこの可愛らしさが身心合體の美を十分に發揮するのは幼兒期の終り即ち六七歳の頃である。これまでは所謂中性兒童期であつて男女の區別は肉體的にも精神的にも餘り著明でない。然るにこれから先になると漸次に身體の形にも精神の上にも男女の差別が現はれて來、十四五歳になると二次性的標徴は段々と明らかになつて、顔面には家族的特徴が現はれる。これを第二或は兩性兒童期といふ。

第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

優良兒の具備すべき條件

兒童身體の發育に於いて長軸の成長と横軸の成長とは年々其の度合が同じといふものではない。年齢によつて多少の相違があり、又性によつて異なる所がある。更に等しく長軸の成長といつても頭の高さと胸の長さ、下肢の長さが同じ度合で進むものでもない。ゆゑに乳兒の身體をそのまゝ伸ばしても、それは唯大きな乳兒童ではあつても成長した兒といふことは出来ない。要するに優良な發育の兒といふ爲めには身體の各部分が年齢と性に相當な權衡を保つてゐなければならぬ。のみならず精神の發達もまたこの身體と調和してゐなければならぬ。換言すれば優良兒とは身心の發育が一定の標準以上でなければならぬと共に、また年齢相當の範圍内でなければならぬ。一定の範圍外に逸出して年齢不相當に大人に近いやうな點があるのは異常發育といはねばならない。

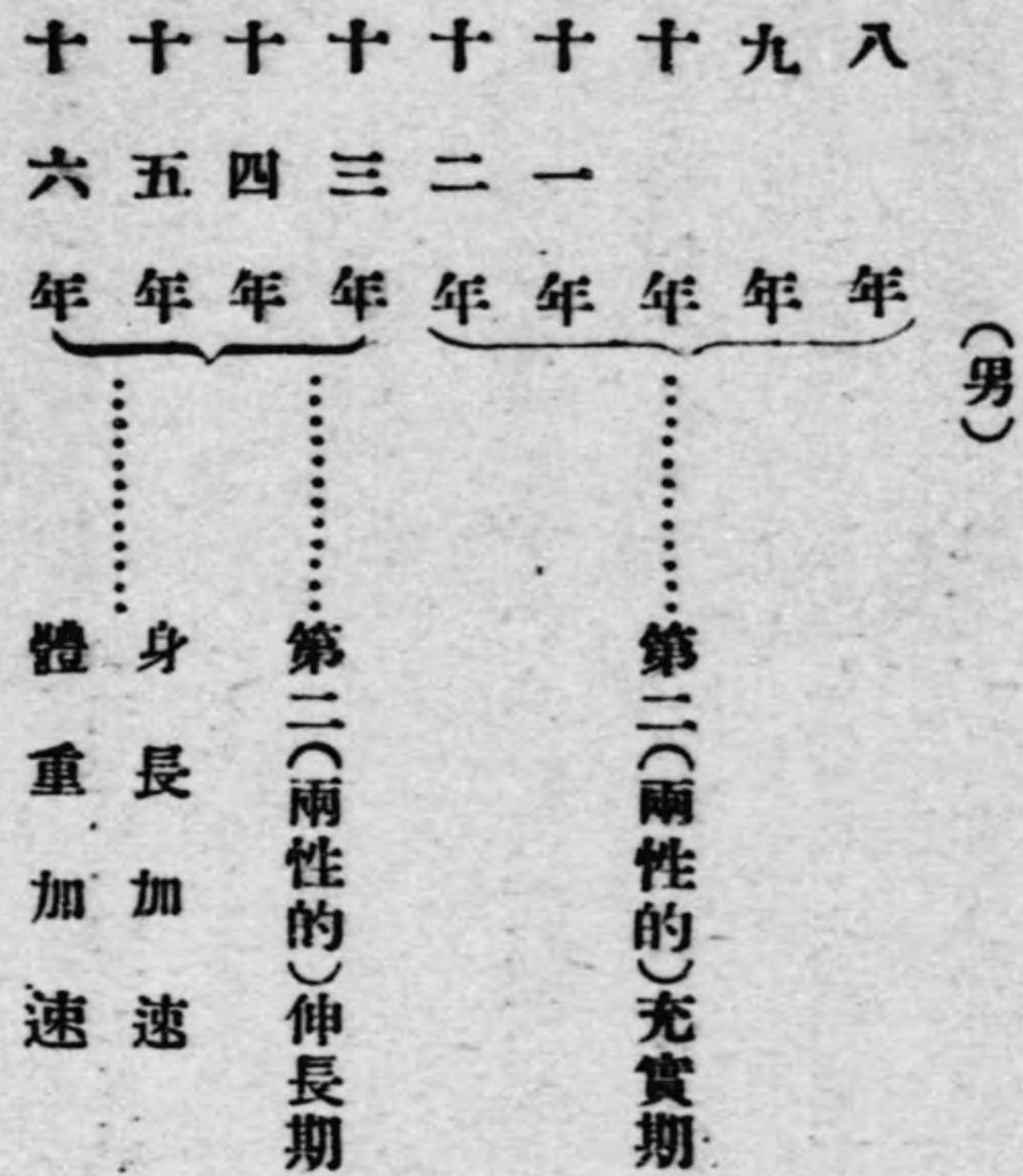
ストラッツの發育階段

男女兩性の別を基準として發育の時期を定めた所謂ストラッツの發育階段は次の如きものである。勿論これは白人に就いての調査であつて、それが直に日本人に適應出来るか否かは議論の存するところである。

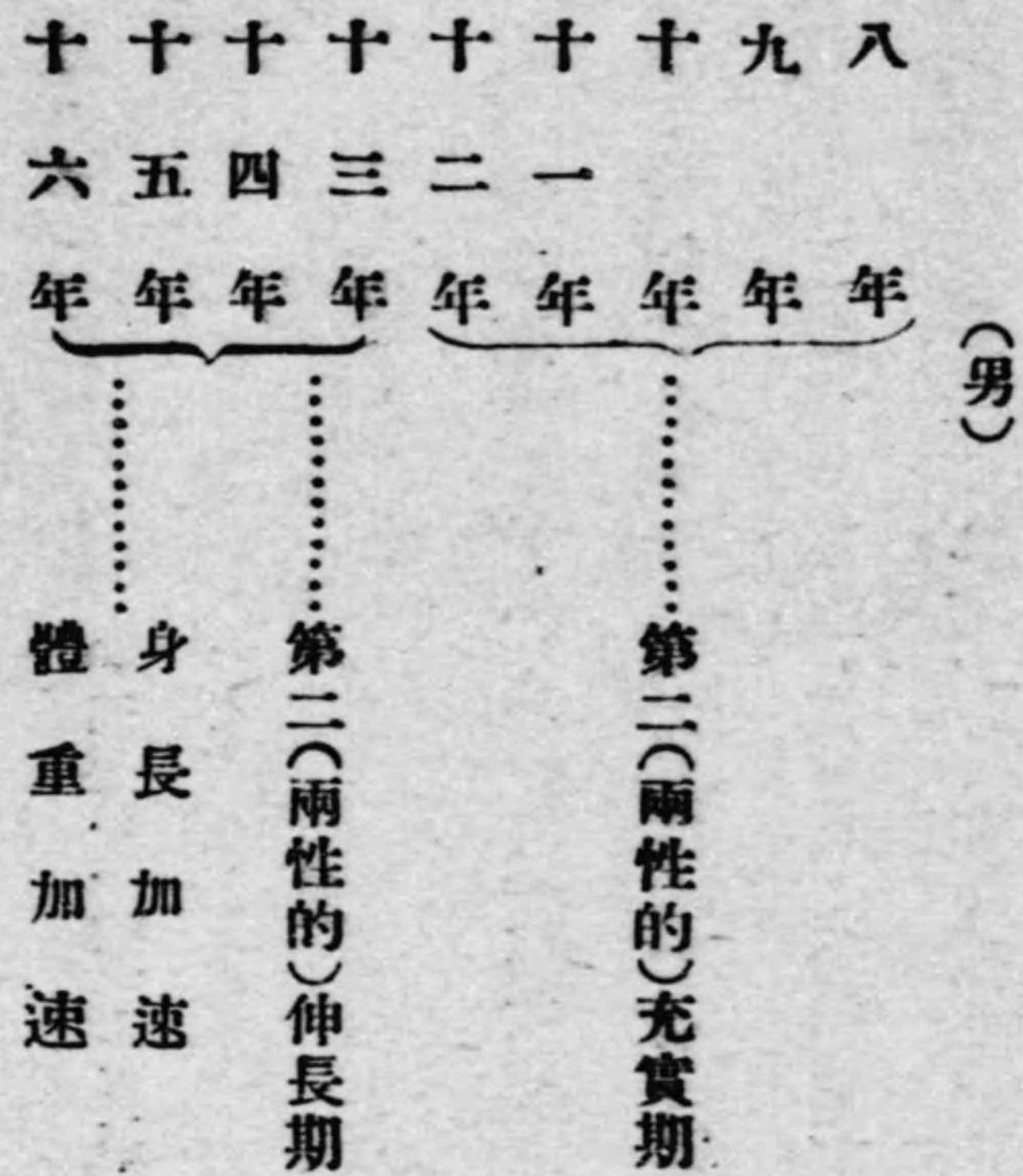
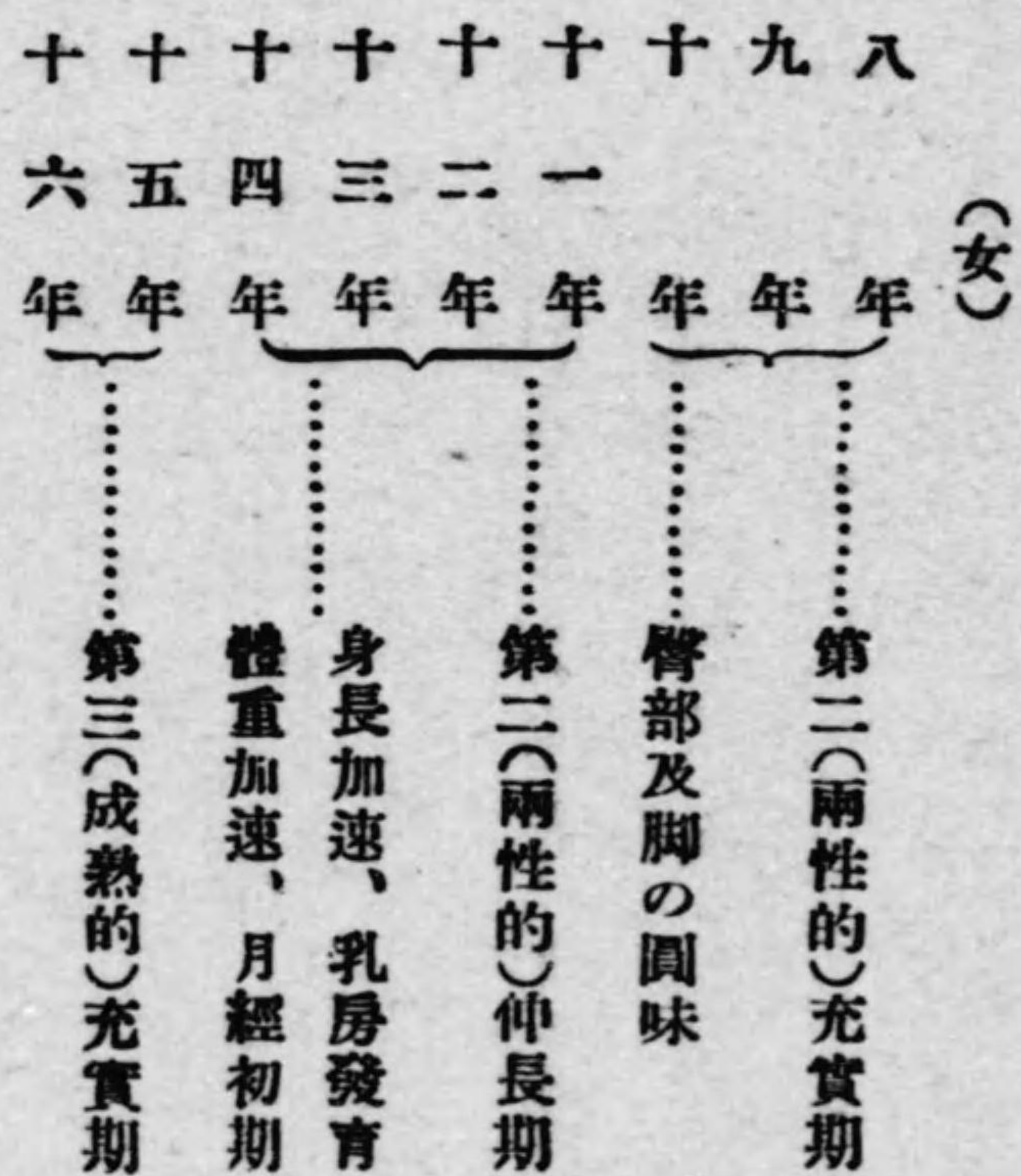
第一 兒童期 (中性)



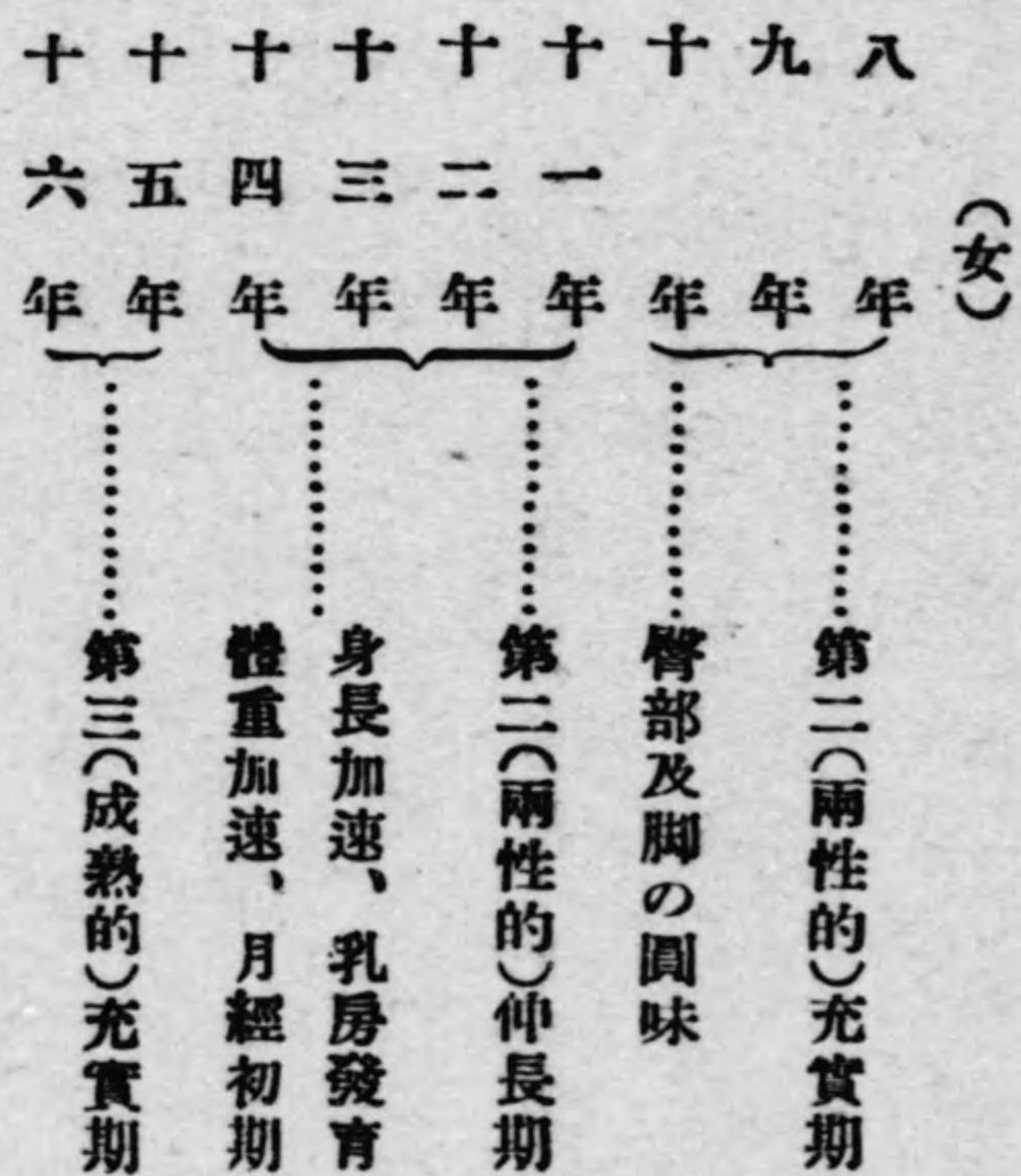
第二 兒童期 (兩性)



第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育





第二 高等小學校の女子教育

十七年 …… 第三(成熱的)充實期  
 十八年 ……  
 十九年 …… 成 熱  
 二十年 ……

十七年 ……  
 十八年 ……  
 十九年 …… 成 熱  
 二十年 ……

右の表中充實期といふのは横軸の成長が目立つて身體が圓く見える時期、伸長期といふのは體重も増加するが身長も發育の方が目立つて身體が細長く見える時期といふことである。これが交代して二度づゝ繰返して遂に成熟期に入るといふのである。

學者の調査によれば、日本人の發育は男女共大體に於いて出生から十年位までは白人と略々同率に進むが、それ以後青春期の發育に於いて男女共に白人より少しく劣り、殊にこの期に於いて日本女子の身長も伸び方が白人よりも著しく劣つてゐる。最近十數年女子教育の進歩につれ、女子の平均身長は以前に比して數ミリ増加してはゐるが、それでもなほ白人女子の伸び方よりは率が悪いとのことである。

本邦兒童の身長及び體重

文部省學校衛生課の調査した大正七年から大正九年に至る全國學生生徒の身長體重によつてみると、その最大發育期は、男兒では身長に於いて十四歳半(一四一

第二 高等小學校の女子教育

身 長	體 重	期 始	期 終	青春期的發育の中心期間		最 大 發 育 期
				期 間	中 間 數	
男	男	一一——二〇	一一——二〇	一三——一六	一四・五	一四・五
女	女	一一——一九	一一——一九	一二——一五	一三・五	一二・五
男	男	一一——二一	一一——二一	一四——一七	一五・五	一四・五
女	女	一一——二〇	一一——二〇	一三——一六	一四・五	一三・五

一五)、體重に於いて十五歳半(一五一・一六)であり、女兒では身長に於いて十二歳半(一二一・一三)體重に於いて十三歳半(一三一・一四)である。而して一般にいへば女兒は男兒よりも身長・體重の増加を示す時期が二ヶ年位早く現れるのが常である。また、本邦男兒は二十歳乃至二十一歳、女兒は十九歳乃至二十歳に於いて、身長・體重の發育は略々完了の域に達する。勿論そこに個人差の存するはいふまでもない。また、武政太郎氏によると、本邦女兒の身長體重が男兒を凌駕するのは一般に十三歳十四歳の二ヶ年乃至十二歳十三歳十四歳の三ヶ年であるとのことである。而して同氏は身長體重胸圍から本邦男女兒の青春期を定めて發表されたが、今それを左に借用する。



第二 高等小學校の女子教育

胸		腕	
男	女	男	女
一三—二一	一二—二〇	一四—一七	一三—一六
一五・五	一四・五	一五・五	一四・五
一五・五	一三・五		

(日本の子供より)

これによつて考へるに青春期には身體の變化も著しく、従つて内臟諸器官の變化も甚しく身體の均齊も動搖を來たす時代であるがゆゑに、身體上にも精神上にも特に注意するところがなければならぬ。高等小學校の女兒も丁度青春期的發育を開始する時代であるから努めて衛生に注意すると共に更に積極的に精神の愛護並に鍛錬に意を用ふるところがなければならぬ。

農村民の體格に就いて

内務省は大正十二年中、農村九ヶ村の住居男八千六百九十七人、女八千七百八十八人に就いて、各年齢に於ける體格を調査したことがある。今その結果と文部省學校衛生課が調査した、大正七年より大正九年に至る全國學生生徒の身體検査の結果との中より年齢七年より十五年に至る女兒の身長體重胸圍を抽出して比較すれば次の如くである。

年	身長(Cm)		體重(Kg)		胸圍(Cm)	
	農	學	農	學	農	學
七	一〇四・五	一〇五・七	一六・五	一六・九	五二・一	五二・四

年	身長(Cm)		體重(Kg)		胸圍(Cm)	
	農	學	農	學	農	學
八	一〇九・七	一一〇・三	一八・一	一八・五	五三・六	五四・五
九	一一四・五	一一四・八	一九・八	二〇・二	五四・二	五六・一
十	一一九・一	一二四・四	二一・九	二二・三	五六・七	五七・九
十一	一二四・二	一二四・〇	二四・二	二四・五	五八・五	五九・七
十二	一二九・四	一二九・三	二六・八	二七・三	六〇・九	六二・一
十三	一三三・三	一三五・五	二九・八	三一・二	六二・七	六四・五
十四	一三八・四	一四一・五	三三・八	三五・七	六六・四	六八・六
十五	一四一・一	一四六・一	三八・五	四〇・〇	七〇・六	七一・八

以上によつて之をみれば農村生活者の發育は學生生徒のそれに比して決して可良だといはれ

第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

ない。そして農村人は健康であるとの一般の信念を裏切るものがある。勿論、空氣や日光や等々健康上の諸要素をとつて都市と農村とを比べてみるならば農村が健康地であるべきは論ずるまでもない。けれども事實右の如く農村兒童の發育が一般人の豫想の如く可良ならざるは所以に至つては其の他に伏在する原因があるであらう。これは農村教育者の考慮すべき重大な點であらねばならぬ。尤も右に記した調査は九ヶ村の住民に對して施行した結果であるがゆゑに、丁度その九ヶ村が可良な發育を有たなかつた農村であるならば、これは決して農村の代表として推すべきではない。けれども右の外に私の調査したところによるも、農村人必ずしも發育可良ならずとの結果をみたものは決して少なくない。左は群馬縣下の一農村學校女兒の調査を文部省調査の女兒の部と比較したものである。(昭和六年度)

年	身長 (cm)	體重 (kg)
七年 全國	一〇七・一	一七・二
七年 農村	一〇六・五	一六・五
八年 全國	一一二・〇	一九・〇
八年 農村	一一〇・四	一八・三

年	身長 (cm)	體重 (kg)
九年 全國	一一六・九	二一・〇
九年 農村	一一五・八	二〇・〇
十年 全國	一二一・五	二三・二
十年 農村	一二〇・一	二二・一
十一年 全國	一二六・三	二五・六
十一年 農村	一二二・八	二四・一
十二年 全國	一三一・七	二八・六
十二年 農村	一二九・二	二七・八
十三年 全國	一三六・九	三二・四
十三年 農村	一三四・五	三一・七
十四年 全國	一四二・二	三六・九
十四年 農村	一四〇・六	三五・四

之によつてみるも、今日の農村兒童の中にはその發育上大いに注意を要すべきものゝ存することを想像し得る。

學年の進むにつれ發育が思はしくない

左は北陸の某村小學校に於ける兒童の發育に關し、その校長の苦心談として同地の雜誌に出てるものである。數字が出てゐないから果して何ん

第二 高等小學校の女子教育





第二 高等小學校の女子教育

な發育であつたかは知る由もないが、かゝる時こそ學校醫と協力して其の原因をたしかめることが必要ではないかと思ふ。私はその校長の擧げた第一の原因などに特に注目するものである。

昭和六年でした。私の學校の子供の身體検査の結果を見ると其の平均が縣下の平均に比べて尋一・二迄は身長・體重・胸圍共に優れてゐて三年以上だん／＼悪くなつてゐます。學校へ入學した時は優れてゐて學校生活の訓練を経るに従つて他に劣つてゆくと云ふ事實は私共が決して黙視すべき事ではないと思つてゐる／＼それに対する原因と對策を考へたのであります。原因と見るべきものは

- 買喰ひをする惡習慣がある
- 運動を嫌ふ子供がある、運動してもよい運動をせない
- 晴天の日でも校舎内に遊んでゐる
- 校舎が狭く雨天體操場が低く暗くそして狭い
- 學習中の兒童の姿勢が悪い、従つて脊柱後彎のものが多し
- 十二脂腸・絛虫・鞭虫と云ふ様な寄生虫をもつた子供が多い、多い教室になると五〇%も居る
- 近眼であるのに眼鏡をかけてゐるものが極めて少し
- 机や椅子の高さが兒童の身長に合つて居ないと云ふやうな事が解つた。

そこで机・椅子がもう廢物に近いものになつてゐるのが多いので新しくこれを造つて補充し、管理法に示してある一號から五號までの机・椅子の高さの標準に照して一々兒童の身長に合致したものを使用させる事にしました。兒童の體はよく伸びますから従つて机・椅子も時折變更せねばならないので身長と机・椅子の關係が直ぐ解る様な定規を各級に一本宛備へつけ、机・椅子にはハツキリ號數を示した焼印をし毎學期の始めに調査した身長に適したものを與へるやうにしてゐます。

運動に對しましては課外運動系統案を造つて學年に適した運動をなさしむる様指導し持續的鍛練を目的とした方針をとつてゐます。

月一回の部落別競技會も兒童の自治的な計畫によつてなされてゐます。

晴天の場合出来るだけ外に出て運動する事を忘れません。

近眼者には眼鏡をかけさせ、榮養の補給、女兒の虱取、お腹の虫おろし、買喰防止の指導、清潔検査等あらゆる方面より兒童身體の發育鍛練に留意してゐます。

身體検査の平均が其の後年と共に少しづつでもよくなつて來た事はかうした效果の現れたものでないかと嬉しく思つてゐます。

躍進日本の國民の體位を向上させる爲にはかうした實際の上に一段と努力をせねばならぬものと確信します。

第二 高等小學校の女子教育



〔三〕 高等小學校女兒とその教育（その二）

兒童期と青年期の過渡時代

高等小學校の兒童といへば十三歳頃から十四五歳頃までの兒童であるから兒童期と青年期との過渡の時代にあるものといつていい。前述青春期推定表も之を物語るものである。過渡の時代は所謂第二の誕生をなすものであるから、之が教育には格別の重要さがある。

此の時代に於ける身體變化の著しいことや内臟諸器管の變化の甚しいことはそれだけ成長の旺盛なることを示すもので、例へば肺活力、握力、補助筋の統制が迅速に増加し性器も著しく發達する。心臓は血管に比して急にその大きさを増すので血壓が著しく高くなつて來る。腦に於てはその組織が進歩して聯合纖維が著しく増し發達する。これらは何れも其の發育の旺盛を物語るのであるが、その急激な變化の爲めに身體の均齊にも動搖を來たし、其の結果神經的疾患に罹り易く、一般に疾病に對する抵抗力も弱くなつてくる傾もある。ゆゑに此の時期に於ける體育の手法などは餘程考へて實行しないと一生の禍根をのこす場合が出來ぬとも限らない。

高等科兒童の心理

この時代の精神生活の特徴ともみるべきものは主として感情並に意志の方面に現はれることである。權威に對する反抗とか懷疑とかいふ心持は此時代から現はれて來る。例へば教師や父母の命令を守らないといふことは兒童としては許し難いことではあるけれども、然し、彼等としては理由のあることであるからその理由を没却して無下にその意志を蹂躪することは考へものである。否、若し絶對服従を強ひたとしても心から之に服従するものは少ない。或は外見服従した如く装ふことはあつても内心から其の命令を喜んで行ふことは少ない。これは教育上注意を要するところで實際教育家の苦心すべきところである。

のみならず、この權威に對する反抗とか懷疑とかいふ心は人生に於いて決して無駄なものではない。これあるが爲めに人生は向上もし發達もするので、生存競争場裡に在つてよく其の生を維持し得るのもこの心があるからである。例へば吾々が身體的又は精神的に缺陷があることの反抗心は補償作用を行ふ。勿論その補償作用も積極的に行はれる場合もあるが消極的に行はれる場合もある。吶辯の者が刻苦精勵して其の缺陷を征服し遂ひに雄辯家になつた例はその前者に屬するものであり、自己の缺陷の大なるに譬ごみしてそれを征服するだけの勇氣を缺くものは憂鬱にな



第二 高等小學校の女子教育

つたり神経衰弱になつてしまふ。それは後者に屬する例である。が、何れも反抗心の補償作用の行はれた結果である。それだけ反抗心に對する指導が必要であるといふことがいへる。

また、青年期には感情の動搖が甚しいから一方に強く積極的に反抗するかと思ふと他方に消極的に萎縮してしまふことがある。發情期に入ると男女共に羞恥の情が著しく表はれて來るが之も反抗心の消極的表現とも考へられる。殊に女子に於ては初潮をみるやうになると初めて女としての意識が明瞭になり、女子が劣等であるとの傳統的な觀方に對して激しく反抗するか、或は消極的に不活潑因循羞恥を生ずるやうになる。この變化はその境遇に左右されるところが多く、高等小學校に入學して上級生ぶる者は、高等女學校に入學して下級生として若返る者に比べると一層甚しい。これは目下の兄弟の多い長女などが同年の女子に比べて大人びてゐると同じ理である。然し、人生は何時までも若く何時までも理想を追求する方が活動的であり心も快活になる。この點に於いて、高等小學校の女生徒には較もすれば自分達は高等女學校へ行けない家に生れたと云ふやうな、他人の境遇を羨んだり猜疑心を起したりする者もあるかも知れないが、教師は深く之に同情して温い心持で抱へてやるやうにすることが大切である。世人は上級の學校へ入學した者

を上等の人間のやうに考へる傾があるが、それは謂はれない妄信である。人はその性能に應じて適當な職業をもちそれに全精神を打込むところに愉悅があり光明があり活動がある。この點をしつかり指導し、若々しくして快活なるよう導くことが大切であると思ふ。

懷疑的になる農村の女學生

いつか讀賣新聞の「兒童の教育相談」に「深く懷疑的になつて行く農村の女生達」といふのがあり、之に對して青木誠四郎氏が答へたものがある。参考のため之を左に借用する。

【問】 私は農村を主とする地方の高等女學校の一教師です。私の擔任してゐる最上級四年の生徒たちについて、作文や談話を通じて見てみると、どうも三年の終り頃から深い懷疑的な氣持が見られ、前途に對して希望を失ふやうな心の流れが知られるのです。學業を怠る、「學校に入つて何になるのだ」と考へる。「生きてゐる意義がわからない」と云ふ。みなそれです。かやうな女學生の心持は、職員に對する反感とか、級友の間の依怙最厚についての不快などもあるとは思ひますが、そればかりからとは考へられませんか。私はこれを時の解決する問題だと考へたり、功名心に訴へて一時をしのいでゐますが、どうしても彼女達に光明を信じさせる事が困難です。こんな問題は幼稚でお恥しいですが、之をどう導くべきか可憐な彼女達のために御答へ下さい。尙参考書も御示し下さるやう願ひます。

第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

【答】 御質問の問題は決して幼稚などと云ふべきではありません。おそらくは今日一般の女學校の生徒の心の奥を占めてゐる大きい悩みを示してゐると思ひます。私はあなたの理解と熱意に對して深い感謝の心を懐かずにはゐられません。私の考への一端を申し上げますから、御不審の點があつたら御遠慮なく御問合せ下さい。

いつたい今日までの中等教育は、立身を、出世を目標にして、青年の燃える希望を湧きたゞせて、生徒たちを勵まして來てゐはしまいか。女學校であれば女も偉くなれるぞ、學問をして女學校をやつておけばよい嫁の口があるぞと、彼女たちを興奮させて、それで勉強させようとして來たのではないでせうか。青年時代の希望を胸にをどらせる彼女たちは、將來の女學者や良家の妻女や、もつと低く云へば赤瓦の屋根の下の文化生活を夢みて學校の課業にいそしんで來た趣が多いのです。これは女學校の教科内容についてお考へになつて見てもわかる事です。

併し、現實はどうでせうか。さう／＼文化生活はまつてゐません。結婚難—殊に彼女たちのまつてゐるやうな—があります。それから農村—それは結局かゝる事情から彼女たちの落ちつくところと思へる—の情勢や農村婦人の生活はどうでせう。希望を生命としてゐる青年がそこに暗然とするものゝあるのを如何ともなし難いでせう。これが都會地の女學生であれば、刺戟の夥多に考へる餘裕もなく、たゞ厭ぎまはつて時が過ぎてしまふので、しかし大きい懷疑にならないが、農村の人達にはそれが無い。そこへ種々な生活批判し懷疑する青年時代の強い心持が襲つて來てゐるのでから、周圍の事情から見て、かう云ふ心

持をもつのは他の心持も手傳つていはゞ當然の成行と云つてよいと思ふのです。

かう云ふ心持をどう導くべきか。これは到底簡単に云ひ盡せることではありませんが、たゞその結論を申しますと、彼女達に新しい理想と希望とを培へとかう云ふ他ないと思ふのです。青年時代は希望の時代であり理想の時代です。が、個人的な功名心や、個人的な甘美な生活の夢は最早ゆるされますまい。私達は彼女達に新しく、この社會の改善に農村生活の開拓に希望をもたせるべきでせう。

教養ある婦人が農村に嫁ぐその生活苦に堪へて、家を、村を、やがては國を興すその心を、いはゞ土にまみれたジャンダークをよみがへらせる、さう云ふ態度にあり度いと思ふのです。それと同時に、農村婦人の生活をいかに改善すべきかにいつも心を用ひ、學校教科の内容をもその方針に従つて再構成すべきものと思ひます。紙數の制限で意を盡しませんが、尙ほ拙著「青年期の心理」(古今書院發行)は、細い心持の上についての理解に御参考になるかと存じます。(此の一篇を爲政者並に一般教育者に捧げる)

〔四〕 高等小學校女兒とその教育(その三)

若き女兒の憧憬

今日の如く女學校其他の女子中等學校が各地に増設された時代に於ては

之に入學することの容易なることは昔日の比ではない。従つて父兄も教師も上級學校への入學を勧誘し歓迎する。従つて其處に取殘された女子といふものは女工の如く女中の如く直に勞働に従

第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

事する者か、然らざれば家庭に在つて家事の手傳をするものか、然らざれば高等小學校に入學し來るものである。而して、等しく學校生徒でありながらも高等小學校には高等女學校程の憧憬れをもつ者が少ない。ゆゑに高等小學校の女兒は他人に羨まがられるよりも他人の身の上を羨む方の境遇におかれてゐるものである。

高い教育を受け得ることは人生の幸福であり、また多くの者が羨み勝ちであることに異論はない。けれども高い教育を受くべき性能のある者が之を受けてこそ個人も國家も福祉を増進するであらうが、然らざる限りに於いては、それは決して羨むべきものを羨むといはんよりは羨むべからざるものを羨むといつてもよい。特に今日の教育は性能よりも財力を背景とする事が多いがゆゑに、之を極度に押しつめて考へれば、此の羨望は甚だ面白くない事態を伴ふ虞れがある。この點に於いて高等科女兒の教養には其の教師たる者に深甚の考慮を促さざるを得ないものがある。

洋服を着る、靴を穿く、それは決して人生の最大の價値ではない。ではあるがそれが羨ましく見えるところに指導の要所があるではないか。職業婦人となる——女事務員となる女店員となるタイピストとなる——それが何故に羨ましいか、直接筋骨を勞して家事を手傳ひ女子としての修

養を積む、それが何故に壓はしいか、そこに若き女兒の人生への指導が多分にあるといへる。

**國力の中軸を握る女性の存在** ルソーは「哲人の如く考へ農夫の如く働く」といつたが、實に至言である。若し農夫にして哲人の如く人生を考へ而も筋肉を勞して營々と働くを常とするならばそれは實に大臣宰相と等しき價値をもつものである。而してそれは敢へて農夫に限らない。大工でも左官でも男でも女でも、職業の如何を問はず性の如何を問はず立派な人間だといふことが出来る。

高等科の女兒は主として境遇上上級の學校へ進み得ない者が多いが、然し、人は境遇が許しても必ず上級の學校へ進むべきものとは定まつてゐない。高い教育を受くべきか否かは性能と境遇との總和に俟つべきものである。この點に於いて女兒をして人生に對する偏見を有たしめてはならぬ。と共に學校は必ずしも最上の修養を與へて呉れるものではない。修養は自分自身の積極的な生活態度に依存する所以を自覺せしめねばならぬ。

國家に大臣相宰相ばかり充満しても困る。將校ばかりでも戦は出来ない。男ばかりでも國は成立せず女ばかりでも民族は繁榮しない。そこに立派な人間にして不用な者のない理由がある。高等

第二 高等小學校の女子教育



第二 高等小學校の女子教育

科の女兒はやがて處女會員となり婦人會員となつて社會の爲めにも働くのみならず、更に妻となり母となつて國家永遠の榮光となるべき子女の養育を果たすことに於いて容易ならざる重大任務につくものである、ゆゑに田舎に住むことは悲觀する必要はない。女學校へ入學出来ないことを不満に思ふ必要はない。如何にせば立派な女になれるかを考へればよい。特に家庭淨化の問題、一國風教の問題、臺所と國家經濟の問題の如きは女性の手によらざれば解決出来ない問題である。その任務に自覺するならば田舎の一少女は決して不用な存在ではないのみならず、實に有用な存在である。教師はこの點に十分なる指導を盡さねばならぬ。

農村の兒女と婦人雜誌

農村の生活を目して程度が低いといふことは間違ひではないか。よく家事教育研究會などで「教科書に書かれたところは程度が高過ぎますので、一段程度を下げて教授してゐます」といふことを聞く。然らばその程度とは何かといふに、住居にすれば應接間があり暖房に電熱を用ひる類のことであるといふ。然しながらそれは程度の問題ではなく事情の問題である。眞夏に羽織を着手袋をはめてデパートへ押寄せる。それは決して高い程度の生活とはいへない。然るに之を高い程度の生活と思ふ所以は都會に對する一種の憧憬から來てゐる。勿論

それは文化生活をする一種の動因とはならうが、都會の生活をそのまゝ田舎に移さうとすることは無理である。そこに感じ易き農村の乙女等に對する警戒と指導とがなければならぬ。而して現今に於ける皮相なる都會化運動の有力なるものに婦人雜誌がある。これに對して雜誌「いと兒」から其の批評を借用する。

國辱的婦人雜誌

金城鐵壁を誇る日本の家庭は婦人雜誌に依て時々刻々に蝕まれつゝある。といふならば、人々は或はその誇張の甚しさに驚くでもあらう。だが、私は寧ろ驚異者の鈍感を憫まざるを得ない。國辱的といふ可き浮薄淫猥なる記事の滿載を見ては、心ある者は一人として面を反けざるを得ない。といふのが多くの婦人雜誌の實相ではないか。

婦人雜誌の記事に就ては青木助教授が曾て本誌上で嚴酷なる批判を下したことであるから、私は醜穢なる内容の検討に遅れ馳せの参加を爲すことはこれを避ける。唯だ、大多數の婦人雜誌に麗々しく掲載されてゐる廣告に就てのみは、敢て黙過するに忍びざるものを感じる。

それらは何といふ低級だ、そして何といふ無耻の曝け出しだ。性病と、媚薬と、避妊具と、而して怪しげなる民間療法とに關する、煽情的な廣告こそは、正しく露出狂の變態沙汰としか見られないではないか。私は不幸にして斯くも露骨なる性的廣告を何れの文明國の新聞雜誌、特に婦人雜誌に於ても見出さない。

第二 高等小學校の女子教育



## 第二 高等小學校の女子教育

勿論それらの國々に於ては、性を中心とする悪弊が行れず、怪しげなる薬品や、器具が露がれず、それらに對する知識が普及してゐないとは言はぬ。だが、公々然と露骨誇大の廣告を掲げて恬然たるものは、日本を措いてはない。

大膽なる獨斷かも知れないが、婦人雜誌の廣告は、その國の婦人の文化的精神的水準の指標だといへる。日本人は口を開けば米國の物質文明を罵倒しヤンキーガールを非議する。然かも試みに米國の婦人雜誌と日本のそれとを比較せよ、人々はその品位に於て霄壤の差あるを見出すであらう。此の場合に於ても、兩者の本文の内容に觸るゝことなくして、單に廣告のみに就て檢覈を試みることにする。

米國の婦人雜誌を披くものは、先づ第一にその廣告の豊富で、且つアツクチャーなものなることに驚く。意匠の奇抜なる、印刷の鮮麗なる、色彩の調和の妙なる、文案の垢抜けせる等々それは全く渾然たる一個の藝術品である。而してその表現は極めて印象的ではあるが、斷じて煽動的ではなく、冷靜に讀者の思慮ある批判を俟つといふ風である。然かも、廣告の目的たる商品が、殆んど全部衣食住を中心とする生活必需品なるを見る時、米國の婦人讀書階級の實質なる要求に對して羨望を禁じ得ない。

更に羨む可きは、廣告の教育化の事實である。例せばベイキング・パウダアの廣告を見るに、これを用ひて家庭に於て試み得るマツフィンヤ、ビスケットや、その他の菓子類の製法を、毎月四五種宛のせてゐる。罐詰の野菜或は果物の廣告に於ても亦同様で、或はスープ、或は菓子等の珍らしき献立を掲ぐることを怠らない。毛糸や服地類の廣告には、兒童服や、スエーターや、新流行の婦人服のデザインを示し、住

宅會社の廣告には氣の利いた住宅のプランが出てゐる。借問す、家庭的たること、良妻賢母たること、而して淑やかなるおとなし振りを誇り給ふ日本婦人何の面目ありや。

米國の婦人雜誌の廣告はその儘で子供の教育資料となり得る。或る幼稚園で子供達に婦人雜誌の廣告から切り抜かれて、美しい眞にせまつた、そして如何にもおいしそうな野菜、果物、ミルク、バター等の繪を用ひて榮養増進のポスターを作成せしめつゝあるのを見て私は羨望措く能はざりしを忘れぬ。斯くの如きはその一例に過ぎない。

纏つて我が婦人雜誌のそれを見よ、苟くも假名文字を知り初めた子女に安心を以て與へ得るもの果して幾何ありや。下世話にも「百日の説法何とか」の譬へで、意圖的に兩親の與ふる正善の庭訓も、偶然に子女の眼に觸るゝ悪影響の前には全く無力である。米國のそれが教育的なるに對して、此れは全く教育破壊的であるとすれば、子女の蒙る利害は知る可きのみではないか。

現代生活の全局面に亘つて、親心のその愛する子女に見せまじと希ふ害惡にして、到底それを避け得ざるもの多々あるは止むを得ない。だが、兩親や、教育者や、一般公衆の少しばかりの心遣ひによつて避け得るものは、心してこれが絶滅を期せねばならぬ。而して婦人雜誌の悪廣告の如きは、必ずしも驅逐不可能のものではない。愛する子女の爲めに「いとし兒」の讀者は先づ協心協力して輿論の喚起に當る可きではないか。(いとし兒)

## 第二 高等小學校の女子教育



### 〔五〕 農村の家事科教師

女子的教科と學校長 家事科進展上の一つの障碍は學校長の本科に對する無理解であるといふことである。今日の言葉を以てすれば認識不足なのである。例へば多くの學校長は家事科を以て料理と洗濯との方法を教へる教科とのみ考へてゐる。ゆゑに學校で教へる料理ならば普通の家庭に見られないものを教へざるべからずと要求する。でなければ家庭の母親の教育で事足ると考へてゐる向が甚だ多い。ゆゑに家事室の設備の如きは考案される事も少なく金も多くかけられてゐない。これは進歩的な家事科教師からみれば一種の輕蔑を感じると共に有爲の家事科教師をしてその意氣を沮喪せしめる。特に家事科に於ては専科教員のない學校が多く、所謂掛け持ちの制度が一般に行はれてゐる。ゆゑに其の努力の多いに比して其効果の擧らないことは事實である。これは何とかして改革しなければならぬ問題で、女子特有の教科なるがゆゑに女教師に一任されるといふことはありがたいやうで實は進展上の大なる障碍となつてゐる。

農村に理解ある家事教師 それと共に考へなくてはならぬことは家事科教師が農村に對して

深い理解を缺くといふことである。現在の家事科教師の多くは師範學校の出身であつて、都市の學校から農村の學校へ、農村の學校から都市の學校へと置換へられても差支ない人々であり、且つ都市に在勤するを榮譽と考へてゐる人々が多い。これは農村教師としては大なる缺陷であらねばならぬ。

私がこゝにいふ農村に對する理解とは、農村の傳統と共に流れることをいふのではない。例へば農村のことによく通じて、彼の料理はかうであり此の料理はかうである。彼の洗濯はかうであり此の洗濯はかうであるといふが如く、農村の實際生活を知悉して之に調子を合せよといふのは斷じてない。如何となれば、それだけでは其處に何等の指導精神といふものが働いてゐないからである。私のいふ理解とは其の實際生活に通曉すると共に、之が缺點と長所とを見究め、そこに指導を加へて行くことをいふのである。私は之がなくては教育にならないと思ふ。

例へば今日農村の學校では兒童の身體が餘り思はしくない。之は食物に缺點があると結論がついたならば、食物を合理的にして行く指導を加へねばならぬといふ類である。更にこの村には結核で死ぬ者が多い。之は如何にして救済すべきであるか。之は教育時代の兒童の榮養改善に俟た



## 第二 高等小學校の女子教育

なければならぬと結論したならば、之に對する榮養食の教授をして行くといふが如きはそれである。今日幸にして各地の家事科教師が農村に適應する家事教授、若くは郷土に立脚せる家事教授等の研究を試み、私などへ相談を持ちかけられる方々も少なくないことは大いに喜んで居る次第であるが、都市的なものを農村に適應せしめんとする風潮はまだく、蟬脱し得られないことを遺憾に思ふ。

## 農村を好む教師たれ

ゆゑに私は多くの家事科教師が都市の學校に勤務せんことを歡ぶが如くに農村の學校に赴任することを喜ぶ教師の出現を待つてゐるものである。我が國は人口の上からいつても農村住民が六割以上を占めてゐる。この農村を無視して都市的な試みを試みたとしても、それは無益であり、兒女の爲めにも國家の爲めにも何等益するところがない。されば私は農村を好む家事科教師の出現によつてのみ農村的な家事教授が進展すると考へるものであり、それが本當の日本的なものへの進行であると考へるものである。

## 熱意を教育の眞底に徹せしめよ

「職業的な、餘りに職業的な」といふ言葉がある。教師といふ職が其の者の性能にかなひ、それに悦びを感じそれに全精神が傾倒され得、それによつて國家

社會に寄與し得る底のものであるならば勿論異議はない。けれども教師といふ職によつて生活の保證を得んことにのみ意味を認めてゐるものならば、その教師のなす教育は一片の事務に過ぎなくなるであらう。そこに愉悅なく輝きなく生命はないであらう。これに就いて野口氏の所説を左に借用する。

○

「きはあれ、これが半面には最も憂慮すべき危機に瀕して居る。感化力の最も偉大なる時期であるだけ感激性の最も強い時期である。されば此の期の兒童の心理に深く入つて、同情と責任ある指導とを以て勇往邁進すべきである。冷たい學者風の態度から、自己の分身を作るのだとの熱烈なる「教育愛」の源泉に還ることが何より大切である。」これは和歌山縣師範學校主事野八十八氏の意見である。實際教育家はその經驗と必要とから、教員にこの熱を要求する。特にこの年齢の特徴からこの熱を要求して居るのが中野氏の意見である。しかしながら、高等小學校の社會的に於ける地位からも、又この熱を要求しなくてはならぬ。高等小學校は一般民衆のハイ・スクールである。その最高教育機關である。一般民衆はこの學校によりて終生の生活の基礎たるべき教育の基礎を築きつゝある。しかも將來國民の七割以上がこの學校を終るものだとするならばこの學校の社會的地位は非常に重大なものであることが感ぜられる。

熱は力である。熱のある所には力が存する。熱は表面に現はるゝ時と然らざる時とある。表面に現はれ

## 第二 高等小學校の女子教育



## 第二 高等小學校の女子教育

ないでも強い熱のある場合も多くある。そこには必ず力が生じてゐる。力があるから熱が生ずるか、熱があるから力が生ずるか、そこは何れとも分らないが、とにかくこの兩者は相伴ふものである。何れにしても熱のあるところには力があり、そしてこの力が青年前期の教育には最も必要である。

(高等小學校の研究、野口授太郎氏)

### 農村の教育

(前略)農村更生を目的とする教育の改善は學校のみの問題ではない。家庭教育、社會教育が同時に問題となる。小學校の普及前に於ては兒童は草を刈り、牛馬を追ひ、兎に角細腕の續く限りは父母の勞を助けてゐた。兒童は農村生活に参加してゐたのである。然るに小學校が出来、義務教育制度が立てられ、學問が教へられる様になつてから、父母は助力者を失ひ、兒童は家庭から引離された。今日の教育は所謂學問であつてはいけないのである。學問とは何であるか。江戸時代の漢學者が流行させた語で、其源は支那にある。支那の學問は士の學問である。士とは官吏候補者である。農村逃避者である。其學問を授けて居れば農村逃避者を作るのは自然の結果である。今日の教科の内容は漢學時代と全然違つてゐるが、教育全體の氣分の上に學問時代の殘滓が多分にある。今日の教育は昔の學問の様に士ばかりでなく農民も商人も作り出さなければならぬ。學校と家庭と田圃と店舗には同一な空氣が通つてゐなければならぬ。勤勞愛好の氣風を養ふと稱して勞作教育が獎勵されてゐるのは結構であるが、眞に勤勞愛好の風を養ふには先學校の中から古風な學問氣分を一掃し、田圃の空氣を流れ込ませなければならぬ。其方法は學校に於て所謂勞

作教育を実施することではなくして、昔の様に家庭を通じて兒童に田圃生活に参加せしめることでなければならぬ。學校は兒童を父母に返還しなければならぬ。但學校教育を廢せよといふのではない。

學校にはまた學校の重要な任務がある。其任務を果す爲めには一日中何時間か兒童を學校に留めることは已むを得ない。只兒童を全然家庭から奪ふことはやめなければならぬ。學校の先生は教育雜誌を讀んで何プラン、何システムを空論する前に居村の實情を知り、兒童にとつて何が必要であるかを明かにしなければならぬ。是が容易に似て容易でない。何プラン、何システム、何イズムは雜誌に書いてある。種本がある。讀めばわかる。然るに居村の實情には種本がない。自分の活眼を以て看破しなければならぬ。昔の朱子學者は「學問の途他なし、只讀書あるのみ」と説いた。今日の先生は西洋の教育學説を口にすが、自分自身の態度は依然として學者であり、朱子學徒である。教育學書は讀むが、活眼を以て活世界を看るとは敢てしない。或は出来ないのかも知れない。我邦の農村教育を考察するに當つて米國のルーラルスクールを調査する様な氣の永い教育學者もある。是等の人はルーラルスクールの何であるかも知らないのである。二宮金次郎の事蹟は教科書にも載せられてゐる。先生の教へ兒童の感激するのは金次郎が苦學して「偉い人」になつたといふだけである。金次郎は苦學をした。しかし讀んだ書物は多くなかつた。彼は決して博學ではなかつたけれども、活世界を看る活眼と、其活識を實行する熱誠を有してゐた。故に荒村の復興が出来たのである。若し小學校の先生が農村更生に對して責任を感じて居られるならば、二宮金次郎を模範人物として説く前に先生から二宮金次郎となる決心をしなければならぬ。小田原侯の委囑を俟つまで

## 第二 高等小學校の女子教育



## 第二 高等小學校の女子教育

もない。諸君の任地居村は困窮してゐるではないか。二宮尊徳は荒村復興の爲めには「他から資本と勞力を移入する必要はない。神武天皇は他の資本を入れなくて國を拓かれた」と言つて居る。即自力開拓である。先生諸君の任地は困窮してゐるが、尊徳が小田原侯から托された土地ほど荒廢はしてゐない。自力更生の出来ない筈はない。

しかし小學校先生は農業技術者ではない。又自から勞働するだけの體力もなからう。時間もなからう。故に自から勞働することを諸君に求めはしない。只農村の爲めには何が必要であるかを明かに知り、其必要に應ずる適切な學校教育を施すことは諸君の職責である。(文學博士春山作樹氏、帝國教育六四三號)

## 第三 高等小學校に於ける家事教授

### 〔一〕 尋常小學校と家事科

#### 家事科特設の可否

現行法規によれば尋常小學校に於いては家事科なる教科の設定はない。

家事科が一教科として課せらるゝは高等小學校に於てある。そこで、家事科の重要性からみて尋常小學校にも家事科を特設すべしといふ議は女教員會や家事教育研究會などの議題となつたことも一再ではなかつた。嘗て家事及裁縫社主催の家事教育研究會の席上でも「尋常小學校に家事科を課することの可否」といふのが問題になつた。當時その提案者は之を其の筋に建議しては如何との意向のやうでもあつたが、その時はその本筋にまでは至らなかつた。而して、それが建議として成立しなかつた理由に就いては、一つには「家事生活は指導すべし、家事科は設けるには及ばない」といふ意見の出たことであり、二つには家事科を設けようとするれば設ける道は開かれ



第三 高等小學校に於ける家事教授

てゐる。その府縣にその希望があれば文部大臣の認可を受けさへすれば可能の問題であるとする法令上の説明があつたが爲めであつた。

**特設を否なりとする意見** 家事生活は指導すべし家事科は設けるに及ばぬといふ意見の裏面には、即今でさへも普通教育の教科目が分科的になり過ぎてゐて、兒童の意識の本性、若くは構成に副はない。ゆゑに教科の綜合運動といふものが従前から起つて來てゐる。然るにその綜合なるものは與へられた種々なる教科の内容を前提とするものなるがゆゑに、今以て甚だ徹底を缺いてゐる。これ今日教科綜合運動なるものの本質的地點には觸れて來ない所以である。かゝる際に更に家事科を分立させることは更に寄木細工のやうな教科分立を一層混亂させるやうなものではないかといふにあつた。

**特設を可とする意見の概要** 之に反して尋常小學校に家事科を特設すべしとする論點は(一)國民の義務教育である尋常小學校に於いて家事科を課せざることは、尋常科卒業のみで家庭に入る女兒に一生家事科を學ぶ機會を無からしむるものである。而して其の女兒の數は決して少なくはない。これが女兒教育としての大缺點である。(二)更に現代家事科の實際を考へてみるに、そ

れが高等小學校の兒童の生活にピッタリ合はないやうなことも、これも必要あれも必要で並べ立てゝゐるものがあるのみならず、尋常小學時代から學習させておいた方が適切な事項をも高等小學校の家事科中に雜居させてゐるいふ現状である。例へば掃除の方法だとか整頓の方法だとか下駄の鼻緒の立て方だとか靴の磨き方だとかいふ種類の事柄は、尋常小學の五學年は愚かもつと下學年から實行させる必要のある事項であると共に、食物に關する簡易な事項の如きは尋常小學時代からよく知らしめて實行させる必要を十分に有つてゐる。それが家事科といふ教科目が無いばかりに等閑に附せられてゐる。之を改造するためには何うしても尋常小學校から家事科を特設しなければならぬ。かくすることによつて高等小學の家事科なるものをもつと單純化され、もつと有効化されて來るであらう。以上が家事科を尋常小學校に特設すべしとする主張の概要である。而して先年開催された東京高等師範學校内初等教育研究會の訓導協議會でも既に特設の建議を文部大臣に提出して居り、福岡縣の女教員會でも之を可決して居るとのことである。

**生活科としての家事科** 家事研究會に於いて、尋常小學校に家事科を特設すべしと建議する趣旨は英語科や數學科の教員がその教授時數を増加すべしとする主張とは必ずしも一致するもの



第三 高等小學校に於ける家事教授

ではない。如何となれば家事科特設論者の主張の内容には、單に家庭内の簡易な作業を含むのみならず、尋常小學校に適切な内容例へば「榮養」の如き文化の第一次的根抵であつて、今日漸く強調せられつゝある所の事項をも含んでゐるものであるから、これは裁縫科と共に實際生活教育として有意義な着眼點であるとしなければならぬからである。元來學校教育の發達は高等教育が先づ發達し、而してそれは既成科學を夫々一つの要素として寄木細工的に構成したものであるから、現代の小學教育もそれに倣つて寄木細工的な教科組織を構成してゐることは止むを得ない。けれども之を兒童生活の事實に徴する時は「生活科」としての家事科をも其の中に加ふべきは餘りにも當然な事である。而してそれは必ずしも男女の區別を附せず榮養其他の生活事項を生活研究として學習させねばならないと考へる。勿論生活研究の中には家庭の教育に任せた方が適當なものも存するであらうけれども、また學校教育を適當とする事項も澤山にある。ゆゑに之に向つて何等かの手段を講ずべきは勿論、また其の境地を開拓すべき努力を惜んではならないと思ふ。

この點に於いて私は尋常小學校に於いては女子教育としての家事科のみでなく、男女を通じての家事科といふものゝ創設が必要であると考へる。然し、現下の教科構成に於いて家事科の特設

を目論まんとすれば教授數を如何にすべきかに就いて豫め考へるところがなければならぬ。

勿論、其の構成の實際に際しては現今の裁縫科と合して家事科とするとか、或はもつと内容を廣くつて生活科或は其の他の名目を附することになるであらうと思はれるが、兎に角近代に至つて其の必要を痛感されて來た「榮養」の如きは單に高等小學の家事科の一部にのみ擔當せしむべき事項ではない。ゆゑにこれは單に家事科教師にのみ課せらるべき宿題ではなく、學校長も男教師も乃至は教育行政當局も共に考案すべき問題であると信ずる。

他教科の家事化

以上のことを考へると、現在の尋常小學校に於ける家事教育なるものは、

家事科と稱する教科の活動によらずして、多教科内容の家事化によつて其の目的を達せねばならぬことになる。これは、私の考へるところによれば普通教育の趣旨の徹底のためにも當然のことであり本質的な教育への道でもある。如何となれば從來の普通教育なるものは其の内容が餘りにも抽象的であり、概念的であつたがために著しく普通教育の本質に反したものであつた。これは家事化すべきものゝ家事化によつて其の本道へと戻ることが出来る。例へば理科の教授に於いて「電燈」を教へるとしても、その構造や作用を教へるに止らず、照明法の得失乃至料金にまでも

第三 高等小學校に於ける家事教授



第三 高等小學校に於ける家事教授

及ばなくては實際化されて来ない。そこに理科と實際生活との連絡がある。それには理科の家事化であり家事の理科化なるところの學習があり、それを理科の時間に配すべきか家事の時間に配すべきかは教授者の意見に従ふべきであるが、學習の實質はそこになければならぬ。彼の廣島高等師範學校に於ける「理家科」の主張の如きは深く味はつてよいことと思ふのである。

他教科中の家事的事項 今、尋常小學校に於ける各教科に含まれる家事的事項中、特に食物に關係あるもののみを摘記してみれば次の如きものがある。

尋 四

讀本	潮干狩
理科	さくら
同	あぶらな
同	あぶらなの實
同	きうり
同	なす
讀本	航海の話
同	海の生物
理科	ゆり

尋 五

讀本	トラツク島便り
同	養雞
同	若葉の山道
理科	そらまめ
讀本	弟から兄へ
同	老社長
理科	竹
同	ねずみ
讀本	東京から青森まで

尋 六

理科	海藻
同	うに、なまこ
同	二枚貝
同	えび、かに、みぢんこ
同	たねの發芽
同	麥
同	炭酸ソーダ
同	石灰
同	醋酸

第三 高等小學校に於ける家事教授

勿論、右は食物に關係ある事項を含むといふ意味のものを摘出したもので、讀本教授に於いて食物教授をなすべき要求もつものではない。さりながら、理科教授などに於ては十分家事化して欲しいものがあり、聯絡を緊密にすべき必要のあるものもある。而して右は食品食物に關する事

同	はす
修身	身體
同	彼岸
理科	馬
同	牛
同	いも
同	にはとり
同	あひる
同	水
讀本	餅つき

理科	ふな
讀本	いもほり
修身	兄弟
讀本	初秋
理科	稻
同	しだ
同	栗の實
讀本	針の木
理科	鐵
讀本	輸出入
理科	すゞ、鉛、あえん、
同	アルミニウム
同	銅
讀本	温室の中
同	捕鯨船

修身	工夫
理科	いか、たこ
讀本	南米より
理科	流水の働き
同	熱のうつり方
同	熱と氣體の壓力
修身	公民の務
讀本	蜜柑山
同	十和田湖
同	まぐる網
理科	食物
同	消化
同	循環
同	呼吸



第三 高等小學校に於ける家事教授

項のみを挙げたのであるが、更に衣服に關する事項、住居に關する事項を挙げてみても右の趣旨は依然として存することと思ふ。

のみならず、之を教科と限らざる日常生活の中に求めたならば家事的修練の事項は澤山にあり、家事的な生活指導の機會は決して少なくはないのである。特に辨當の如きに對して家庭と連絡の上その指導を怠らぬことは極めて必要なことであり、家事教育はそこに漸次に建設されて行くこと考へる。

〔二〕 高等小學校の家事科

**家事科の特設** 女兒の用ふる讀本に家事上の事項を加へよとか、女兒に對する理科教授に家事を併せ授くべしとかすることにも勿論意味はある。が前項にも述べた如く高等小學校の女兒は青春期的發育を開始する時代であり、個性的自覺の始まる時代であるから、女性独自の教科たる家事科を課することによつて、家庭生活の意義と女性の天性を理解せしむると共に、家事的實務の教育を行ふことは極めて大切なことである。

それと共に考へることは、現代に於ける尋常小學校の課程を修了し更に高等小學校に入學する者の數が五五%乃至六〇%に上ること、これは高等小學校教育の重要性を物語るものでなくてはならない。ゆゑに、高等小學校の女兒に對する家事科の教養は常に彼女等の爲めに必要なのみならず、一國文化の内容よりみても、極めて意義のあることであるといふべきである。而して更に國民の營む家庭生活の充實と向上とが直に國力に反映することを思ふならば、そこに國民的に重要な意義を高等小學の女兒教育に認めねば止むまい。

我が國高等小學校に於ける家事科の獨立は大正八年に於ける小學校令の改正からで、それには隨意科ともなし得るやう規定してあつた。然る大に正十五年の改正に於いて家事科は必須科として不動の存在となつたものである。これが現在にまで及んでゐる法令であり現行の家事科はその趣旨に於てである。即ち、從來一週四時間であつた裁縫科が家事科と合せて四時間となつたものであるがゆゑに、當今家事教授時間數を一週一時間とする學校もあり二時間とする學校もある現狀をつくつたのである。

**家事裁縫中心の教育**

世には女子教育は家事裁縫を中心とすべしと説く者がある。私もそれ

第三 高等小學校に於ける家事教授



第三 高等小學校に於ける家事教授

に賛成である。然しながら、一週一時間や二時間の教授時間でその趣旨が實行出来るか何うか。それは極めて疑問といはねばならぬ。さりながら翻つて考へてみるに家事教育なるものは其の性質として家事科とその他の教科との間に内容的に連絡統一すべきものが甚だ多い。これが或者をして家事科は諸教科の綜合されたものであるなどいはしめる所以であつて、かゝる一面觀の存在も無理とはいへない。例へば家庭生活の社會的・道德的意義を理解せしむるには修身科の内容と關係を有し、家庭實務上の知識技能に關しては理科と深い關係にある如きはそれである。だが、家事科の理科化と共に理科の家事化を意圖して其處に家庭實務の向上を期すると共に、家庭生活の精神によつて其の實務に生命をもたせ、實務の向上充實によつて家庭生活の精神が生きる事を考へるべきであるがゆゑに、強がち諸教科の綜合が直ちに家事科であるといはなくとも宜しい。而してその目指すところが女性獨自のものであるが故に、そこに女性獨自の天地がありそこに國民生活上重要な意義を有ち人類生活上緊切な地位を占むることを自覺して進むべきである。

文化原理と兒童原理

然し教へたい事項が何うあらうとも法令が何うあらうとも、唯それだけでは教育——少くとも本質的な教育は成立しない。換言すれば文化原理だけでは本質的な教育

は成立しない。そこに前述した高等小學校の女兒といふものを凝視しなければならぬ所以がある。例へば新らしく出來た文部省の小學校裁縫教授書が從來の裁縫教授書に比すれば一頭地を抜いたものであつたにしても、そこには未だ實用から發達して來た裁縫教授の面影を存じてゐるがために、本質的な裁縫教授として疑問の餘地の存する如きはそれである。それを考へると家事科で教へる知識なり技能なりは兒女の發達に適應すべきであり、兒女の發達は家事科を課せらるべく適當なりや否やを考察してみなくてはならない。

右の意味に於いて、某女子師範の附屬小學校で調査した兒女の家事生活はいゝ資料を提供して呉れたものとして大いに參考すべきである。それは次の如きものである。

高等科女兒の家庭に於ける家事手傳の調査

住居修理保存	三一・二五%
戸締	一〇〇・〇〇%
室内掃除	一〇〇・〇〇%
疊建具手入	七二・八一%
器具の手入	七一・二五%

第三 高等小學校に於ける家事教授



第三 高等小學校に於ける家事教授

雑具の手入	五六・二五%
衣服	七四・三八%
洗濯	九二・一九%
しみ抜き	二八・一三%
看病	三七・五〇%
病人の食物	三四・三七%
應急手当	一二・五〇%
飯炊き	七八・一三%
野菜料理	五四・六九%
汁の料理	六八・七五%
魚料理	二九・六八%
肉卵料理	三一・二五%
漬物	三五・九四%
嬰兒の世話	五四・六九%

勿論、この調査の内容には様々な解釋が必要である。例へば家庭教育の方針として手傳をなる

べく課する家庭もあらうし課するに及ばぬ程人手の多い家庭もあらう。嬰兒のない家庭ではその世話をしたい思つても出来ないであらうし、病人の食物や應急手当には其の機會のなかつたものもあらう。だが之を全般的にいふならば兒女の日常生活中には前記の家事事項に關し何等かの經驗をもつてゐることは事實であり生活體驗のあることも事實である。蓋しこの事實こそ家事教授の立脚すべき地點で、この生活を生かすこの芽を伸ばして行くことにこそ家事教授の本質的なるものはあると思ふ。如何となれば教育は元來兒童の生活の擴充であるべきであるからである。この意味に於いて文化原理と共に兒童原理は當然考慮されねばならぬことと思ふ。

**日本の女性の教育としての家事科**　そこで最後に私の考へることは日本女性の教育としての

家事科といふことに就いてである。社會生活といふ言葉の内容には種々あるであらうが其の最も理想的なものは家庭生活である。而して我が國の家庭生活は世界に冠たる特質を有するものである。これが綜合家族制たる我が國の燦然たる光輝でありその實質でありその内容である。ゆゑにその世界に冠たる特質を有する家庭生活の鍵を握るべき女性の教育が即ち日本の家政教育であらねばならぬのである。勿論我が國のこの特質は外來の思想により技藝により常に洗練されて光輝

第三 高等小學校に於ける家事教授



第三 高等小學校に於ける家事教授

を發するであらうがゆゑに、其の形式に於いては必ずしも舊習を墨守するところはないかも知れないが、其の特質は之を失つてはならない。そこに日本女性の獨特なものを建設するところがなくてはならない。これが外來家事を無條件で鵜呑みすることの非なる所以であり、高等小學校の家事科も其の重要性に鑑みて確たる地歩を占むべき所以でもある。この意味からすれば我が國人の約七割を占むる農村女性の教育——家事教授の影響するところは國民的にみて甚だ重大な實質を形成するものといふべきである。

〔三〕 生活改善運動と家事科

家事科内容の不鮮明 敢へて家事科に限つたことではないが、凡そ教育のことは常識的に誰にでも意見を立てることが出来る。だから等しく兒童の訓練方針乃至教授方針でありながら、説く人によつて淺薄なことを尤もらしくいふものもあり、卑近のやうなことをいつてゐる中にも味ひのあることをいふものもある。それは一つには其の人の生活經驗の差であり一つには教養の差によるものである。

ところで、右の混濁の甚しいものゝ一つに家事科内容に関する意見があることは、敢へて私一個の所感ばかりではあるまいと考へる、例へば家事科の内容といへば誰しも衣・食・住・育児・看護・經濟と指を折つて數へる。然しながら其の六項目の重要さ乃至兒女の學習上の適當さといふ如きことに至つては餘り考へて居るものが少ないやうである。ゆゑに其の重要さ適當さに於て食物も全體の六分の一であり看護も六分の一であると考へて居るものがかなり多く、更に教科書を中心として之を一年間の教授時數に割當てゝ教へてゐる向が最も多いやうに見受けられる。

私は曾て現代の家事科は分量主義であつて本質主義でないことを慨いたことがあつた。それは極めて平板な常識から家事科の内容を定め、あれも必要これも必要と必要づくめで熊手で物を搔込むが如くに掻集めることの無意味を慨いたのであつた。考へてみれば、吾々の日常生活に於て學ばせておきたいこと知らせておきたいことは山の如くある。例へば下駄の緒の立て方も教へておきたいし家庭日誌の記入方も教へておきたい。掃除の仕方も教へておきたいし硝子戸の磨き方も教へておきたい。また、妊娠中の心得も教へておきたいしおむつのあて方も教へておきたいとするのはそれである。だが限りある教授時間で左様な分量的な教授が出来るか何うか、また、た

第三 高等小學校に於ける家事教授



第三 高等小學校に於ける家事教授

とひ教へたとしてもそれに如何程の教育的効果を認ることが出来るか。問題はそこである。

**生活改善運動と家事科** 家事教授も大きく考へれば生活改善運動である。學校といふ機關を通じての組織的な生活改善運動の一種である。けれども、その生活改善も對者によつて指導するところを異にしなければならぬ。恰もそれは病症に應じて投藥するの類で對者の生活に立脚してそれを擴充することによつて意味をなす。この點に従來の家事科内容は甚だ曖昧なものがある。例へば便所臺所改善の如きは之を小學校の兒女に説いたとて、箇條的に覺えることはするであらうが、實際上の改善は行はるゝものではない。にも關らず教師の或者は極めて熱心に之を説いてゐる向がある。これは私には解し得ざる態度であり教育として無用な努力ではないかと考へる。それよりも處女會乃至女子青年團といふ如き熱意ある人々の奮起によつて共同的に之を敢行し、使用によつて實際的に之を體認せしむる方が適當であると考へる。敢へて便所の改善に限らず、兒女の手を負へぬこと乃至多額の金圓を要することは小學校兒女には無理である。若し夫れ小學校の兒女を通じて改善運動を試みたとしても、それは兒女の父兄への働きかけであつて兒女を對象とする活動ではないのである。ゆゑに、私は、家事科の内容は兒女の生活の擴充であり兒女の

生活の改善向上であるべきであり、父兄に説くべき事項を兒女に説くは當を失するものであると考へる。

右の點は、教材論として考へれば不適當なる教材といふことになり、教授者の最も意を用ふべきところである。而して限りある時間内にその効果を擧げんには此の點に深き考慮なくてはかなはぬところで、彼の教科書を無條件に受入れて兒女に對する適不適の考察を怠る如きは大いに戒めねばならぬところである。

第三 高等小學校に於ける家事教授



## 第四 高等小學校の家事教科書

### 〔一〕 理科家事教科書の有つ意味

高等小學理科家事教科書 大正三年と大正四年とに互つて發行された「高等小學理科家事教科書」は昭和八年と昭和九年とにわたつて「高等小學家事教科書」の發行されるまで、一度も改訂されずゐた。その間實に二十年である。ゆゑに小學校女教員會や其他家事研究會などからは建議や希望が頻りに起つてゐた。その改訂要望の聲の中には勿論尤もな事が多かつたが、中には左程に考へずゐるものもあつた。例へば二十年以前に發行されて内容が古いから改訂せよとの要望の如きはそれである。けれども徐に考へてみれば二十年といふことは左程問題となるべきものではない。それが證據には舊家事教科書中に記載された内容で今度の新家事教科書中に採擇されてゐるものもあり、更に今度の新家事教科書中にもなくもがな挿畫などもないでもない。ゆゑに一

層適切な教科書の出現を望むこそよけれ、十年前のものだから改訂せよといふことは理由にはならない。私ひそかに考へたのはあの理科家事の趣旨を一層徹底させ、而して女兒の生活を凝視したものに改訂したならば適當なものが生れはしないかといふことであつた。

**理科化と家事化** 先にも述べた如く、家事科が一層理科化され理科が一層家事化されることによつて、そこに未分化の領域、統一ある領域、統合された領域が漸次に擴張されて、教科分立の弊は防止され、兒女の生活は生命ある擴充をみる事が出来る。この意味に於いて廣島高等師範學校の理家科は見識ある教育といふべきである。

かう考へることによつて、理科家事教科書は決して無意味なものではない。唯その趣旨を徹底すべく而して兒女を対象とする教科書としての適當さを要望すればよいと思ふ。序であるからお断りしておくが、それは主として家庭の實務を教授する上のことであつて現今の家事科の内容は即ちそれである。ゆゑに教科の廢合を何等かの基準によつて行はうとする場合、そこに理想的な内容をもつ家事科の建設を目論む時には單に理科家事だけで不足であることは勿論である。

**農村家庭生活の理科化** 理論のない家庭實務ほど倦怠を覺えるものはない。時に珍らしい料





第四 高等小學校の家事教科書

理とか洗濯法とかが傳へられても、理論なくして形式に囚はれ形だけの傳習に過ぎないものならば其處に創造されるものがない。創造なければ生を缺き結局次の新しい模倣へと移るべく要求するやうになつて来る。これ、農村生活が常に都市生活の影を逐ふて流れる傾向にある所以である。

都市の生活は決して高程度のものといふべきでもなく、進歩したものといふべきでもない。程度とか進歩とかいふものは其處に如何なる創造があり其の創造が吾等の生活を幸福にしてゐるかといふことである。ゆゑに、都市生活に依存する農村生活には進歩がみられないと同様に、理論のない都市生活實務であるならば、其處に創造はみられないがゆゑに程度の低い生活といつてよい。この意味に於いて、それが農村であらうと山村であらうと漁村であらうと、如何なる土地であらうとも、人類の生活のあるところには必ず文化といふものがあり、文化の蔭には原理があり理論が宿つてゐるべき筈である。これを發見し、これを凝視し、更に之を伸展せしむべきことが教育の力であらねばならぬ。この見地に立つて眺める時、農村生活の現状は、生活實務の理論化に目覺めることは比較的少ない。従つてそこには傳統を墨守するところが頗る多いといふことになる。蓋し家事教授は此の點の開發に向ひ其處に効果を求むべきではないか。故に、農村の家事

教授は其の現状に立脚した理科家事の教授であるべきを考へる。

〔二〕 新家事教科書と世論

高等一學年用に就て 昭和八年四月、「高等小學校家事教科書」第一學年用が發行されるや、久しき待望の的であつた爲めか教育實際家は歡聲を擧げて之を迎へた。勿論、その立場々々に據つて様々の非難もあつたやうであるが、概していふと好評であつた。今その要點を左に列挙してみる。

記載が具體的である 從來の教科書は文語文であり、その記述も頗る抽象的であつたが、此の度の教科書では口語文が採用され、其の内容もかなり詳しく具體的に記述されてゐる。これは兒童の研究にも大分都合がよい。例へば

舊教科書

新教科書

飯の炊き方

米と米飯、麥と麥飯

野菜の煮方

煮べ、すゐとん

衣服の洗濯

單衣の全洗ひ、木綿物の解洗ひ

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

教材の選擇と排列に就て

從來の教科書に於て第三學期に配當されてゐた看護教材が除かれたこと、また住居教材の中でも住居の修理保存といふ如き六年を卒へたばかりの児童には思ひもよらぬやうな教材が省かれ、井戸と水道、電燈、火鉢、ストーブ等の教材が採擇されたことなどまことに児童生活に適したものとつたといふことが出来よう。また児童の大いに期待をかけてきてゐる食物教材を思ひ切つて一學年に取入れてある點など雙手をあげて賛意を表するものである。

其の排列に於ても舊教科書に於ては、一學期に配當されてゐた住居に關する事項が第二學期の始に廻され、相當に家事科についての理解も進み關心も多くなつてきた頃に取扱はれるやうになつてゐる如き、また二學年の三學期になつてやう／＼取扱はれた食物教材が一學年用の二學期の後半から加へられて居る如き、まことに児童の心理的要求に合した改訂であるといひ得よう。

**生活を科學的にとの精神** 生活を科學的に指導しようとする精神が積極的に取り入れられて居る。

從來の教科書は大人の經驗的な知識や技術をそのまゝの手心で教へようとする如く見らるゝものであつたが、此の度の新訂教科書は生活を科學的に指導しようとする精神の充分あらはれたも

のとなつた。これは何の課といはず總ての課がさうであつて、例へば割烹教材にしても從來の教科書の如く只こしらへ方のみの記述ではなく、材料の成分、營養價值、分量、時間など、その内容が頗る科學的なものとなつて居る。また現代的文化的な教材も相當に多く取り入れられてゐるが、此等の事はともすれば因襲的になりやすい現在の我が國の家事の實際を改善する點から考へてもまことによるこばしきことといはねばならぬ。

**實習を中心生命とした**

從來の教科書は抽象的な知識を羅列してこれを暗記せしむることを目的としたやうで、恰も女學校の家事教科書を拔萃したものゝやうであつたが、新家事教科書は實習を中心として、どこまでも其の知識を具體的實際的なものとし児童のものとしようとする心持が隨所にうかゞはれる。

**民衆的な教材が多い**

するとな、煮べ、麥飯、炬燵、行火など國民の大多數が日常親しみつゝある民衆的な教材を取入れたことは、家事教育徹底の上に喜ばしいことである。白飯とかお客料理とかに苦心した時代は過ぎ去つたやうな氣がする。

**挿畫の増加**

至るところに挿繪が挿入されてあつて児童の理解を助けてゐることは新教科書



第四 高等小學校の家事教科書

の大いに面目を革めた點といふことが出来る。

従來の教科書に於ては一學年用には一圖もなく、二學年用にわずか六圖しかなかった。教授上説明に困難であつたこと、また掛圖の製作に骨の折れたことなど、誰しも経験したことであつたと思ふ。

疑問の點六つ 望蜀の希望として述べてみれば左の六つ。

- 一、實習を家事科學習上の大事な生命とする以上、今一步進んで實習手引書とも云ふべき書き振りの部分があつて欲しかつたと思ふ。
- 二、文部省の教科書としては、都市も田園も同時に目標として編纂しなくてはならぬので、己を得ぬ事であると思ふが、國語讀本の様な、國民共通のものにてよろしかるべき筈のものすら二種の教科書のある現代である。地方的であるべき家事科に於ては少くとも都市、田園の二種位には分別編纂を希望するものである。今回の改訂は餘程結構な改正ではあるが、蜀を望めば此の點に帶に短かし禱に長しの感がある。
- 三、従來の教科書に絶無であつた挿畫を而かも多數に加へられた事については賛意を表するもの

であるが、無くもがなとも思はれる四頁の掃除道具や九頁の洗濯用具や、四五頁上半の立栴の縮圖等は省いて、兒童の直觀に比較的不便なもの實物にては説明に困難なもの等の説明圖、又は之によつて想像記憶を助ける様なもの等の挿畫を増加することを希望する。

四、全體の調子が平民的一般的に引き下がつて來た事は今回の改訂の一特徴とも言ふべき美點であらうが、まだく有産階級臭味が脱け切らない點が相當にあると思ふ。故に今後に於て田園用のものを作つて此の缺を補つて貰ひたいと思ふ。今日の女子に詐りのない告白を聞いたならば、次男三男の俸給生活者に嫁したいと考へて居る時代なのだから。

五、洗濯實習の準備及び方法は、我國現在家庭の中流以下に準じたるが如きものであるが、さて住宅の設計圖を見ると、玄關付きでしかも表玄關内玄關、女中室から客間・居間等、下が六間に二階が二間、地方では女學校生徒の家庭にも、かゝる住宅は余り多くはない位である。況して地方の高等小學校兒童の家庭としてはその懸隔も甚だしく、教育は兒童現在生活の完成と云ふ立場より眺めても如何かと思はれる。

六、又すべてが論理的に説明しつゝ記述されたる中に、下駄及び傘の取扱ひ等の記述は、平凡に



第四 高等小學校の家事教科書

過ぎて物足らぬ感がする。此等は教材の精選に今少しの注意を要する點で、全體に制限される時間内に於ける家事教材は、母姉の家庭指導に任ずる能はざる相當の價值あるものをつて指導すべきではないかと思ふ。

以上が世論として現はれたものゝ要點である。尙ほ私どもの希望に應じて、雑誌「家事及裁縫」に感想を寄稿されたものゝ中から其の二三を左に掲げてみる。

一、從來の文部省の教科書

余は嘗て、從來の文部省の家事教科書について、次の様な缺點を持つて居るといふ事を擧げた。

- 一、將來の生活準備の家事教科書であつたこと。
- 二、教師の教へんが爲めの家事にして、兒童の學ばんが爲めの家事教科書でない事。
- 三、實演實習に不適當な教科書であつた事。
- 四、概念記憶の爲めの家事で、工夫を練る爲めの教科書でなかつた事。
- 五、結果主義の家事で、過程を重んじない教科書であつた事。
- 六、主觀的手心の家事で、科學的計量的の家事教科書でなかつた事。(中略)

二、文部省修正教科書

然るに今回文部省が修正を決定せられて、其の第一卷たる高等小學第一學年用が發刊された。就いて之を見るに、吾人の先きに述べた様な缺陷を大いに參酌されて、右に傾き過ぎた舊套を捨て、大いに正中线に向つて振り下つて來た事を見出すものであつて、自分は非常なる興味と満足と感謝とを以て、此の教科書を一讀したものである。(中略)

三、教師の家事より兒童の家事へ

從來のものは、何となく將來の生活準備といふ匂ひに蔽はれて居たので、教師の教へんが爲めの家事で従つて教材の選擇から云つても、排列から云つても、其の臭氣を脱することが出来なかつた。又抽象的概念を傳達するに過ぎない教科書であつた。然るに今回の修正のものは、具體的事實を兒童の日常生活の中より整理し來つて、兒童に相應はしい系統ある知識に導かれて行く様に、將來の生活準備且つ教師本位の家事でなく兒童本位の教科書となつた事は喜ばしい事である。試みに

(從來の教科書)

住居・住居の修理保存

掃除

白布類の洗濯

等の内容を見ても直ちに首肯せられる所であらう。

(改訂新教科書)

住宅・井戸と水道・電燈

掃除

木綿織物・白木綿の漂白・單衣の全洗・木綿物の解洗

四、實習を生命とする家事へ

第四 高等小學校の家事教科書



#### 第四 高等小學校の家事教科書

従來の教科書は、大人の要求を、抽象的の言葉を以て、概念的に授けて、之を鵜呑みにして、暗記せしめる爲めに編纂せられたものではないかと思はしめる程のものであつた。然るに今回の修正に於ては、實習指導書までは行かないけれども、實習を家事科の中心生命とする心持ちが隨所に現はれて居るのが愉快に感ぜられることである。又實習を主とする點から考へても、生徒の實生活を基礎とする以上、教材は循環的に排列すべきであるといふ要求にも合して改正された事も結構な事である。

次の二三の課を新舊比較對照されても直ちに此の點に氣付かれる事と思ふ。

(舊教科書)

白布類の洗濯

(新教科書)

衣服の洗濯

木綿織物・白木綿の漂白

高二食物の部

單衣の全洗・木綿物の解洗

#### 五、手心經驗の家事より科學的計量的の家事へ

従來の教科書は何れを見ても、大人の經驗の家事、經驗より來る手心で行つて居つた家事を、其の儘手心で教へようとする教科書であつたと思ふ。成り上つた主婦としてはこゝまで行かなければならないものであらうけれども、其の過程としては、どこまでも科學的の検討を加へ、物差しも、秤も、秤もなくてはならず、算盤も備忘録も必要のものであると思ふ。高等小學の家事科は兒童としては、始めて獨立の教科として習ふ所のもので、第一歩の獨立過程である點を考へても、科學的基礎と計量的基礎との上に日常生活

活の組み立てられて居る事を先づ感得せしめつゝ進んで行くことが、高等科第一學年の家事科の大事な任務でなければならぬと思ふ。此の點に深き注意を注がれた事は著しい進歩と云はなくてはならぬ。此の點に關しては特に比較を擧げる必要もない程に、殆んど凡べての課が此の精神を表はし居ると云つてもよいと思ふ。昨年の秋「家事及裁縫社」で行はれた家事研究發表會に於て、家事は藝術的に述べられた方があつたが、之も觀念の遊戯としては結構であらうが、現在の我國の家事は、先づ科學的であるべく此の點まで引き上げねばならぬ状態にありはせぬかと私は申したのであるが、文部省の今回の修正が此所まで引き上げて下さつた事に感謝して居るものである。

#### 六、兒童の心理的要求を考へた家事へ

教材の選擇から云ふても、排列から云ふても、挿畫の絶無の點から云ふても、従來の教科書は兒童の心理的要求を考へたものと云ふことは出来なかつたものであるが、今回の修正によつて、教材の選擇に於ては、(高等二學年用を見なくては云へぬ事ではあるが)住居の修理保存や看病の心得や薬用及び介抱や病人の衣食住や應急手當の如き、未だ尋六を終へたばかりの兒童の思ひもよらない様な教材を省き(或は之を下巻に廻したかも知れないが)兒童の實際に行ひ得る、單衣の全洗ひ、白木綿洗濯漂白等を加へ、具體的直觀的材料である電燈・火鉢・ストーブ等を選択した事等も兒童の心理的要求を考へた點であると思ふ。従來挿畫の絶無であつた教科書に挿畫を多數に加へて(無くもがなの挿畫もあるが)兒童の理解を早めたり深めたりするのみならず、興味を以て之に對することを得る様に工夫された。兒童の心理的要求に合

#### 第四 高等小學校の家事教科書



#### 第四 高等小學校の家事教科書

せしめる工夫の一で、一大進歩と認むべきであると思ふ。

又教材の排列に留意して児童心理の發達に應じようとした苦心の跡も明らかに窺はれると思ふ。

即ち舊教科書に於て、開卷第一より書かれた住居に關した事柄は、第二學期の初めに廻はされ、相當に家事科についての理解が進み、關心も多くなつて來た頃に、取扱はれる如くなつて居る事の如き、上卷には其の匂ひさへ何ふことの出來なかつた食物に關する教材が、下卷から上卷に廻されて、而かも第二學期の終りから加へられて居る如き、皆な會心の改訂であると云ふべきであり、児童の心理的要求に合したものであると思ふ。(長野縣、春原平八郎氏)

一、待ちに待つてゐた家事の教科書を手にした時、唯嬉しきで一杯でした。私は此の教科書の發行される事をどれ程待つてゐた事でせう。之は家事教授に當る者の等しく感ずる所であつたと信じます。(中略)かゝる時に新しい書物が發行されましたので非常な喜びを以て之を迎へたので御座います。新教科書に對しての第一印象は表紙でした。溫和な落付いた色。そして女らしいやさしい書體は家事の書物にふさはしく宛も内容を物語るかの感じが致しました。

二、記載の方法について先づ愉快に感じた事は、挿繪が多くはいつてゐる事と、上欄が有効に使用されてゐる事でした。洗濯液、糊液の作り方等、其の他色々の分量が明瞭に示され、之を摘出記載されてゐる事は誠に結構な事と思ひます。元來日本人は一般に技術が主觀的で、手加減、目分量が多かつた様に思

はれますが、之を客觀化して行く事は、家庭生活の向上より考へても喜ばしい事と思ひます。大いに計器の使用に慣れさせ、量に對する觀念を養ひたいと思つて居ります。

三、内容は以前のに比してかなり委しく、具體的に示されてゐるので児童自らが研究するに都合がよくなりました。児童が家庭に於いて經驗してゐる事、又は母姉の實行されてゐる方法と比較して、自ら研究し、自發的な學習態度を以て實習に臨む事が容易になる事を期待してゐます。

教科書は變つても指導は從來通り郷土に適した方法でなければならぬと思ひます。教科書は全國共通のものであり、家事教育の目標たる家庭生活は地方によつて異なる。従つて地方により教授の内容に多少の差異を生ずる事は當然の事と思ひます。但し原則は飽くまで原則で、教科書の精神を掴む事を旨としての地方的な指導が最も必要だと思ひます。

四、一年に於て衣食住の全般に亘つて一通り學習するやうになつてゐる事は、児童の生活指導より見て、然るべき事と思ひます。特に割烹が取入れられてゐることは大いに賛成する所であります。児童は既に家庭に於て炊事の手傳をしてゐるのに、前の書物に之が入れられてなかつたのは餘りに生活に離れた方法だと思つて居りました。(併し以前も指導はしてゐましたけれど)。唯こゝに遺憾に思ふのは、理科との連絡であります。食物の成分に關係ある理科の教材は多く高等二年に出て居りますので、現在の所では家事が先になる結果となります。併し料理をすれば、材料の成分及びその性質については、相當の理解を以て之に當らせたい希望を持つて居ります。さうすれば、結局現在の理想としては、食物に關

#### 第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

係ある理科の教材は一年の中に取扱ふやうにしたいと考へます。

五、次は料理教材の内容であるが、以前のは唯料理法の説明のみに終つてゐたが、今度のは更に、其の材料の成分、及び効果が記されてゐる事は雙手を擧げて賛意を表する所であります。單に習慣的に之を用ふるとか嗜好のみを考へて無意識的に用ふるのではなく、如何なる成分のものであるか身體に如何なる効果があるかといふ事を自覺して之を使用する事は非常に重要な事で、新教科書はかやうな態度を養成する上に好都合だと思つて喜んで居ります。(福岡縣、鶴本マヌエ氏)

今般文部省から發行になりました高等小學校家事教科書は私共家事科指導の實務にあたります者の渴望してゐましたもので誠に理想的だと思ひます。

殊にうれしく感じました點は

- 一、文章語句が平易で解説が丁寧で挿繪を以て説明してありますから、理解し易い。
- 二、原理を明かにして、その取扱ひ法が示してありますから、科學的に處理が出来ます。
- 三、教材内容が實際生活に即して居り、しかも如何なる家庭にも妥當でありますから、兒童は學習しました事を實際化することが出来、又家事科の郷土的發展の資料とすることが出来ます。
- 四、教材の排列が季節をよく考慮してあります。
- 五、食物の調理や洗濯等の教材に於ては、所要分量、所要時間を正確に示してありますから、家庭實習の

場合の指導者となり、延いては浪費が省けて、經濟的觀念を涵養することが出来ます。

六、保健食の献立調理に最も必要な食品分析表の附録されてあります事が最もよろこばしい。(岡山縣、小崎としゑ氏)

家事教科書の改正、それは小學校に於ける家事教育のために誠に喜ばしいことであります。

未だ改正の趣意書も教師用書も手に入りませんので立ち入つたことは申述べかねますがたゞ感想の一端を極く簡単に述べてみます。

表紙の色及び圖案について

家事教科書にふさはしい衣食に關する圖案が考へられて書體も優しくて如何にもやはらかな女性らしさが溢れてゐますことを嬉しく思ひます。

教材の選擇について

従來は一學年には食物に關する教材がなかつたので生活に即しない感があつたのですが、今度は衣服・住居・食物の方面から選擇されてゐることは誠に賛成であります。

記述の内容について

記述の方法が非常に具體的になつてゐること。例へば分量を明示されたこと。挿繪が多くなつてゐること。相當に農村の生活状態を重視せられてゐると同時に文化方面に力が注がれてゐること。

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

全體に於て普遍妥當性を有する家事教科書と云ふことが出来ると思ひます。(下略)(福岡縣、野村たつ子氏)

- 一、教材排列の工夫、實際的、心理的である。
- 二、文化的な教材を加へられた點、挿繪も同様。
- 三、日常生活の全く基礎的なる教材をよく選擇せられ兒童心理の發達過程に應じたる説明である。
- 四、割烹教材の配當されたことは誠に喜ばしいが、住居教材がどうしても、一年に配當せられてゐる點は遺憾に思ふ。(茨城縣、安島ふき氏)

○  
 挿畫の必要なのは理解を助けるためである。つまり一種の媒介物なのである。この趣旨が今度の新教科書にどれだけ表はれてゐるか。四頁の箒の繪などは何の必要で出したのであるか。机上の編纂は之だから困る。また九頁の洗濯用具も同じで、これが張板です。これが盥です。物干竿です、など、尤もらしく説明する先生の姿を想像する時、家事科といふものは如何にも變なものであるといふ感じを與へずには措かないであらう。

更に三〇頁のストーブの繪はどんなものであらう。これらの種類のあることを知つて何にするのか、一

向に其の意味が解されぬ。それより若し之を知らしめる必要があるとしたならば瓦斯會社のカタログの方が餘程理解を助ける。

終りに三六頁の障子の張替へも何んなものだらう。學校で練習するには不要な障子が四十何本も入用である。こんなことを考へると挿畫は未完成である。(山形縣、木寺文子氏)

〔三〕 新家事教科書の批判

教科書改訂に對する要望 從來、國定家事教科書の改訂に就いては實際教育家から様々の要

望があつた。而して其の中には卓見と思はれるものもあつたが、また無理な要求もあつた。而して其の無理な要求とみるべきもの、一つには、小學校の家事科内容をして高等女學校のそれと似たものにしてしようとする要求であつた。高等女學校に於いて家事科の課せられるは多くは最後の二學年間であるがゆゑに、高等小學校の兒童とは其の發達に於いて既に懸隔がある。また兩者の間には教授時間數に於いて大差がある。これらのことを考へると、家事科に熱心の餘りに要求するところは、其の心情は諒とするも要求そのものは無理であるといはねばならぬのである。況んや現今の高等女學校の家事教科書なるものが完全なものであるならば兎に角、其の内容には幾多の



第四 高等小學校の家事教科書

議論の存するに於ては勿論のことである。

この時に於いて私の手にした要求の中で左の如き要求は當時私も大いに賛成したところであり、今度の改訂にも採入れられたところが多かつたことをみる。

一、形式上の要求

- (1) 語體を口語文にして、用語を平易にすること。
- (2) 挿繪を多くすること。
- (3) 研究事項の記入をすることの出来るやうに、白欄を設けること。
- (4) 自習に便するやうなものにするためには記述を詳細にしたい。就いては定價も従つて少し位高價になつても差支あるまい。

二、内容上の要求

- (1) 高一教科書の始に、家事科の地位使命等を授くる課を特設すること。
- (2) 小學校理科教材との關係と聯絡を緊密にするため、参考欄を設け、聯絡事項或は解説を加へること。

- (3) 成るべく詳密の食品分析表を添附すること。
- (4) 食物教材に於ては特に營養學的顧慮を深くあらはしめたい。
- (5) 食物教材の範圍を廣めること。
- (6) 従來は家事學習の始めは住居教材から入るやうになつてゐたが、之は衣服教材から入つた方がよい。

確に面目を革めた

かくして、小學校家事教育界から待望されてゐた文部省の「高等小學校事教科書」はその第一學年の兒童用が昨年四月を以て突如發賣された。私が突如といったのは、出る出るといふ掛けこゑを餘り久しく聞いてゐた上に、學年末に至つても之を手にすることが出来なかつたから、私達には眞に突如の感があつたからである。

早速之を手に取つてみるに、私は先づ「面目を革めた」といふ感をもつた。それは外觀も女子用のものとしては相當の考慮が拂はれて居り、内容に至つても相當の充實さをもつてゐることを認めたからである。

而して又、私はこの教科書が出る以前に全國の各地で熱心に調査研究され且つ實施されてゐた



第四 高等小學校の家事教科書

實狀——少なくとも私の知つて居る範圍に於ける——と、更に私の考へて居る家事教科書に對する要望を思ひ合せて、此の書が決して世の期待を裏切らなかつたことをうれしく思つた。此の點、先づ此の改訂に従事された方々に敬意を表せざるを得ないのである。

教材選擇上の改新

先づ其の第一は民衆的な色彩が見られるといふことである。例へば「炬燵」とか「行火」とか「味噌汁」とか「するとん」とかいふものは從來餘り家事科の教材として顧みられなかつたものであつたけれども、然しそれは一般國民の生活の實狀に於ては冬季間に於ける必須の設備でありまた日常の食料であつた。而して、それが取扱はれない所に從來の家事科なるものが外國文化崇拜といふ非日本的且つ民衆的ならざる生活の上に浮動してゐた輕薄さがあつた。それだけ國民生活と縁のないところに低迷してゐた感が深かつたのである。事實之を衛生的、經濟的にみても、かゝるものを除外して一般民衆の生活が成立つか何うかは極めて明白な事柄である。而して今其の國民の大多數が日常親炙しつゝある生活——現實生活の事項が取扱はれるといふことは生活改造への教育として當を得たものであると信ずる。

次は、生活の實狀に適した選擇が工夫されてゐるといふことである。從來の例に従へば「器具

の手入」と名付けて、鍋、釜も浴室用具も或分類の下に羅列され記載されたものであつたが、それが、今度は「料理用具」と一括して生活の實狀に即した選擇排列がされてゐる如きはそれである。この點に關してはまだく不十分なところがあると考へられるが、一進歩を敢へてしたことは事實である。

次は生活科學化への指導精神が積極的に取入れられてゐることである。例へば「計器」の使用の如きも臺所用のマスやハカリが挿畫にまでなつて入つてゐるが如きはそれである。裁縫にメートル尺を使用するさへ面倒がつてゐる一般家庭としては聊か面喰ふことであらうが、其處に指導的な精神を現はしてゐることは賛成である。

特に科學的な内容を有たしめた點

敢て家事教育といはず、民衆的と科學的とは目下に於ける教育改造の二大基調である。この點に於いて今度の家事教科書が科學的内容を多分に有たしめたことは時代の趨勢に順應するものである。思ふに、從來の家事はさして頭はなくても手さへあれば出來た家事、理論なき家事であつたといつてよからう。而して亦從來の家事科も如上の趨勢に順應して、之に目新しさの被服を着けたに過ぎないものゝ多かつたことも事實である。これが



第四 高等小學校の家事教科書

我が國の家庭をして何時までも進歩を得さしめなかつた重大な原因である。然るに今回の家事教科書がこの點に多分の考慮を拂ひ、以て其の缺點を捕はんとしたことは革新の第一點とみてもよからう。此の點は或者をして「かくまで理科と關係づけねばならぬであらうか」といはしめたこと程、それ程科學的な内容を有たしめてゐる點で、これは注目すべき第一點である。

**教材排列上の革新を喜ぶ** 以上の外、挿畫の多くなつたことも革新の一點とすべきではあるが、それは前教科書に挿畫の皆無であつたことが非難すべきで、今更取立てゝいふべきほどの大事件ではない。

それよりも特記すべきことは、第一學年から食物の教材が排列されてゐるといふことである。私は如何に考へても家計の約四〇%を占めてゐる食費、而してそれは家人の活動の基礎をなす健康と重大な關係のある食物といふものが、高等二學年にならなければ學習出來ないといふ排列には首肯出來兼ねるものであつた。而して此の點が改善されたといふことは實際的ないゝ考へであると禮讃する。

**教授時間數の考慮は如何**

以上は主として私が賛意を表する諸點に就いてあるが、更に仔

細な觀察に入れば、まだく腑に落ちない諸點がないでもない。以下その方面のことを述べてみる。

第一、あの教科書の三十課は之を高等一學年一ケ年間の教材として選擇されたに相違ないが、今之を一週一時間の教授時間とすれば約四十時間で學習せしめねばならぬ。此の平均一課一時間餘となる教材の選擇は、之は教育の實際上如何のものだらう。

この頃、私の所論に對して某縣師範學校の一訓導はこんな手紙を寄越した。

「この程の山形縣の家事裁縫研究會の記事中、教授時數と教材内容とは殊に私の眼をひきました。私事、家事を受持つて丁度一ケ年になります。一ケ年の體験により、一番なやみつゝある問題がこれです。

私の一ケ年の歩み來た跡を眺めてつくづく悲しくなります。大切なく一時間も時々學校の行事の爲め缺かされます。血を吐く思ひです。兒童も教師も共に落膽致します。なやみつゝ教材の整理も思はしく行かず困つてゐます。分量主義は捨てつゝあるつもりでも幾分残つてゐるのか、老婆心からか、あれもこれもと兒童と共に研究したくなるのです。然し兒童が非常に喜

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

んで家事の時間を待つてゐるのを何より力強く感じ、少ない時間でもキツト或何物かをしつかり掴ませやうと骨折つてゐます。」

この手紙を読んだものは目今の家事研究の進展と思ひ合せて、此處に或る問題のみそんでゐることを觀取しないわけには行かない。即ち、家事科の専科教員がゐる毎週二時間の授業をしてゐる高等小學校といふものは、之を全國的にみれば甚だ少ないであらう。法令の上では家事科と裁縫科とで四時間の授業が出来ることになつてゐるから、裁縫科と打合せの上適當な時間をとるであらうが、その打合せ如何によつては家事科一時間といふことにならぬとも限らぬ。ゆゑに之では少な過ぎるといふので放課後の時間を教授に當てるといふやうなところもみられる。勿論、放課時間に喰入つてまでも授業をする熱心さは、之を現代の家事科教師に多く認めるけれども、熱心を萬人に押賣りするわけには行かない。従つて目今の大勢からすれば毎週一時間の授業もないわけでないことを知らねばならぬ。

唯こゝで考へることは、やがて出版せらるべき「高等小學校裁縫新教授書」が二時間見當の教材を盛り入れることと思ふから、之を基準とすることによつて家事科の教授時間は自然一週二時間と決せら

れるではあらうと思ふが、然し、それでも裁縫三時間家事一時間といふ如き打合せをみないとも限らない。實をいふとかゝる配當は教授當事者の決すべき問題であるがゆゑに、家事科擔當者たる者は須らく女子教育の大局に立つて、女子將來の生活のために少なくとも二時間の主張を確持しなければならぬ。私一個の意見からすれば、從來の裁縫偏重の考といふものは女子の將來にとつて決していゝことではない。先づその偏見から打破してかゝることが女子の將來を忠實に考へるものといふべきではあるまいか。

要するに活用は自由自在

大岡監修官の談に「土地の情況によつては三時間にしてもよい。

教材は教科書のどこからとつてもよいやうに編纂してゐるから、その活用は自由に出来る」(國民教育新聞)と活用を強調して居られるが、かくする事によつて教授時數の問題は變通自在になることは勿論である。そこに我が國女子の將來のため「女子教育即裁縫教授」の偏見を矯め、針箱と臺所との生活に活氣あらしめ以て女子の將來を明朗ならしむべく努力するところがなければならぬ。而して之は決して裁縫科を蔑視することではなく、却つて之を尊重する所以であり裁縫科の革新を促す所以であり、我が國女子の將來を生々したるものたらしむる所以である。要は大局的な女子



第四 高等小學校の家事教科書

教育の見地に立つてその趣くところを定めねばならぬといふことになる。かくすることによつて多少不満に思はれる家事教科書も大なる活用を得るではないかと考へる。古言に「運用の妙は一心に存す」とあるが如くに。

然らば、教授時間の關係から教材の取捨を行ふとして、此教科書の教材組織から何を取り何を捨てるかといふことが問題になるが、私は其の問題と結付けて、此教科書の教材組織を批判してみようと思ふ。

教材組織はまだ因襲臭がある

家事科だけを考へると家事科だけが重要に見えて來る。家事

科だけの世界に立つてゐると、動もすれば他の世界に盲目となり、統制あるべき教育から孤立し勝ちになりたがるものである。從來に於ける既成家事教科書の内容の如きは此の偏向を如實に物語つてゐるものであり、今度の教科書も亦此の因襲から脱しきれぬところがないでもない。

卒直に告白すると、私は新教科書に向つてこの根本的な問題に對して聊か遺憾の意を表明せざるを得ぬ。昭和の今日である。教材を教育的に選擇しようとするに方つては、もつと思ひ切つた改革が行はれなければならなかつたと思ふ。而して項目送迎主義、項目羅列主義から脱して、兒

童の生活の内容へと深く突進むべきであつたと思ふ。それが新時代の家事教育としての出發であつたと思ふ。

それには教材選擇をもつと兒童本位にし、もつと體驗的なものにし、而して其の組織を簡単にし、而して其の一つ一つに深みをもたしめる必要があつたと思ふ。即ち、他教科や作業に委譲するを適當とするものは勇敢に委譲し、卒業後の修養に俟つべき事項及び家庭教育に俟つべき事項は躊躇するところなく削除し、而して正規の時間内に取扱ふべき事項として選擇されたものに對しては、深き生活化にまで至らしめんことの必要があつたと思ふ。是家事科の特質を特質として取扱ふ所以であつて、因襲に捉はれたり單なる常識に據るべからずとする所以である。例へば「掃除」や「住宅」や「什器履物の手入」等々の如きは、何ものを高等一學年の兒童の生活に寄與せんとするかを熟考すれば分る。而して均しく文部省の著作であるならば、理科教科書と家事教科書との聯關に關しても、有機的な統一が明白にして欲しかつたと思ふ。例へば「電燈」の課に於いて、理科ではこの領域、家事科にはこの部分といふ如きことの明白な記述がそれである。

教材選擇に就いて

私は他の作業や他教科中の或教材の家事化によつて十分其の効果を收め

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

得られると信ずることの代表として、第二課の「掃除」を擧げる。思ふに之を課することは大多数の教育家の賛成するところであり、又従來も課して來たところであつた。私も、最も卑近にして而も大切な教材として異議のあるものではない。然しながら、之を家事教科書に記載して家事科の時間に課することに異議があり、更に之を高等一學年の教材として適當なりとすることに異議なきを得ない。

一體、家事教育といふものは家事科の時間内に課する以外に、毎日の生活（家庭・學校）に好機があり大切な事項がある。否、之を外しては却つて効果の薄いものがある。而してそれが家事教育の特質である。私のこゝに擧げた「掃除」の如きも、毎日の教室の掃除なり定期の大掃除なりに於て實際的且つ効果的に指導することが十分出来るのみならず、之を外しては掃除はない。

また、或女子師範の附屬の生徒に就いて調べたところによるに次の如き結果を得て、それらの兒童が家庭に於いても皆其の作業に従事してゐることを知つた。

室内掃除 一〇〇%

室外掃除 一〇〇%

五十人が五十人家庭で掃除をしてゐるからそれを指導する必要がないといふのではない。實際

作業をしてゐるから之を効果的に指導する必要があるといふのである。而して其の指導の好機會が毎日の教室掃除や定期の大掃除のものでなければならぬ。その絶好の機會をいゝ加減にしておいて、さて教室で教科書に記載されてある内容の如きことを喋々したところで、一體それが何になるか。掃除の如きは一種の訓練であつて、清潔の習慣、整頓の習慣、秩序ある生活が馴致されねばならぬ。況んや高等一學年を選んで之を課せんとするが如きは、其の何故なるかを知るに苦しむ。

ゆゑに、掃除教材の内容が教科書所掲の範圍を出でないものならば、それは貴重な家事科の時間を費すにも及ばないのみならず、かゝる指導組織は生命ある指導としては當を缺く。而してそれは尋常小學校時代から指導し初むべきもので、敢へて高等小學校を選むべきではない。

滑稽な高女家事教材の一例 曾て岡山縣の一訓導は私に向つて「掃除」を教へる必要があるかと質問して來た。思ふに、教科書にあるから教へるといふのでは結局時間つぶしに終る。教へられる方も分り切つたことを聽かされては聽く氣になれない。従つて授業に緊張を缺き、成績考査の場合を豫想すればよいといふことになる。

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

然るに我國の家事教育界では高等女學校用の教科書に於て「住居の不潔なのは家族の衛生上にも家屋の保存上にも害があるだけでなく、禍を隣家社會に及ぼすこともある。故に掃除を怠つてはならぬ」として「掃除は上から下に及ぼす、さうでなければ一旦掃除した部分を再び汚す」とか「掃除は戸障子を開いて行ふ。さうでなければ舞ひ上つた塵を屋外に追出し難い」といふ類の事を並べてゐる家事教育の所謂大家がある。家事のために家事を教へるのか、教育のために家事を教へるのか、此の邊になると教育的識見も疑はしくなる。といふ所以は、かゝる事項が果して高等女學校の教材として適當となし得るや否やの判断が常識を逸してゐるからである。家事科が生徒からも社會からも輕蔑される所以の考察には一つにはかゝる事情も考へねばならぬ。

ゆゑに私はいふ、家事教材は家事科の時間でなければ出来ない事項を選択しなければならぬと。かゝる意味に於いて、第二課の「掃除」は家事教科書のおたづねものである。

以上の如き考察を「住宅」や「什器履物の手入れ」等に就いて施すことは頗る興味があるが、それは稿を更めてのことにする。特に「住宅」に就いてのあの抽象的な記述は住宅の意味を把束させるに困難であると思ふ。

教材は具體的なものがよい

教材は具體的なものを選んだがよい。此の意味からみれば、第二十九課の煮魚や第三十課の焼魚はまことに變な記述である。煮魚のところの挿畫を見ると鯛のやうにも見えるが、記述には鯛の「た」の字も出てゐない。編纂者の意見を付度するに、かうしておけば地方々々によつて適當なる魚をもつて來て教へるであらうから、魚を取扱へばよいといふかの如くに思はれる。然し、それは頗る融通がきくようでは實は態度が曖昧過ぎる。

かゝる場合は思ひ切つて「鯛の煮方」とした方が具體的であつて生きて來る。而して其の末尾に同様の煮方を適用し得られる魚の名前を擧げておいてもよいではないか。然らざればもつと平民的な魚を選んでは何うか。でなくして「魚」といふ如き抽象的な魚では、煮魚の本當の煮方を掴ませることが出来ない。畫を見れば鯛であるか字を見れば魚であるといふことになる。

私は曾て某校で「野菜の切方」といふ授業を見たことがある。作業は改訂教科書の五十八頁の圖の如き切り方を、大根や人參について行つたのである。さて切られた大根や人參は大方は捨てられたらしかつた。技術本位に抽象的な教材を記述することの弊害はこんなところにもみられると感じたことがある。煮魚とか焼魚とかいふことは教科書への記述としては頗るまづい記述であ



第四 高等小學校の家事教科書

ると信ずる。

「附録」を附して伸縮性を 毎週の教授時間が或は一時間であり或は三時間でもよいといふ如き不定の場合は、主要教材のみを以て本文(又は甲篇)を構成し、「壘・建具の手入」や「什器・履物等の手入」や「ストーブの種類」の如き種類のものは、「附録」(又は乙篇)として之を採録し、かくして教授時間による教材選擇の伸縮性を有たせることも一工夫であると考へる。かくするところは女子の將來をして俗悪なる婦人雜誌に親しましめざるためにも、正しき知識を與へる上からも必要である。而してそれが爲めには一層記述の精細を要することは勿論である。

かくして教材の組織を單純化し、其の結果より得たる時間は之を主要教材の内容の深化のために費すことの必要を思ふ。主要教材としては單なる作業のみならず、實驗的に其の經驗を擴充すべき事項も決して少なくない。科學化の主張は今日決して空なる主張ではないのである。

學校ではめまぐるしく教材を送迎して置いて、之が練習は家庭でするといふが如きは、指導上萬全とはいひ得ない。勿論、家事の學習からすれば家庭が學校の延長であり、家庭の生活は學校に於ける教育の實踐場であるとは信ずるけれども、それが爲めに學校の教授中に不適當な分子を

も交へて強ひて複雑化するを肯定するものではない。のみならず、家庭を實踐場とするがためには、其處までに至らしむべき基礎をしつかり据えなくてはならないと思ふ。教材送迎主義・項目羅列主義を固執しては實踐道場も眞の道場にまで至り得ないと思はれる。

新家事教科書編纂の概要

一、改訂の趣旨

- 1 舊家事教科書は大正三年に出たもので「高等小學理科家事教科書」と呼ばれ、卷一は十七頁よりなかつたので實際家は取扱上非常に苦心した。
- 2 挿畫は一つもなく、例へばランプ掃除や灰吹掃除を教材の一部とした如く、時代に即さぬものが多かつた。
- 3 また家事科はその書名の如く理科の一部に隸屬してゐた頃のものである。
- 4 大正十五年に家事科は獨立した學科として家事裁縫合せて四時間を認められたので、該科は大體二時間をふりあてられる様になつたため、實際指導者は教材の不足から取扱上の悩みが多かつた。
- 5 以上の如くであつたから文部省は家事教科書改造の意見を各方面より廣く徴し、其編纂に就ては斯界の權威八人を委員にあげ改造意見を統一し、教材の資料を蒐集審議して改訂を實現したのである。

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

二、改造意見の概要

- 1 廿年も前のもので古いから。
- 2 時間の規定變更と共に教科書の内容も變更すること。
- 3 時代に即する教材であること。
- 4 従來の家事科は多く料理の方法を教へて栄養については無關心であつた。家事の一切は科學的に經濟的に、醫學的立場から考察すること。

三、改訂された主要點

- 1 教科書の表紙は青空色。稻と綿の木を朱色で模様化し、衣食を象徴し、書名の文字は書道界の權威比田井天頼氏の夫人小琴女史の麗筆になるものであるからに感じがよい。
- 2 舊教科書十七頁に對して四十九頁増加して六十六頁とした。
- 3 挿畫は従前は一枚もなかつたが、今度は色刷の食物分析表の外三十一の挿畫をいれ、體裁も内容もモダンになつた。
- 4 従前の教科書の常識的な記事に對して斷然科學的になつてゐる。
- 5 教材は高等小學生徒の家庭を考慮し、其れ等の兒童に即する様に編纂した。
- 6 教材は大體、衣食住の三部に於て取扱つてゐる。
- 7 また都會と田舎とを考へて教材取捨選擇の便を考慮した。

四、教材の機構（衣食住の三部）

第一部、衣服

- 1 卷一では木綿を出した。
- 2 卷二では稍々高級な絹物、毛織物を提供することにした。
- 3 先づ動物性、植物性の纖維を述べ、衣服になるまでの過程を認識させるため、絲、織方等を提出した。
- 4 各種衣服の洗濯實習等に於ても化學的教養を高めるため、體驗實習並に實話實例を引用して其の目的の徹底を期すことにした。

第二部、食物

- 1 従來は調理が主であつたが、新教科書は營養的立場から調理の方法も考慮することにした。
- 2 色刷の「食物分析表」に水、蛋白質、脂肪、炭水化物、纖維、灰分を示したのも一の特色である。
- 3 前教科書卷一の食物の所では病人の食物についてあるのみであるが、新教科書は第三學期教材全部を食物とし、卷二の第一學期の教材と連絡をとつてゐる。
- 4 料理は食品科學、營養學の上に立脚し、家事は家庭生活の合理化をはかる目的を示してゐる。
- 5 食物としては米と米飯、麥と麥飯、味噌汁を述べ、更に營養食としての「すゐとん」等を入れて非常時の食物をも取扱つてゐる。

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

- 6 カロリー、栄養上の考察から砂時計の使用(四十六頁)を示して文化生活の一部を展開してゐる。
- 7 料理用具、食器、ふきん等も出てゐる。

第三部、住 宅

- 1 住宅の部では間取図を入れてゐる。
- 2 採光、通風、衛生方面から考察し、臺所、便所、庭園をつけてゐる。
- 3 電燈、火鉢、ストーブ、燃料等に於てその使用法を教へて文化的知識を與へる資料を提出してゐる。
- 4 畳、建具とその手入れ、什器、履物等の手入れ等も出してゐる。

五、教材指導の配當

- 1 最初、家事は如何なるものかを知らせて後、掃除、衣服も入つてゐる。衣服の教材は休暇前に教へて休暇に實習する様に取計つたのである。
- 2 それで第一學期は第一から十まで。
- 3 第二學期は第十一課住宅から第廿一米と米飯まで。
- 4 第三學期は第廿二課麥と麥飯から第三十課燻魚まで。(以上、國民教育新聞)

新家事教科書に就いて (大岡監修官談)

圖書局で編集する圖書は約七十種に及んでゐる。中には随分舊いもので現代の用をなさないものがある。

家事の如きもその一例である。依つて昭和八年度から發行する豫定にしてゐる。此の家事の教科書は専門家に集合を求めて意見をきき、更に數名からなる委員會(教授・教諭・訓導)で決定したものである。

そこで編纂に當つて問題になつた第一は

1 家事の教授時數を何時間にするかといふことであつた。従來は家事裁縫で四時間であつたが、種々研究の結果一週二時間とした。殊に教科書は一般的に叙述せられてゐるから教授に當つて多少斟酌を加ふることが出来る。

2 次に如何なる家庭を標準とするか。如何なる地方を標準とするかにある。種々研究の結果田舎の相當の町を標準とし、中流及びそれ以下の家庭を標準とした、然して家事の性質上、將來の主婦を養ふのであるが、現代の實際のみに順應することは不可で、多少理想的方面を考慮した。例へば臺所に備へ付けるハカリ、櫛の如きは、東京と雖も家庭に備へてゐる所は少ないが、理想的家庭に必要であるから之を加味することにした。

3 従來の教科書との差異

A、頁數の増加、従來のものは十七頁四錢であつたが、新しいものは約七〇頁で挿繪を入れ興味を喚起することに注意した。

B、今から十八年前、大正四年に理科の一分科として高等小學校家事として生れたが初めて、昭和二年頃要目を委員會で決定し、案は出來たが公表までに至らなかつた。今次の改訂は其の時の案に基準を置

第四 高等小學校の家事教科書



第四 高等小學校の家事教科書

いてゐる。

C、従來のものは記載が抽象的、概念的であり且つ非常に大まかであつた。今次のものは具體的に細かに記述してある。即ち女性に對する數理的、合理的陶冶をなさしめんとして此の方面を重視したのである。

D、従來のものは「何々すべし」の如く理由を抜いた記述法を採つてゐたが、新らしい教科書は「何々なるが故に何々にすべし」の如く記述し理由を附して述べることにした。

如何にして美しく、甘く、料理するのみでなく、食物の人間との關係から述べ、斯くの如くなるが故に斯く焚くべし。と言ふ如く記述した。例へば

米の榮養價を述べてその榮養價を失はない炊き方を述べる。

味噌の榮養價を述べてその榮養價を失はない炊き方を述べる。

住居の本質を述べて住居の工夫、構造を述べる。

E、實際に即しないとの評もあるが必ずしも左様ではなく、知識としてでも授けて置く必要がある。近代の教育は時代と實際とに即し過ぎて居ると思ふ。

4 教材の排列に就いて

女學校の家事教科書は衣、食、住といふやうに分類的に編纂されてゐるが、小學校の家事としてはその方法をとらず、大體次のやうな項目のもとに編纂する。

女子と家事、掃除、洗濯(繊維、木綿の洗濯)、糸と織物、住居、食物

二年になつて毛織物、絹等の洗濯、及び育児看護等を加へ三年になつては以上を更に詳細に教授するやうに編纂する。

5 今次の家事教科書の出現によつて教授者はいよゝゝ其の學力の補充を必要とする。従來教科書が不備であつたが爲め教科書類似のものが多かつたが、小學校令施行規則では、修、國、算、國史、地理、家、圖、附圖は國定以外に編纂發行は出來ないのである。(施行規則第二十四條)

(鹿兒島教育、昭和八年五月)

附記、本篇は文部省が新教科書の編纂趣旨を附屬小學校主事會議の席上各監修官をして述べさせた中の一つであると思つた。鹿兒島教育より借用したもの。

第四 高等小學校の家事教科書



### 第五 家事科教授細目の立案

#### 「一」 法令上よりの考察

**教科書よりも教授細目が重要** 小學校令施行規則第二十二條には教授細目作成者を學校長として左の如く明示してゐる。

「學校長は小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ」

これによると家事科の教授細目は勿論小學校長が定むべきものであつて、實際上家事教授擔當者が作成しつゝある現状は其の運用の完璧を期する爲め、訓導が校長の命令により或は學校長の事務の代行をなしつゝあるものと解してよい。

私が何ゆゑにこの問題を考察するかといふ本旨は、次の教科書使用の問題と關聯して考へるもので、教科書よりも教授細目の作成をもつて教育上の重要事項であるを指摘せんとするものである。即ち、小學校令施行規則第五十三條には次の如くある。

「小學校教科用圖書中、修身、國語、算術、國史、地理、理科、家事、圖畫ヲ除キ其ノ他ノ圖書ニ限り、文部省ニ於テ著作権ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニツキ、府縣知事之ヲ採定ス。但シ、體操、裁縫、手工及尋常小學校第四學年以下ノ唱歌ニ關シテハ兒童ニ使用セムヘキ圖書ヲ採定スルコトヲ得ス。

又、國語書方、算術、理科、家事、圖畫教科圖書及小學校地理附圖ハ學校長ニ於テ之ヲ兒童ニ使用セシメサルコトヲ得」

之によつてみれば、家事教科書は使用せしむるならば必ず文部省著作のものを使用せしめなければならぬと共に、使用せしめぬ事も出来る規定である。ゆゑに使用せしめぬといふ學校長の意見であるならば其の學校の家事教授は教則に則つて學校長の作成すべき家事科教授細目によつて教授することになるは勿論である。この法令の規定は理科の如く地方の實情に即すべきもの家事の如く地方の實情に即し且つ實習に生命を有する教科にあつては當然のことであつて、そこに畫一的な教授の生命なき所以を明示したものである。

**教科書は方便物である**

また之を教育方針其のものゝ性質から考へても、例へば國語讀本と



第五 家事科教授細目の立案

家事教科書とを同一視することは出来ない。如何となれば、國語科の如きは一面に於いて國語としての統一を要求する國家的に重大な使命があるに反し、實習を中心生命とする家事科の如きは決して畫一を必要としない。否、畫一することの無理なる部面もあるからである。而して、この場合に要求されるものは教授者の教育的識見並に知識技倆といふものであつて、そこに「教育は人なり」とする根本問題があらさまに出されたやうな氣がする。この點まで來ると教科書の如きは教育上一種の方便物であつて、決して教育の内容そのものではないのである。私は女子教育の重要性を考へると共に、現前の家事教育界を見渡す時に、いつも女性教育者の眞意氣が此の一點に蘇らんことを希望して止まざるものである。小學校といはず中等學校といはず、實際教育界に相當年限の勤務をした者は、そこなる家事教授の現状を自己の理想に照して、憤然として本質的な歩みを踏出すべく勇敢であつて欲しいのである。

然るに、現前の實狀といふものは教科書を中心として、或は之を國語讀本化し、或は之を教授細目に割當て、不思議とも考へない者の存することは女性教育家の眞意氣として甚だ憂慮にたへない。教師は決して教科書の奴隸であつてはならない。自己の識見と技倆とが唯一の頼みでなけ

ればならない。それを磨かんがための常の修養でなければならぬ。決して教科書を教へんが爲めの讀書や見學であつてはならない。

**教科書は活用すべきもの** 勿論、私と雖も決して方便物を排斥するものではない。否、方便物を活用することによつて教授はその目的を達し得ると信ずる。だが、私のいふ眞意は教科書に使はれては教授の目的は達せられないといふにあるので、家事教育界の現状に對する公憤は即ちこれであるのである。事實、この意氣がありこの努力がありこの熱意があつてこそ教科書も活きて使へるのであつて、そこに本末のあることを明らかに把握すべきをいふのである。

ゆゑに、教細授目は決して家事教科書の三十課を割當つべきものではなくて、彼の教科書の内容を活かし得る使用を考慮すればよいのである。特に監修官の談にもあるが如く、「一週二時間でもよければ三時間でもよい。教材は教科書のどこからとつてもよいやうに編纂してあるから活用は自由に出来る」は尤もな態度であり、教科書の性質を辨へたものゝ言として傾聽に値する。

〔二〕 現代の家事科教授細目

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

中心問題は家政教育の重要性

世には家事裁縫の教育を女子教育の中心とすべしといふ者がある。私もそれには賛成である。だが、現下の實情は果してその進行として満足すべきであらうか。換言すれば現今の家事教育でその趣旨が實現しつゝあるものと考へ得られるであらうか。而して特にそれ程の重要性が現代の家事科教師に認識されて日常の教育が進められてゐるであらうか。それが私には疑問であるが、試みに各學校の教授細目を手にして再考してみれば、それは直に分ることである。

といふのは現代の家事教授は餘りに深みがなさ過ぎる。餘りに項目送迎主義であり過ぎる。限りある教授時間に於いて児童生活の何ものを擴充し、何ものを體驗させ、何ものゝ價値を擷ませんとするのであるかを知るに苦しむものが餘りに多過ぎるのである。かくては折角教科書が出来ても此の家事教育觀が革められざる限り、その内容が淺薄であるべきは自然の理である。尤も、元來、家庭の實務といふものは其の數が非常に多く、どれを取つても改造を企てゝやりたいやうなものばかりである。ゆゑに、熱心な教師ほど様々な指導をしてやりたいと考へることに私も同情はある。けれども限りある教授時間といふことを考へると、而して學校教育といふことを考へ

ると、そこに截然たる教材選擇がなされねばならぬことを當然とする。文化原理から考へると共に児童原理からも考へて、そこに當然「適當さ」をもつて教材が選出されねばならぬ筈である。

教科書中心か教育中心か

私は思ふ、從來の家事科教師の教育觀は當然教育中心に革められなければならず、それには教科書中心の考へを捨てなければならぬ。教科書といふものに至大な權威を認めると、否、權威を認め過ぎると、教育をする人間(教師)の影が薄くなり、方便物たる教科書がものをいふ事になる。かうすることは、文部省の著作を忠實に守るもので、一見忠良の教師のやうにも考へられるが、それで教育の効果が擧らなければ結局忠良な教師といふことは缺けるところがあることになる。のみならず、教科書を畫一的に取扱ふことによつて、「土地ノ情況ニ適切ナラシメムコトヲ務ムヘシ」(教則第十五條)とする趣旨と反對の方向に行くこととなる。これでは忠良な教師たらんとして却つて忠良ならざる教師となるものである。況んや、今回改訂の家事教科書は融通自在のものである以上、似て非なる忠良教師たらんよりは、之を活用することによつて眞に忠良なる教師たるべく心掛けた方がいゝ。こゝに現代家事科教師が教科書中心より教育中心に轉回すべき謂はれがあり必要がある。

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

或教授細目に就いて

私の見た家事科教授細目にこんなのがあつた。先づその劈頭に「本教授細目は文部省に於て新に發行された高等小學家事教科書を最も忠實に學習させて小學校に於ける家事教育の目的を最も健實に徹底さすべき意圖の基に作製したものである」と述べ、教授時間を左の如く配當してゐた。但し、教授時數は一週一時間、割烹實習は一週二時間の配當。

第一學期(十四週、十四時間)

週	題目	教授時間
一	女子と家事	一時間
二	掃除	一時間
三	纖維と織物	一時間
四―五	木綿織物	二時間
六	白木綿の漂白	一時間
七	しみ抜き	一時間
八―九	單衣の全洗	二時間
一〇―一一	木綿物の解洗	二時間
一二	麻織物	一時間

第五 家事科教授細目の立案

一三	人造絹絲織物	一時間
一四	復習	一時間

第二學期(十五週、十八時間)

週	題目	教授時間
一	住宅	一時間
二	井戸と水道	一時間
三	電燈	一時間
四	火鉢とストーブ	一時間
五	燃料	一時間
六	疊建具の手入	一時間
七	什器履物等の手入	一時間
八	料理用具	一時間
九	食器とふきん	一時間
一〇―一一	食物の成分	二時間
一二	米と米飯	二時間
一三	麥と麥飯	二時間



第五 家事科教授細目の立案

一四	味噌汁	二時間
一五	復習	一時間

第三學期(九週、十四時間)

週	題目	教授時間
一	雑煮	一時間
二	煮鰯	二時間
三	澄汁	二時間
四	すいとん	二時間
五	鶏卵とゆで卵	一時間
五	いりたまご	一時間
六	煮魚	二時間
七—八	焼魚	二時間
九	復習	一時間

私はこの時間配當の適否を考へる前に先づ教科書を忠實に學習させようとする編纂者の心持と實際教授の効果とに就いて考へてみたいと思ふ。この細目の編纂者は教科書の三十課に雑煮の一

課を附加して之を實習せしめようとしてゐる。また、割烹實習に際し一時間を附加するのみで他は一週一時間の教授時間で押通してゐる。そこに私の疑問は存するのである。即ち、一時間四十分の授業、それで毎週一課づつを教へつゝ教科書を中心に進行して行くことが、どれだけ兒女等の生活を擴充し行き得るであらうかといふことは是である。例へば木綿織物を一時間づつ二回、白木綿物の漂白が一時間、單衣の全洗が二時間、木綿物の解洗ひが二時間で教授される如きは餘りに慌しいものである。そこに「空理空論に終らざる様、實物に依り實驗に基き」だとか、「單に方法だけを機械的に行はせるのみにとゞまらず、其の方法の基づく理由を物理的性質から推究させ」だとかの編纂者の立派な方針が實際に行はれて、兒女の體驗を得させることに到達し得るであらうか。そこに私の疑問があるのである。

かゝる教授を私は項目送迎主義と名付けて、深みのない教授とする。而してかゝる方法による家政教育は理論が如何に立派であつても女子教育の中心たり得るにはかなりの距離が存することを思ふものである。昨年の或日私を訪ねた某専門學校の學生は「目下某校で行はれてゐる如き、理論のない實習主義は疑問ではありませんか」と感想を洩らされたが、私も同感にたへざるもの

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

であつた。

教授の要旨に項にて

かゝる教授を試みようとして計畫することは結局「教育」としての考が確立しないからである。恐らくそれは教科書に記載され且つ日常必要な事項であるの故を以て教へようとするに過ぎまい。従つて兒女の生活の何ものを此の教授時間に擴充して行かうとするのか、それによつて兒女の創造的態度を如何に養成して行かうとするのか。そんなことには何等の考慮もなく、唯教へたことだけが兒女の知識となり技能となるのだから多く教へねばならぬとするより外の何ものもないやうに考へられる。例へば「掃除」の項にはかう書いてある。

一、要 旨 掃除の目的と方法とにつき科學的な正しい知識を授けると共に掃除を實習せしめて、掃除に對する精神的の訓練をなす。

二、要 項

(一) 掃除の必要

- 1、精神と
- 2、衛生上
- 3、保存上

(二) 掃除の方法

- 1、はたき掃除
  - 1、原理
  - 2、適用
  - 3、方法
- 2、はき掃除
  - 1、原理
  - 2、適用
  - 3、方法
- 3、拭き掃除
  - 1、原理
    - 乾布
    - 濕布
  - 2、適用
  - 3、方法
- 4、洗ひ掃除(1、2、3、同じ)
- 5、屋外掃除

三、取扱上の注意

- 1、掃除の原理適用方法を學習せしめる事により從來の掃除法の缺點を改善せしめたい。
- 2、學校に於ける毎日の當番掃除を本課學習後の練習即ち實地演習として行はしむ。
- 3、掃除用具の適否研究改良の工夫等を本教材に關してなさしむ。

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

- 4、農家は殊に不潔になり易き故に衛生的思想の徹底をはかりたい。
  - 5、掃除の際の身支度は正確に且つ敏速に練習せしむ。
  - 6、便所の掃除につきて特に詳しく附説したい。
- 四、準備、連絡、実験観察

I、準備

- イ、児童——A、作業服、B、手拭、C、マスク
- ロ、教師——A、はたき(紙製、布製、羽製、棕櫚製)
- B、箒(もろこし製、棕櫚製、竹製、草製)
- C、布巾(手織綿布製、タオル、メリヤス)
- D、刷毛、洗刷毛、タワシ
- E、雑具材料(バケツ、塵取、茶殻、モミ殻、真空掃除器、鋸屑)
- F、材料(石鹼、灰汁)

五、實習事項

- 1、箒、はたきの使分
- 2、掃除方法の一通り

以上が其の細目に定められたる教授要旨及び要項・實習事項である。而して之を一時間(四十

五分)に指導しようとするのである。そこに何等の不思議もないであらうか。

私は元來「掃除」を實習に委ねて家事科教材中より削除するを適當と考へてゐるものであるが、右の要項をみて、其の種々な事項を組立てることの巧妙なるに驚いてゐるものである。特に「毎日の當番掃除を本課學習後の練習として行はしむ」に至つては、甚だ巧妙過ぎる言ひ方であると感ふ。考へてもみよ。それは高等小學の一年ではないか。當番掃除も一週一度回つて來るとしても一年四十回、尋常小學校に於ては二百回以上にも及んでゐるであらう。その二百回の經驗は之を無視して今後に於ける當番掃除は掃除の課を教へた後の實地演習とするが如きは何たる生活指導ぞやと考へるものである。然も教材の郷土化を高唱してゐる細目編纂者が、農村に於いて羽製のハタキや真空掃除器を準備して教へようとする事などは如何に羊頭を掲げて狗肉を賣る類の家事教授であるかを立證して餘あるものといふべきである。編者は其の細目の序言に曰く

「……私達教員は彼の街路に横行する流行追求者であつてはならない。然し劃一教育改善は斯くの如き流行ではない。そして劃一的教材を生かすための方法は教材の郷土化を置いて他にない。とさへ私は信じる。そして就中家事科に於てそれを痛感するのである。印刷された指導書から

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

教案簿へ、そして生徒への押賣りはあまりに時代の要求からかけはなれて居り、それは眞の教育の冒瀆でさへあり、生ける屍であり、生命躍動を教育の精神を没却してゐるものである……」この序言とそして、其の細目の内容をみると、如何にも奇異な對照をなすことに現代家事教育界の相をみる事が出来る。

〔三〕 家事科教授細目編成の方針

総合的に完成すべき教育 學校教育といふものは教科分立ではいけない。各教科は勿論、各作業、各施設、何れも総合的に兒女の人格を完成すべくあらねばならない。否、兒女の環境はすべてこの目的に向つてありたいものである。而してそれは家事教育といふ一方面に就いても考へることが出来る。ゆゑに、各教科の間に有機的な統合が保たれることは勿論、教科以外の作業や施設も共に統合的に家事教育を完成すべきものでありたいと思ふ。然るに實際教育界の情況は案外此の點に徹底を缺くところが少なくない。例へばひとしく文部省著作の國定教科書でありながら其の教科書間の連絡統合には遺憾な點が少なくない。この間も或高等小學校長の話によれば商

業教科書に於ける簿記と家事教科書に於ける簿記との間には何等の關係なく、各別に獨立して存在するといふことがあつた。商業科は決して校長が勝手に定めた教科ではない。ゆゑに文部省は此等の教科書を著作するに當つて、當然、家事科との關係を考慮に入れて然るべきである。然るにそれが然うなつてゐない。また、家事教科書にも「電燈」の課がある。理科教科書にも「電燈」の課がある。然らばこの兩者の間に如何なる連絡があるかといふに左程留意したと思はれるところがない。これは國定教科書の一つの缺點である。

ゆゑに、この問題は教へる方の者、即ち教師が教科統合の意味に於いて理科の家事化と家事の理科化とに就いて考慮するところがなければならぬといふ問題になつて来る。然し、これは單に教科書間の問題のみではない。その他の作業、施設等にも伏在する問題であつて、これが統合の成否は兒女教育完成の上に大なる影響を有つことと考へる。それは恰も前述した廣島高師附屬小學校の理家科の趣向を考へても分る。

尋常小學の家事的訓練 尋常小學校に家事科といふ教科はない。けれども其の教育の中には家事教育が實在してゐる。ゆゑにその機會々々にこれを最も効果的に取扱ふことは兒女の教育上

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

極めて大切なことであるといへる。と共に、家事科だけが家事教育で、この時間を限りなるべく多量の家事知識を授けようとするのは一種の獨斷で、決して教育的な方法とはいはれない。例へば臺灣の某校では下學年に於ける家事的指導要目を左の如く定めて教育してゐるといふ。

▲家事科を課せざる低學年に於ける家事的取扱要目▼

一、住居

△一年

掃除の順序 はたきかけ方 水の撒き方 掃き方 雑巾のかけ方 すすぎ方 しぼり方 拭き方 整頓及び後始末 道具の名稱 鏡を汚さない 戸棚をよごさない 腰掛を汚さない 机中の整頓 草取り 落葉の拾ひ方 痰壺の使ひ方 教室内を裝飾させる 溝・庭・塵捨場等のお掃除 落書をしない 家を大切にす 戸締をする マツチ等をいたづらしないやうにする あはてない 早く集る

△二年

乾拭き 黑板拭き 鏡の拭き方 戸棚の拭き方 腰掛の拭き方 窓硝子の拭き方 庭の掃き方 溝の掃き方 公共の設備を大切にす 落書を消す 修繕個所の發見

△三年

便所の掃除 上下掃除道具の區別 戸棚の整頓及掃除 塵捨場の掃除 痰壺の洗ひ方 裝飾の調和を考

へる 修繕をなす 非常時の約束をする 戸締に注意する

△四年

煤はらひ 床洗ひ 物置の掃除

二、衣服

△一年

服装に對する注意 石鹼をむだにしない 着物が汚れたら早く着かへる 白い物は度々洗つて貰ふ 糊のついたのを着る 絹物等を着ない 毛糸編物ビロード等は汚さない 校服と家庭服の區別 學級文庫の虫干し 着物を大切にす おしやれをしない

△二年

ハンカチーフやパンツ等の洗濯 身體に對する注意 石鹼をむやみに使はない 煮沸洗濯の暗示をなす 汚れた着物を長く着ない 特別な好機會に色物に對する注意をなす 着物靴のボタンに氣をつける 防虫劑の名稱 揮發油の名稱 夏・冬の下着の區別 普通着と外出着の區別 靴及靴下の汚れに注意を與へる

△三年

自分の物は自分で洗ふ習慣をつける 石鹼の見方 洗濯の姿勢に注意 着物の疊み方 絹物は普通の石鹼では洗はぬこと 防虫法 校服の手入れ 一寸した汚點抜き 揮發油の使ひ方 虫干しの手傳 重着

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

よりも地質に注意して選ぶ 地質の名稱 スカアト着用の奨励 附屬品の調和 更衣季の衣服取扱に注意する

△四 年

お家のお手傳

三、食物

△一 年

食器を大切にする 臺所をきれいにする むやみに水を飲まない 何でも食べること 熟さない物を食べないこと 果物は食後に食すること 買ひ食しないこと 立つて歩いて食べないこと

△二 年

食器をきれいにする 辨當箱の扱ひ方 お腹の空いた時は水を飲んでから御飯を食べること 御飯をこぼさない よくかんで食べる

△三 年

茶碗洗ひの手傳 臺所の整頓

△四 年

御飯炊きの手傳

四、飼養

△一 年

家畜を可愛がる

△二 年

家畜に餌をやるお手傳 ニハトリに羽虫がある ニハトリの糞は肥料になること

△三 年

家畜を飼ふ場所をきれいにすること 羽毛の不潔なること

△四 年

羽毛の廢物利用

五、看病

△一 年

病氣の時はすぐに先生や親に話す 薬を嫌がらない どこにでも痰を吐かぬ ハンカチを持って来て貸借しない

△二 年

薬を買ふか醫者に見て貰ふ 薬とりのお手傳 嘔吐の時は便所で ハンカチ、手足をきれいにする

△三 年

吐いた後の後仕末 簡単な血止法

第五 家事科教授細目の立案



第五 家事科教授細目の立案

△四 年

一寸した消毒法 洗眼水の作り方 整傷の應急手當

六、育 兒

△一 年

赤ちやんのお守りをする お守りはていねいにする

△二 年

乳兒には物を食べさせぬこと

△三 年

お手本になるやうによい事をする 齒を大切にす

七、女子の心得

△一 年

むだな買物をしない むやみにつかはない 年よりのいふことをきく 年寄を大切にす 家中の人は仲よくする 近所の人と仲よくする お行儀をよくする 正しく腰掛ける お使ひは氣持よくする 爪をのばさない 靴をはくこと

△二 年

預金をする お金を大切に使ふ 近所の人に禮儀正しくする お客様に對する心得 身體や髪のをき

れいにする

△三 年

副業の手傳 女らしい態度

(備考 下學年に於ける訓練要項は引きつゞき上學年まで指導するものとす)(雜誌「臺灣教育」より拔萃)

勿論、かゝる要目を定めないうまでも或は教科書中に或は作業中に家事教育を施すべき機會の存することはいふまでもない。ゆゑに高等小學校に於ける家事科の教材といふものはこれに立脚したものであるべきは當然なことである。

教授時間は最も効果的に

以上のことを考慮に入れ、更に家事科といふ教科に定められた教授時間数を併せ考へ、そこに編成すべきものが家事科細目である。若し夫れ前述せる郷土化の主張の如きに至つては私の最も不可解とするところで、郷土に立脚する教材選擇こそ最も有意義であると考へる。然るに實際の教材選擇は教科書に於いて既にその大體を規定してゐるがゆゑに、實際家に残されたる領分は時間數と郷土生活とに立脚し、教科書の教材を再吟味して立案せらるべき教授細目と、實際教授に於ける教授方法との問題となつて來る。

第五 家事科教授細目の立案







第五 家事科教授細目の立案

二七、鶏卵とゆでたまご	二	二
二八、いりたまご	二	二
二九、煮魚	二	二
三〇、焼魚	二	二

七十時間案の一例

左は私の友人某訓導が立案した教授細目から時間配當の部を抽出したものである。これは實習を中心とした關係上二三の教材（國定教科書所掲の）に移動をみてゐる外教材の選擇も農村向になつて居り、更に社會經濟的な内容も取入れられてゐるのである。

第一學期（二十六時間）

女子と家事	二
纖維と織物	二
木綿織物	二
白木綿の漂白	四
しみ拔	二
單衣の全洗	四
木綿物の解洗	六

第五 家事科教授細目の立案

麻織物	二
人造絹絲織物	二
△掃除は時間の都合で適宜教授する。	
第二學期（二十六時間）	
便所と臺所	二
飲み水	二
電燈及電氣料	二
火鉢・炬燵・その他の暖房	二
燃料	二
料理用具	二
食器とふきん	一
食物及其成分	五
米と米飯	四
麥と麥飯	四
第三學期（十八時間）	
味噌汁	四



第五 家事科教授細目の立案

煮	魚	二
澄	汁	二
す	るとん	二
雞	卵とゆでたまご	二
い	りたまご	二
煮	魚	二
焼	魚	二

△疊・建具・什器・履物の手入は時間の都合で適宜教授する。

深くか？ 浅くか 細目は一年間の教授に關する立案であるから、年々更正して行くところに進歩がある。然し、如何なる場合でも教科書に捉はれることはよくない。立案は教師の方針が主で教科書も掛圖も方便物として行く概が欲しい。これが何より必要なことである。だが今度の教科書は勿論前のよりも進歩してゐる。女學校の教科書などに比べると記載的でなく實習を重んじてゐる點等は大いに優れてゐる。此の點を活かして行くことを忘れてならぬ。

そこで、一言にしていへば、彼も此も一時間かそこらで嗅いで通るやうに立案するか、それとも、經驗を豊富に生活を擴充して創造的たらしむるやう立案して行くか、それは大なる岐路であ

る。私の友人の某訓導は四十時間（一週一時間）で教授する案として次の如きものを私に送つて批評せよといつて來た。

- 第一學期——纖維と織物(二)、木綿織物(二)、白木綿の漂白(四)、單衣の全洗(四)、木綿物の解洗(四)
- 第二學期——しみ拔(二)、麻織物(二)、人造絹絲織物(二)、するとん(二)、米と米飯(二)、麥と麥飯(二)
- 味噌汁(二)、煮(一)、
- 第三學期——澄汁(二)、雞卵とゆで卵(二)、フリ卵(二)、煮魚(二)、焼魚(二)

勿論この案にはいゝところがある。實習中心のいゝところがある。然し、かういふ程度に思切つた選擇を行ふならば、もつと其の題目を具體的にして「飯と味噌汁」とか「焼魚と夕食」とかいふこととして行つたら何うかと思ふ。また、一週一時間といふ授業は遠からず改正すべきではないか。それは裁縫教授書が出版されば其處で家事裁縫一週四時間の配分が分明して來る。

第五 家事科教授細目の立案



## 第六 家事科指導の方法に就て

### 〔一〕 指導法の原理

**發達**——よりよき成長 指導の方法には其の目的がなければならぬ。而して其の目的は古來色々にはられてゐるが、如何なる目的論に於ても、それに共通して發達(若くは成長)といふ概念が入つてゐることは否まれない。例へば人格の陶冶といつても陶冶された結果は陶冶されざる以前より發達することが豫定されなければ意味をなさない。また、文化の傳達或は擴充、創造といつても、傳達された者はされない者より發達することを豫定しなければならぬ。ゆゑに、教育の目的は種々なる方面からいひ現はされてゐるが、其の何れにも共通した概念として發達若くは成長といふものがあり、之がなければ意味をなさないことになる。

そこで、この發達を助ける工夫、或は成長を促す手段、それが方法になるのであるが、私は又

かういふことを考へてみたい。それは子供といふものは事實學校教育を受けなくても環境からの影響を受け刺戟により知識を受けて或程度の發達をする。けれども、そのみでは發達も遅いし前人の發達したところを後人が再び出直すといふやうなことになる且つ深い根柢のある發達は望まれない。そこで効果的な方法として教育があるのである。即ち効果的な道をとつて子供の發達を促すものが教育である。だが、この教育の意味は子供を大人しようと云ふではない。子供は子供として健全にあらしめねばならぬ。例へば大人の顔をした子供ではいけない。と共に餘り鈍いものにしてしまつてもいけない。それが健全な發達を要するとする所以である。

**發達の據りどころ** 然らば、前述した發達するといふことは、後天的にのみ授けらるべきものであるかといふに、さうではない。それには先天的に持つて生れた或る「力」といふものを假定せざるを得ない。教育がなくても或程度の發達を遂げ得るのは即ちその力の爲めである。それは論理的に許さるべきもので、それを認めなくては發達の據りどころがなくなつてしまふ。然らば其の精神内容は如何かといふに、之は後天的に經驗して得らるべきもので、先天的持つてゐるものではないと考へられる。そこで、人の發達の上からまた教育方法の上から、經驗といふものか重



第六 家事科指導の方法に就て

視されねばならなくなつて来る。

直接(實際)の経験

吾々の経験といふものは千差萬別といつてもよいものであるが、その中心は直接その事實に参加した経験即ち直接経験と、言語や文字や繪畫の如き媒介物を通して間接に其の事實に参加する間接経験とのあることを考へる。

直接経験は絶対的の價値をもつてゐるもので他の何ものとも取替へることは出来ない。例へば繼母に使へた子供が何うしても母親の愛情を感じることに出来ないといふのはそれで、家庭悲劇の一つの原因になつてゐる。之に反して本當の母親に對する愛情の感じは絶対的のものである。或料理講習會に於いて其の講師は實習に自信のないところから、「これは大根の煮たのだと思ひなさい」、「これはホーレン草のゆでたのだと思ひなさい」といつて説明したといふ話もあるが、實習によつて得らるべき知識、技能、感じといふものは絶対的のもので斯様の口舌では得られない。だが、この直接経験を間接経験に結びつけていへば、直接経験は間接経験の基礎的の價値を有つ。如何となれば直接経験を結合すれば或種の経験が得られるからである。之が間接的の経験である。故に直接経験の絶対的なるに對して間接経験は相對的の價値を有つといふ事が出来るのである。

間接(想像)の経験

間接経験とは前にも述べた如く或媒介物を通じての経験であるから其の範圍は廣く分量も多い。だが、その間接経験を充實させるためには直接経験によつて類化され統覺されなければならぬ。而して、直接経験の要素が貧弱であると間接経験は成立しないことになる。

ゆゑに直接経験の要素が確實であると、之を組合せて立派な間接経験が出来る。吾々が日本に居て外國の地理を習つたり、現代に於て古代の歴史を習つたりすることの出来るのは即ちそれである。之を、も少し説明すると、吾々が直接経験の外に間接経験を持ち得るのは悟性の抽象的な思考作用があるからである。直接の経験は具體的であるが、これに悟性の思考作用がはたらくと、表象が抽象され、抽象概念が構成される。そこに直接の経験と間接の経験と、その代表的記號との相互關聯が生じる。吾々の経験生活に於ては具體と抽象とは互に他者を豫想しなくては成立しない。そして文字記號及び之を通じての抽象概念の知識は、直接経験と間接経験との聯關連續の中に於てのみ其の價値と職能とが發揮せられるのである。若し此の兩者の経験の關聯が破れ其の記號が眞の具體的内容を失ひながら、而も其の記號や抽象概念そのもののみが學習の對象となる

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

ことがあるならば、それは實に危険なことである。

**板書中心の教授は如何** 以上のことを考へると、説話を中心とし板書を中心として抽象的な文字を書き連ね、之を記憶させることを唯一の生命とする教授は教育として何んなものかを判断することが出来る。教材具體化の主張が近時叫ばれるやうになつて來たが、それは單に變化を好むがゆゑの主張ではない。極端に抽象的になつて來た教授の内容を中正ならしめんとする叫びである。特に家事教授の如き實習を中心生命とする教科に於いて、單に説話の教授によつて其の目的を達せんとすることの無意味なことは火を賭るよりも明らかである。之を先に述べた言葉を以てすれば「發達」が得られないことになる。

〔二〕 教育を具體的生活から築かうとする要求

**教材具體化の要求** 國定教科書の中に選擇されてゐる教材には動もすれば抽象的であつたり、或は相當具體的に考慮されてゐるやうであつても、その具體的な要素が兒女の生活に適合しなかつたりする場合が多い。勿論これは一般的な要求によつて選擇されてゐるのであるから止

むを得ないとするも、若し教材が抽象的な傾きをもつた場合には之を具體化して兒女の生活に適合するやう指導法を工夫するところがなければならぬ。

例へば「焼魚」とか「煮魚」とかいふ選定は抽象的なものである。ゆゑに「魚を煮るとか「魚」を焼くとかいふ指導は出來ないことである。如何となれば此の世の中にありとあらゆる魚を煮るとか焼くとかいふことは指導し盡せるものではないからである。かゝる場合に兒女の生活を凝視して「鯉」を煮るとか「鮭」を焼くとか「鱒」を焼くとか之を具體化するところがなければならぬ。而してもつと具體化して來れば「鮭」と「鹽鮭」とを區別してそれに適當なる指導をすることが必要である。これがこゝにいふ具體化の要求であつて、眞に教育を思ふ熱意ある教師ならば、其の指導たるや、兒女の身邊の生活乃至直接の環境に著眼して、兒女そのものゝ具體的體驗にまで至らしめねば止まぬであらう。こゝに農村には農村的指導を必要とする謂はれがある。

**具體的生活の中から築上げる教育** 然し以上の要求は單に教材の具體化、指導の具體的體驗といふことにのみ終るべきことをいふものではない。其の根柢には人類の認識過程の進展状態に基礎をおいて、教育を具體的生活の中から築き上げようとする要求が存するのである。

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

國定教科書といふものが現に然うであるばかりでなく、從來の長い間の教育が然うであつた如く、これまでの教授なり學習なりの指導方法は、概して先づ原理を押付け、それを無理やりに呑込ませるといふ仕方であつた。いはゞ演繹的の指導であつた。かゝる方法によつて教育を經營しようとしたればこそ、其の教材は演繹的な取扱ひに都合のよい教材が選擇され、頭から壓倒的に被せるやうなものであつた。換言すれば原理といふ抽象的なものを無理強ひに鵜呑ませ棒暗記させることの便利な教材が選擇されてゐたのである。従つて其の抽象的な原理の内容といふものに對しては比較的關心が少なかつた。故に、若し之を前節の言葉を以てすれば、基礎的な直接經驗の貧弱なことは考へずに、其の貧弱なものゝ上に間接經驗を築かうと焦つたやうなものである。眼前身邊の事實を眞に観察し經驗し體驗して、そこに歸納的構成の活動が自ら發動することによつて眞に人格を活かすことの出来るものであることを知るものは、既に成立した原理——既成の原理を詰込むことの教育的効果を何と判定するか、之はいはずして明らかであらう。

かゝる立場から、從來の如く既成の原理から先に授けて行くことは専門家の知囊を肥やす爲めの便法ではあるかも知れないが、兒女を精神的に成長させ、人格を本質的に豊かならしめる爲めには決して正しい方法でないといふことになり、従つて歸納的に教授を展開すべき必要はそこに生れて来る。これは人類が無秩序の野蠻未開な生活から豊富な認識に基づく組織的な生活に進んで來た跡を探ねてみても明らかである。

生活原理の内容を確實に豊富に

ゆゑに、行詰つた舊來の教授方法の殻を破り得ない者は、今でも、原理の應用が生活だとしてそれを強調してゐる。勿論、今日の複雑なる文化生活にあつては必ずしも歸納的方法のみによつて生活が行はれてゐるのではない。演繹的な方法も類推的な方法も共に行はれて生きて働いてゐる。けれども演繹的方法・類推的な方法も其の基礎となるべきものは歸納的な方法による確實な認識であつて、兒女の教養はこゝに目標をおかなくては演繹的方法による生活も豊かになることを得ない。

勿論、私は、兒女の生活が創造的であるべきを希ふ。生活を無限に展開して行き得る人物であらんことを希ふ。けれども、私は大人の生活を兒女に強ひることは出来ない。把握した原理なり學說なりを基礎として生活を展開させて行くことは大人の生活といつていゝ。否、その將來の生活の内容の充實の爲めにこそ、兒女の生活をして認識過程の眞正な道に立ち歸らしめようとする

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

要求を是認するのである。これは従來の教育方法への是正である。

忘れた後に残るもの

知識といふものは忘れ勝ちなものである。二學期になると一學期に教

はつた大方の知識は忘れられて了ふが常である。それが證據には教へる方の教師でも毎時間の初めには教材研究をして教場へ出るではないか。三年も四年も同じことを繰返してゐても教へる場合には又調べ直してゐるではないか。ゆゑに兒女が卒業と同時に知識的記憶が腦裡から其の姿を消すのは誰の場合でも同じである。だが、假令、多くの知識が頭の中から消失したとしても其の後に残るものがあるに相違ない。それは兒女の實踐を通して直接の生活に最も緊密に力強く働きかけたもの即ちそれである。

換言すれば、その忘れられ行くものは多くは抽象的概念的な知識そのものであり、残るものは兒女の身邊の事實、兒女の生活、またその環境の具體的事實に教材を取つて、そこから兒女自身が生活の原理を歸納的に構成するやう指導された知識それである。ゆゑに、そこに今後に於ける指導法上の革命がなければならぬと考へるものである。而してその生活の事實から出發するといふ主張は現代に強調されてゐる郷土教育の主張と自ら一致するものである。

明日の生活の必要から、あれも知らしめねばならぬ、これも覚えさせねばならぬとする功利的な結果主義からのみ兒女をひつぱつて行くことは、決して兒女の將來を幸福にするものではない。教師たるものは須らく兒女眼前の全生活に高き識見を浸透せしめ、温情濃やかな愛撫を以て指導誘掖するところがなければならぬ。この點、現代の家事科教師は大いに顧るところがなければならぬと思ふ。

〔三〕 説話と實習に就ての考察

説話決して非ならず

實習を中心生命とする家事科であるといつても、それは唯實習だけを

課すればよいといふのではない。唯實習だけを課するといふことは動もすれば女中の技を課することに墮する處がある。實習を中心生命とするといふことは、前述の言葉を以てすれば直接經驗を得させるといふことであり技能の訓練をするといふことである。従つて説話教材といへば間接經驗を得させるといふことになり、それにも大切な役目のあることは否むべきでない。

だが、現代の我國の家事科教授は餘りにも説話することが多過ぎはしないか。特に實習設備の

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

不完全な學校などに於いては、一にも説話二にも説話で、家事教科書を國語讀本化してゐるところも少なくないやうである。勿論、これは從來の教育法に災されてゐることは勿論だが、教師の教育觀の低いことを考へないわけには行かない。

教育思潮と家事科指導

或教師は私に言つた。「教育思潮が現今の如く勞作とか體驗とかを重んじるやうになつて、やうやく家事科も世に出ました」と。實にその言の如くである。今までは鶴龜算を教へる算術の方が手の運動足の運動をする體操よりも高尚な教科と考へられてゐた。英語といふ外國語を教へることが國民の衣服を取扱ふ裁縫科よりも高尚な教科だとされてゐた。のみならず、その考へ方に因ればこそ體操や手工や裁縫や家事の先生は一般低級な先生のやうにも考へられてゐた。だが、今日はその錯誤たりしことが漸く感付かれて來たやうである。

然しながら、私はかゝる傾向になつて來たからとて家事の先生が急に豪くなつたといふのではない。今まで日蔭に置かれてゐたものが日向に出されたといふに過ぎないと思ふ。ゆゑに、日向に出されて天日を仰ぐやうになつたからには、それ相當の働きをしなければならないと思ふ。だが、左様ないゝ時が來たとしても、教育思潮が斯うなつたから家事科も世に出たといふ如き他に

依存する考へ方には賛成することが出來ない。勞作でなければ本當の教育が出來ない。體驗させるでなければ本當の教育にならない。實踐でなければ教育は駄目だといふ教育觀の更改から出發して、そこに家事科の眞の重要性を認識するでなければ聊か心細からざるを得ない。

右の立場が確立することによつて、實習は家事科の生命であり、そこに口舌のみの教授に満足出來ないものが確と握り得られるであらう。私は我が國の家事科教師がこの點に目覺めて貰ひたいと期待するものである。

實習による教育

實習による教授は直接經驗の確立であり従つて生活基礎の確立であり其の訓練である。教育の生活化といふことをいふが、それは從來の教育の偏向を矯めて本道に引戻さうとする叫びに過ぎない。教育は生活化ではない。生活そのものであり、その擴充でなければならない。之について東京女高師倉橋教授の所論は頗る傾聴に價するものがある。

家出息子の復籍

家出息子の教育が、生家たる生活への復籍のために、入れ替へなければならぬ性根といふのは、つまり生活の現實性である。生活から生れながら、其の實家の生きた稼業と暮しとから抽け出して、今の必要、

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

目の前の必要、此のため、あれのため、といふ切迫とは没交渉に、たゞ漠然と、將來の必要、豫想のためとばかり、知識としての知識、練習のための練習に打ち込んでゐる間に、いつの間にか忘れて仕舞つた「生活現實感」の取り戻しである。

なる程、現實から離れて、學問に遊んだり、思考に耽つたりしてばかりゐるお陰で、俐口にはなり、巧者にもなり、殊に、課題の前には立派な答案の述べられる口達者にはなつてゐる。しかも、永らく現實から離れてゐるために、目はよく見る力を持つてゐても物が見つめられず、足はよく力を持つてゐても土が踏みつけられず、わけても、手はよく働く力を持つてゐても仕事がつまれない。なんだか空に、なんだか浮いてゐて、生活そのもの、肝心の性根がぬけてゐる。之れでは、生活が、あいそをつかすのも無理はない。

然らば、どうしたら、此の家出息子の性根が入れられるか。それには、傍から叩かれる必要もある。

極端に云へば存分に赤恥かゝされる必要もある。一體が、ひとりよがりも傍からさせて仕舞つたところが多い。それを一つ、うんともんでもらはなければならぬ。はつきりと目をさますやうに、どやしつけてもらはなければならぬ。しかし、何といつても一番必要なことは、自分で氣のつくことだ。聊かおひとよしで思ひ上つてゐた心もちを、ぐつと謙遜なものにしなければならぬ。世間知らずで呑氣に構へてゐた氣分を、ぐつと引きしまつたものになければならぬ。先生々々といはれてゐるが、それは生徒への先生で、生活から見て先生といはれるものか、といつたやうの處まで、自分といふものを洗つて見なければならぬ。

ばならない。

それから又こんなこともある。——一體、生活の親ではなくて、息子であつたものが、實際に對して頭の高い顔をしてゐるのは、卸し問屋格の「學問」を笠に着てゐるからだといふことである。

勿論「學問」はえらい。その間口の廣い店構へも、奥深い大土藏も、生活が擡頭してお世話になるに足る偉大である。しかし、吳々も區別して置かなければならぬのは、賣捌きも小賣りなのである。それを忘れてきも、自分が卸し問屋であり、更に製造元でもあるかのやうにお高く構へるのが、教育の常である。

勿論、賣捌き店として、問屋との格別な近い取引もあり縁故もある。一寸見ると、親類でもあるやうに見受けられたりするが、教育は決して「學問」の養子といふ譯ではない。家出息子として、此頃は専ら「學問」の方へ身を寄せ、生れ實家の生活を見かへりもしなかつたりするそぶりを見せるのは、全く以て身の上知らずの不心得たるに過ぎない。「學問」のところへ近々と出入してゐる間に、自分も大旦那でもあるやうに、うぬぼれてゐる自己幻覺に他にならない。こゝを一つ、充分にはつきりと區別して、そのほんとうの身上を知ること極く必要のことであるやうだ。「學問」は元來が大通りに店を張つてゐるのでないから、現實と離れた存在も立派につづけられるものだが、教育はそつといふ筈のものでないからである。(倉橋惣三氏、雑誌「兒童教育」)

教育が「科學より教育へ」でなく、「生活より教育へ」である時に本當にそれは生きて來る。而し

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

て元來然うあるべきものが然うでなかつたのは一種の偏向であつたが、之は或は發達の一徑路として止むを得ないものであつたのかも知れない。教育が生活擴充である時に、家事科は實習中心たらざるを得ない。如何となれば實習に據らざれば家庭の實務は擴充されないからであり、而してそれは實務の教育にならないからである。

**何ゆゑ目刺魚を添へるか** 例へば「食物」の教授に於て、營養素として蛋白質・炭水化物・脂肪

……を教へたとする。考査の時に兒女がそれを立派に答案に書いたとする。教師はそれに満點を與へたとする。兩三年経つて兒女の腦裡から其の營養素の名前が消えたとする。其のどこに教授の效果があるのか。だが、牛蒡と大根葉を油でいためたおかず、に目刺を添へた方がよいといふ實習をしたとする。目刺は骨まで食べた方がよいと教へたとする。この實習は一つの副食物の教授には過ぎなかつたであらうけれども、安價な「目刺」といふ魚の價値に就いては十分な經驗を有たせることが出来るであらう。若しこれが認識されたとすれば、目刺に似た魚、例へば様々の雜魚でも之を配合することによつて立派な食物が得られることを理解し得るであらう。かうなれば營養素の名前は萬々一忘れたとしても、鰯や鰯の使ひ方は決して過たすに心得得られるであらう。

これが實習の效果である。が然し、この實習もやがてはそれから歸納された或原理に到達して、その原理から食物の調製を試みるまでに展開させたいものである。かくなつてこそ原理は生活への基礎を與へ、そこに生活の發展はみられるであらう。

**實驗も經驗の擴張** 私は以前から理科に實驗のあるが如くに家事科にも實驗のあるべきことを主張して來たものであるが、將來は是非然うあらねばならぬものと今でも信じてゐる。例へば

木綿の漂白を教へるにしても、漂白液を指定して一度試みさせるばかりでなく、布の損じたのは如何なる場合であつたかの如きは失敗を實驗するものであつて、是一種の經驗の擴充である。勿論小學校に適切な實驗は數多くあるわけでもあるまい。が實驗によつて直接經驗を得させることの必要が感じられれば、如何なる場合にも試みうるべきものであると考へてゐる。それがためには現代の如く項目を羅列し送迎する事に何等の不思議感もないやうな教授では駄目である。

**垢染みた手拭一本** 農村の生活に即した指導といふことは其處なる眼前の事實に就いて指導することである。例へば「纖維と織物」の教授に於いて、その觀察を十分ならしむべき標本を準備することは勿論であるが、兒女の持參するものは垢染みた手拭でもタオルでも敢へて斥くべき

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

ではない。私は曾て「木綿織物」といふ授業を觀たことがある。この時意外に思つたのは其の先生は一向に標本も何も示さずに木綿織物は何で出来て(原料)ゐますか。何故に吾々は木綿の着物を着るのですか。多く使はれるのは何故ですか等のことを盛に質問して板書してゐた。私は授業後「手拭」も「浴衣」も木綿であることの具體的な事實から出發しては何うであつたかと聞いてみたが、其の先生は一向に賛成しなかつた。何うも農村々々といひ、農村に即した家事などいふ者もあるかと思へば、一向に左様なことには無頓着に、唯教科書を教へよう教へようといふことのみ専念してゐる教師のあることは不思議のやうにも考へられる。

〔四〕 所謂「指導案」の革新

教案不要論に就て 一時、一部の人達によつて「教授案不要論」が盛に唱へられたことがある。その謂はれば、兒女は要するに活物であるがゆゑに、教師が豫定する計畫通りに動くものではない。動くものでないものを、計畫通りに動かさうとするのは兒女の自發活動を拘束するものであつて、活きた教育は左様なことによつて出来るものではないといふにあつて、かなり若い

人々の血を躍らせたものである。勿論、私も兒女が活物であることに異論はない。従つて兒女の活動性を無視するをいふといふものでは決してない。けれども、教育をしようとするからには教育の豫定といふものがなければならぬ。兒女が何う向いて行かうと其の時の風の吹き廻しに任せておかうといふならば教育は結局成立つものではない。如何となればかくの如き放任野飼ひは兒女をして決して正しい本道を歩ませ得ると限らないからである。ゆゑに、正しい教育はそこには計畫といふものがあるべきであり、その計畫が一時間乃至數時間の授業に於いて教案といふ形式をとることになるのである。勿論、教授は教案が主ではなくて兒女の學習が主であるべきがゆゑに、兒女の活動を本態とすれば、時に教案通りに行かないこともあるかも知れないが、それは勿論豫期すべきことであつて、それが爲めに教案の存在を否定すべきではない。

一時、氣分教育といふ言葉が現はれて、兒女の氣分の向くところに指導をして行くのが本當の教育だといふ議論が起り、その氣分のことを考へると教授案などいふものは存在すべきではないといふやうなことも唱へられた。然し、これも亂暴な議論であり、兒女の本性を眞面目に考へたものとは考へられず、教育の眞義に徹してゐるとも考へられない。否、寧ろかくの如き議論は教

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

授案萬能の教授、教案に絶大の權威を認めた教授の革新としては意味をなすが、それを以て中正な考へ方、本道を歩むものゝ姿とは考へられない。

萬年教案について

若し兒女の生活が畫一的なものであり器械のやうなものであり、而して教育の觀方に何等の進歩もないものならば、一度立案した教案といふものは如何なる兒女、如何なる場合にも適應出来るであらうが、兒女が活物であり教育の方針が常に偏向を戒めて中正に就く場合には、所謂萬年指導案はその要をなさないことはいふまでもない。世にこんなことをいふ者がある。「凡そ教育界に古色蒼然たるものを求めたならば、それは恐らく教則であり教案であらう」と。論者のいふことに一理はある。私も必ずしもそれを絶対に否定し去るものではないが、さりとて之に全幅の賛意を表するものでもない。如何となれば教則の如く抽象的な言葉によつて表現されてゐる思想なるものは、之を解する人々によつて淺くも考へられ、深くも考へられる。即ち、ひとしく月を見ても、或は「月見れば千々にものこそ悲しけれ」でもあれば、「この世をば我が世とぞ思ふ望月の」でもあり得るのである。これは主として感情の場合であるが、教育を考へる考へ方に於いても、或は深くも淺くも考へ得られる。而してそれがやがて教則を解するこ

との深淺となるのである。ゆゑに、現代的新思潮に棹してゐる者には新しい解釋があり古色蒼然たる考へ方の者には新味のない解釋に終り易いのである。

之を教授案に就いてみても、其の名前が「學習指導案」となり學習計畫案と變つても、教育の觀方が淺ければ結局内容的には何等の革新をも意味さないことになる。教授が指導に變り、學習が作業に變り、教師が指導者に變り、指導が輔導に變つても、其の實質に何等の變革を有たない教育ならば、それは朴念人が着物を着替へたに過ぎないもので、實質的には結局朴念人たることに於て變りはない。

最近某縣の中學校・高等女學校の教授の實際を視察した人の話に、「一般に教師は教材に對する知識が不十分であり、生徒に十分な理解を得させようとする熱意と努力が足りない。校長は亦各科の教師がどんな教授をしてゐるか、良心的に努力をしてゐるかどうかを常に視察して、或は戒め或は獎めて學校の教育を常に引きしめて行く用意を缺いてゐる。」

この適切な非難はまた縣下の小學校にもその儘向けられるであらうことを恐れる。教へる教材の研究や準備に熱心でなく、起り得べき訓練の問題について周到の用意がなくてどうして眞劍な



第六 家事科指導の方法に就て

眞面目な教育ができよう。ことに校長は事務に忙殺されて其の教員の授業、勤惰の考察、誘導に奮勵する精神がなければ、學校はまさに有機體としての活力と生命とを喪失する」と。

これは此の頃の或雑誌に出た教育漫筆であるが、結局教育は人の活動であり、その深かるべき人生觀・教育觀に依るべき以外の何ものでもない。教授案の問題亦然りである。

革新の重點は何？ 或人はこの問題に就いてこんなことをいつてゐた。

「所謂教案なるものは、教材を中にして、教師と兒童とが直接間接に交渉することを考慮して立案さるべきもので、教材、兒童、教師の縦的關係を明瞭にすると共に、横には其の各の發展が瞭然としてゐるものを考案すべきである。又、從來の教師の作業を中心にしたものを打開して兒童の作業を本體とした案を作成し、作業精神の横溢したものを現出したい」と。

この言には私も賛成である。從來の指導案なるものが如何にも一定の型式に捉へられてゐたことはいふまでもなく、そこに記載するところは教師中心の作業が主であつて、兒女の作業を中心とする色彩の稀薄であつたことは事實である。例へば教材と稱して教師の説話要項のみを詳述したものが入念の指導案とされてゐたものも其の謂ひである。ゆゑに、表面だけは如何にも活動的

な指導案の如くであつても、其の實際は兒女に重壓を感じしむる指導が多かつたやうである。この點は今後の革新點として實際家の猛省に値するものではないかと考へてゐる。

指導案の一例 左は私の知人が實施した食物指導案であるが、萬年指導案とも思はれないところがあるので借用しておく。

▲高等科二年家事學習指導案▼

一、教材 鶏卵のうす焼(實習)

二、豫定時間

イ、鶏卵について

- 1、理科にての研究の要點の復習
- 2、栄養分についての調査
- 3、選擇法の研究
- 4、調理法の研究

一時間

ロ、實習

- 1、鶏卵のうす焼
- 2、食品配合の研究
- 3、應用……自由研究

二時間

- 鶏卵のうす焼……一時間(本時限)
- 大根おろし(葉とも)
- 應用……一時間(自由研究)

三、目的

本時は前時間の學習に於ける實際の指導をなすものであつて、兒女的選擇した鶏卵について批判を與へ

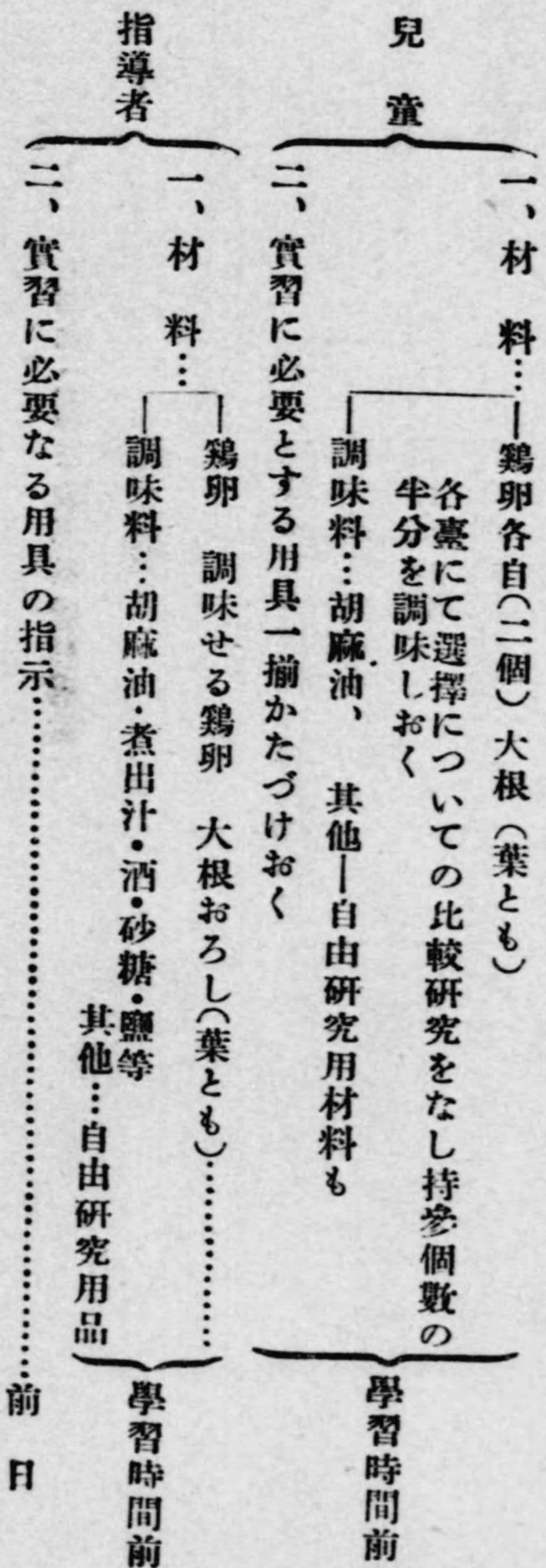
第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

鶏卵調理の一方「うす焼」の實習によつてその焼き方を會得させると共に、食物としての配合上の研究を積ましめ、更に時間後の自由研究として「すし」をつくらせ、以て前時の實習を訓練すると共に、兼ねて調理に對する趣味をもたせ、秩序・清潔の良習慣を培ひたい。

四、準備



五、指導法

- (1) 目的指示
- (2) 實習前研究
- (イ) 選擇して來た鶏卵に對して

(ロ) 焼き方……焼き味の良否は物の焦げる温度の適否によるものである事から

○火力に對する考察

○焼きながら注意する點

○大根おろし、葉は細かに刻んで入れる。

(3) 實習上の注意

(4) 實習

○時間を浪費することなく研究的に

○指導

- ・ 焼き方示範……三組位づゝ(其の時手あきものは自由研究の支度を)
- ・ 机間巡視指導

(5) 整理

(イ) 反省—相互的に…… ○焦げ色……水分の失せ加減から

(ロ) 食物としての配合についての研究

(以上)

卑見を以てすれば、實は此の指導を活かすためには實習以前に於ける兒女の研究そのものが重要な意味をなし、その研究に立脚してこそ活きた指導も出来るであらうとは考へるが、方今、か

第六 家事科指導の方法に就て



第六 家事科指導の方法に就て

る施設に缺くるところのあるは残念である。例へば兒女の研究の手引といふ如きものも、學者の著述でない、いはゞ學習文庫の如きものがあつて、それが兒女の力を活かして行くやうにありたいものであると考へてゐる。現今、小學校に於ける此の種の手引として女學校用の家事教科書などの用ひられてゐる向もあるが、實はそれでは本當の手引にはなつてゐない。如何となれば家事教科書の如き記述は寧ろ復習用受験準備には適當でもあらうが、豫習用としては極めて不完全のものが多からである。

そこで、必要になつて來るものは教師の作成するプリントである。手引である。これこそ兒女の程度と環境と設備とを考慮に入れた立案であるがゆゑに、兒女に恰適なものであるべき筈である。右の指導案の如きも斯うした施設の上に立つてこそ兒女に十分な指導が期し得られると考へてゐる。

第七 教材の吟味と指導法の研究

〔第一課〕 女子と家事 (一時間)

一、要 旨

家事科とは如何なる教科であるかを知らしめ、女子の天性が家事を掌るに適してゐること、及び家事に就いて研究し生活の改善を計るは家庭のためにも國家のためにも極めて必要な所以を知らせる。

二、教材の吟味

教科書の本文は次の三部より出來てゐる。

- (一) 女子が娘とし妻とし母として引受けてなすべき家庭内の用務の多いこと。
- (二) その務めの處理の適否は一家の幸不幸、延いては一國の盛衰に關すること。

第七 教材の吟味と指導法の研究



第七 教材の吟味と指導法の研究

(三) その務めを完全に果たすためには如何にすべきかを研究するのが家事科である。

これは家事科の總論である。而して家事科は家庭の實務に關する事項を研究するのが主眼である。然し、實務といふものを精神から切離して考へることは出来ないことであり、よくないことである。そこで、私は、この實務も、實は「家」の精神の具現であることによつて活きた實務となり、それによつてのみ、家庭の實務は一家の幸不幸、延いては一國の盛衰に響く所以を強調しなければならぬと思ふ。

人を一個の動物として取扱ふのでもなく、器械として取扱ふのでもなく、更に兒女を一介の家政婦として遇するのでもなく、實に、日本の少女日本の母として遇するのでもなければならぬと思ふ。「家」の經營に於いて女子に重要な任務と責任とがある限り、日本の國家と家庭とが有機的神秘的な一體である限り、この精神に則るところがなければ家庭内の實務は遂に一個の器械運動に過ぎなくなるであらう。

それが爲めには、修身科に於ける左記各課とは緊密な連絡がなければならぬ。

尋五、第十八課 主婦の務

尋六、第七課 祖先と家

尋六、第二十一課 男子の務と女子の務

高一 第三課 家

更に、家事科の内容に就いては、教科書の「目次」を通覽すれば知ることが出来ると共に、かくして目次の活用も忘れてならぬことである。が、更に一步を進めて其の内容を的確に理解せしめんが爲めには、目次と母姉並に兒女等の實際活動とを連絡せしむると共に、恰適な實例を以て其の實務の忽にすべからざる所以を納得せしめなければならぬ。

總じて本課の如き内容の取扱ひは動もすれば無味乾燥に陥り易く、兒女をして家事研究の興味を惹起し得ざらしむる虞が多分にある。これは主として形式的に抽象的な言葉を連ねて説話することによつて、教師のみが満足する結果に外ならぬ。故に、今後の家事教授はかゝる貧弱さから蟬脱して、活きた精神を吹込むことにより、兒女の家事研究的志氣を鼓舞するところがなければならぬ。左は獨逸に就いての一例であるが、感激に富む生活の持主である兒女に對しての説話資料として採録した。

第七 教材の吟味と指導法の研究



第七 教材の吟味と指導法の研究

○ 獨逸婦人と三つのKの精神(参考)

最近英國の女流代議士のウイルキン女史がナチス黨治下の獨逸へ旅行して、つぶさに彼のヒットラー指導の下にある獨逸婦人の現狀に就いて觀察した所を發表した。

女史の語るところによると、獨逸の婦人達は政體や政策には無頓着で、戦時から戦後へと一生懸命に獨逸復興の實際的仕事に従事してゐる。「獨逸の復興は臺所から」と云ふことが獨逸婦人間の標語となり、次のような五つの根本條件を定めて臺所の建直し運動に熱心に従事してゐる。

第一、家内に怠け者があつてはならぬ。

第二、時を浪費してはならぬ。

第三、力を浪費してはならぬ。

第四、物を浪費してはならぬ。

第五、働くにも遊ぶにも無計畫であつてはならぬ。

斯の如き堅實眞摯なる精神が勃然として彼等獨逸婦人の間に躍動したのは、從來獨逸帝政下に於て長年婦人の間に培養されて居た美しい三つのKの精神に基くものであると云はれてゐる。三つのKとは第一、教會(Kirche)、第二、子供(Kind)、第三、臺所(Kueche)を意味してゐるもので要するに堅實なる家庭婦

人たる事が婦徳とされて居るのである。

然るに戦後共和政體となつた時に婦人の権利がワイマールの新憲法に依つて認められ獨逸婦人は世界に於て一番法律上自由な公民となつたのである。從來家庭に閉ぢ込められた獨逸婦人は一躍して如何なる國家の重職にも就くことが出来るようになった。これが僅か四年間の出来事であつた。そして幾千幾萬の婦人は忽ちにして各種の高級なる職務に就き市政に國政に社會事業に就いたのである。

ところが、社會組織や政體は急變し得ても其下の獨逸人は昔からの獨逸人であつて、かゝる急激なる變化に順應し得なかつた。そして今やヒットラーが起つて國粹主義の旗印の下に極端なる社會建直し運動を始め、一舉にして婦人を社會の要職からすべて免職してしまつた。そして婦人は再び家庭に歸り其處に唯伏の生活を送れと宣言した。氣の毒なのは獨逸婦人である。

以上は英國女流代議士ウイルキン女史の見方であるが、獨逸婦人は家庭婦人として獨逸復興事業に貢献することに満足してゐるところに獨逸婦人の貴さがうかがはれるのである。

三、教材の主眼點

教科書の本文を基準として教授の主眼點を定むれば次の如くである。

(一)女子と家庭内の用務

(二)家庭實務の處理と國家の消長

第七 教材の吟味と指導法の研究



(三)家事科とは

四、指導法概説

理論的な説明に  
は感激がない

本課の指導は自然説話が主となるであらう。従つて其の説話の内容に就ては豫め工夫の要がある。例へば「家庭が集まつて國家となるのであるから家庭の幸不幸は國家の幸不幸となり、家庭の消長は國家の盛衰となる。故に女子が家庭を立派に經營してゆく事は國家を隆盛に導くことになる」と理論的に説明することも必要だが、兒女をして緊張して聽かせ感激をもたせるにはそれだけでは駄目である。それには前述の獨逸の例などは國民的意識を緊張せしむるに恰適である。

直接経験  
に根ざせ

家庭實務の處理が一家の幸不幸に關することも實例によつた方が宜しい。特に實務處理上の不斷の修養の必要を實例によつて説くことが必要であり、更に、兒女の失敗の引例なども効果的であらう。必要だ・必要だと抽象的な言葉を並べるよりも、失敗の實例・經驗(直接經驗)に立脚して其の必要を痛感せしむることは教授法の要諦である。直面した失敗が眞に失敗だと痛感することは生活内容の擴充である。指導法の原理にも述べてお

いた如く抽象的な言葉は其の効果が極めて薄い。假令、教師の板書した表解などを十分に記憶したとしても、それは決して實踐への發足とはならぬ。

例へばお勝手のガスのネヂの不用意から家人が危うく死ぬところであつた例も珍らしくなく、小兒の疫病を放つて置いて死に至らしめた例も少なくはない。また、「塵箱の中の鼠は成育が良好である」ことは主婦が榮養分を無駄に捨てた結果の立證であり、「主婦の無智」の別名でもある。

不合理不經濟  
生活への批判

更に從來一般に行はれてゐた生活上の不合理事項・不經濟事項等に批判を與へ、今後の改良に俟つべきを知らせるも必要である。例へば歐洲大戰の際、ドイツは四面敵國に圍まれて食糧の封鎖を受けた。その際、馬鈴薯の皮を生を儘でむくことを嚴禁した。それは馬鈴薯の皮を生を儘でむくのと、茹でて自然に上皮が指先でむける程度にしてむくのと、何れが可食分不可食分の處理に於て經濟上當を得てゐるかといふ無駄なき生活への精進なのである。些細な問題の如くではあるが無關心で居られる問題ではない。長らく日本にゐた或外人が「日本全國の家庭の主婦が現在の臺所の無駄を省くことによつて一萬噸級の巡洋艦一隻は樂々だ、」といったといふ。これは不經濟に關する例であるが、不合理な例も幾つかある。



第七 教材の吟味と指導法の研究

例へば米の搗精によつて剝脱された糠には貴重な成分が多分にある。それが證據には糠から先づ油を絞る、その残滓でビスケットを製し、養魚の餌料にも利用され得る。故に糠を捨てることは養分の損失なのである。然るに米はなるべく白いがよい、銀色が上品であるとし、搗粉を用ひて極度に精白し、それによつて淘洗に際して養分の損失を敢てしてゐる。加之、脚氣病・白米病などを誘發してゐることは米の用法の不合理を物語るものである。長い間の習慣ではあるが打破すべき習慣である。

家事科内

家事科の内容に就ては、衣・食・住・育兒・看護・經濟など、抽象的な分類を鸚

容の取扱

鵝返しにいはせる必要はない。内容は「目次」でも分るし、代表的な事項を

擧げて分る。要はかゝる家事研究の興味を起させるにある。

兒女相應の

子供には子供相應の家庭實務がある。子供は此の仕事を分擔する事によつ

家庭實務

て家庭生活の充實向上に貢獻することになる。勿論、一口に分擔といつて

も各家庭によつて其の事情は異なる。毎日掃除だけを分擔すれば足る家庭もあらうし、母代りに飯を炊き小兒の世話を分擔すべき家庭もあらう。だが、その何れの家庭にもせよ、働くことを人

の本分とし、その働きをして合理的に且つ經濟的ならしむべきやう心掛ける必要を覺らしめなければならぬ。

〔第二課〕 掃 除 (一時間)

一、要 旨

掃除の目的を認識せしめ、其の方法に科學的な改善を加へさせると共に、之を實踐させることによつて生活改善の資とする。

二、教材の吟味

私は此の教材を家事科の時間中に取扱ふことを疑ふものである。四十五分授業の一時間で、其の必要を述べたり、種類による分類をしたりする事に何ものを期待したらよいか。私は其處に少なからぬ疑問をもつものである。如何となれば、掃除は平時に於ける指導、而も實地の指導、平常に於ける訓練、それでなければならぬと考へるからである。されば、平時の教室掃除、便所掃除、庭掃除等に於いて、其の場所其の事情に適應した掃除の方法を指導し、それを家庭に於ける